

# 国立国会図書館所蔵小杉文庫について

大沼宜規

〔解説編〕 小杉榎邨と国立国会図書館所蔵小杉文庫

## 一 はじめに

国立国会図書館は、多くの特徴ある名家旧蔵コレクションを所蔵している。これらは、国立国会図書館やその前身の帝国図書館、東京図書館などが寄贈をうけたり、購入したりして、長い歴史の中で収集されたものである。

その一端は、昭和57年から59年にかけて、「西欧学術の探求」「古典籍探求の軌跡」「日本の暦」にテーマをしぼって開催された「個人文庫展」などを通じて、紹介されてきた<sup>1</sup>。さらに、白井文庫・伊藤文庫の一部の資料は、当館ホームページ貴重書画像データベースに搭載され、現在では容易に目にすることができる<sup>2</sup>。

それらのコレクションは、所蔵図書目録に表示が付されたり、コレクション目録が作成されたりしているものも多い。たとえば、江戸時代後期から明治時代にかけて活躍した国学者榊原芳野（1832-81）旧蔵の榊原文庫は、『東京図書館和漢書分類目録』（明治18年）に「榊」と表示が附され区別できる<sup>3</sup>。また、同時期の国学者根岸武香（1839-1902）旧蔵の青山文庫は、独自の『帝国図書館所蔵青山文庫和漢図書書名目録』（昭和10年）が作成され、その全貌を知ることができる。

今回紹介する小杉文庫は、榊原や根岸と同時期の国学者で国史・国文学者でもあった小杉榎邨（1834-1910）の旧蔵資料で、前述の個人文庫展「古典籍探求の軌跡」でもとりあげられた特徴あるコレクションである。だが、小杉文庫は榊原文庫や青山文庫に比較して小規模であり、また散逸した小杉榎邨旧蔵資料（以下、「小杉本」と称す）の一部にすぎないこともあってか、コレ

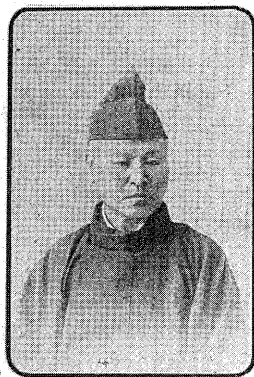
クション目録が作成されたことはなかった<sup>4</sup>。そこで、今回は国立国会図書館所蔵小杉文庫の目録・細目を提示するが、それに先立ち、本稿では小杉樞邨と当館の小杉文庫について解説していきたい。

## 二 小杉樞邨小伝

文庫の旧蔵者小杉樞邨の生涯を簡単に述べよう<sup>5</sup>。小杉樞邨は、阿波蜂須賀家の陪臣小杉明真の男。天保5年（1834）徳島生れ。幼名発。真瓶、樞邨と称し、杉園、春蘭と号した。若年のころから阿波の古事に関心を持った小杉は、早くから古記録・古文書を筆写収集した。安政元年（1854）には、主君西尾志摩（蜂須賀家家老）に従い江戸に出府、紀伊藩邸内古学館の本居内遠に入門する。古学館では、江戸派国学者の重鎮黒川春村（1799-1866）、村田春野（1801-71）や、その後長く交友関係の続く小中村清矩（1821-95）、久米幹文（1828-94）、本居豊穎（1834-1913）等の知遇を得た。

その後、藩内の尊皇・佐幕の争いに関与して幽閉された小杉は、その間「万葉集」「古事記伝」などを精読する機会を得るとともに<sup>6</sup>、「遺存古文書考証」「本国風土記名跡考」を構想する。謹慎をとかれた慶応3年（1867）以後は『阿波国地誌』の編纂にあたり、「土御門院天皇御遷幸旧跡考」を著すなど、阿波の歴史に関する文献調査・研究をすすめていった。

明治2年（1869）に徳島藩士に列してからは、徳島藩校長久館国典助教、宣教使、翌3年には徳島藩権少属となり、知事の文案起草などに関わった。同7年には教部省考証課に出仕し、中央での活躍の場を得る。その後、内務省社寺局（明治10年）、修史館（同11年）、参謀本部総務局詰（同12年）、「古事類苑」編纂専務（同14年）を経て、明治15年、国学の再興を企図して設置された東京大学古典講習科准講師となり同19年まで勤務した。これらの諸官署では、全国的な古文書・古記録の調査の機会を得、また古典講習科では「栄花物語」「令義解」の講義を担当した。出仕した職場では小中村清矩、飯田武郷（1827-1900）、栗田寛（1835-99）、



小杉樞邨肖像（『大八州雑誌』127号  
明治30年1月）<雑55-4>

木村正辞（1827-1913）などとともに仕事をしている。

明治19年東京大学を非職になった小杉は、同22年に帝国博物館に出仕、翌年には臨時全国宝物取調局書記兼鑑査掛に任命され、宝物調査に従事した。その記録は、『鑑定筆記』（天理大学附属天理図書館所蔵）<sup>7</sup>、『関西地方古書画古器物縦覧調査記録』（早稲田大学附属図書館荻野文庫所蔵）などに残されているが、精力的な調査を進めていることが分かる。こうしたなかで、美術史・工芸史の研究にも活躍の場を広げ、『大日本美術史』（明治28年「書法の部」のみ刊行、30年全編脱稿）をはじめ、美術・工芸関係の多くの論文を記した。

一方で、晩年も古文書・古記録の調査や、古典の校勘などの活動も続いていた。明治34年には東大寺文書の調査研究の功績により文学博士号を与えられ、歿する直前まで『阿波国徴古雜抄』（歿後刊行）の編集にあたっている。また、歌人としても活躍し、御歌所参候ともなった。明治43年（1910）77歳で歿。国学者らしく、歴史・文学・美術研究等、日本の文物に関する幅広い調査研究活動を行なった生涯であった。

### 三 小杉榎邨旧蔵資料の散逸と現在の所蔵機関

小杉榎邨は、「書物に対しては殆ど寝食を忘れる位」<sup>8</sup>であったと語られる蒐書家で、その蔵書は、幾度も修史館や帝国大学史料編纂掛の採訪を受けるなど、存生中から高名なものであった<sup>9</sup>。だが小杉榎邨歿後、その蔵書は、親交の深かった歴史学者萩野由之・喜田貞吉・和田英松などの心配にも拘わらず<sup>10</sup>、売却され入札にかけられるに至った<sup>11</sup>。その分量は「馬力の四輪車に二台位」、会場となった「青柳の二階は一杯、下も一杯」で、小杉自筆の写本が多かったほか、古版本・版画・古鈔本、「名家の自筆本に小杉さんが書き入れたもの」等もあったという<sup>12</sup>。これら売却された蔵書の一端を、具体的に三村清三郎（竹清）が次のように記している<sup>13</sup>。

其中に梁塵秘抄の原本ある筈なりとて鶴鶴博士行方を搜られたりしを知れり。芸香堂買物の中に狩谷棧齋標記の懐風藻あり、三分一は水くされなりしが十五金にて博士求めぬ、小山田与清旧蔵の字鏡集、十数本にて比校したる古事記、西田直養の金石志、保井春海の長曆二冊、阿波国文庫の印ある観古雜帖、松崎慊堂の尺準考、小山田与清書入の歌詞三絃考二冊、屋代輪池の紀行日記類を合綴したるもの数冊、其他小杉博士自ら

写し置かれしもの多かりし。これ等今いづくの架上にか存せる。

この売立時には「二、三寸」の厚さを持つ目録が作られたようであるが<sup>14</sup>、それを含め小杉本を網羅した目録は確認できない。そのため、三村が記したとおり、小杉本の行方、そしてその全貌は現在のところ知るよしもない。だが、現在の主な所蔵機関について、松野陽一氏は、当館のほか静岡県立美術館小杉文庫、北海学園大学附属北駕文庫、東京都立中央図書館、国文学研究資料館史料館を<sup>15</sup>、『国立国会図書館百科』は、そのほか東京国立博物館、東京大学史料編纂所を挙げている。一方、川瀬一馬氏によれば、和田維四郎（雲村）が小杉本を収集したとのことであり<sup>16</sup>、雲邨文庫は、現在東洋文庫内の岩崎文庫と大東急記念文庫内の久原文庫に分蔵されている。そこで、当館については後に詳述することとし、残る8機関について所蔵状況をみてみよう。

- ① 静岡県立美術館 藤江家に伝わった古典籍・書画・拓本類347件。美術的なものが多い。『藤江家旧蔵小杉文庫目録』『小杉文庫名品抄』参照<sup>17</sup>。
- ② 北海学園大学附属北駕文庫 『行啓記念北駕文庫蔵書略目録第一巻』『小杉博士の部』によれば、古典籍類、神祇関連資料を中心に130件がみられる<sup>18</sup>。
- ③ 東京都立中央図書館 『加賀文庫分類目録』中に、庭園関係、和歌関係の書籍など8件がみられる<sup>19</sup>。蔵書印の情報は掲載されていないため、小杉榎邨の編綴本や書写本以外については未詳<sup>20</sup>。
- ④ 国文学研究資料館史料館 『史料館収蔵史料総覧』により『小杉榎邨収集文書』および『徴古雑抄』2件331点が確認できる<sup>21</sup>。前者には『東大寺正倉院文書』の写本なども含まれている。
- ⑤ 東京国立博物館 『東京国立博物館蔵書目録』和書1-2によれば、神祇、歴史、考古関係資料中心に133件がみえる<sup>22</sup>。小杉榎邨の書写本及び蔵書印がある資料を抽出した<sup>23</sup>。
- ⑥ 東京大学史料編纂所 『小杉美二郎氏ヨリ購入書類目録』及び「所蔵史料データベース」によって、20数件の資料が所蔵されていることが分かる<sup>24</sup>。古経典などの善本が多い。また、小杉榎邨および養嗣子美二郎への史料採訪の結果収集された、小杉本の写本や写真も数多く収蔵されている。
- ⑦ 東洋文庫・大東急記念文庫 岩崎文庫を悉皆調査したところ10件、『大東急記念文庫書目』から9件の小杉本が確認できた。<sup>25</sup>

各地の図書館に四散した小杉本の全体像を復元することは困難であるとはいえ、主要な機関に残されている小杉本と小杉榎邨の生涯・著作を併せ考えると、古典籍・古文書の網羅的収集に加え、神祇関係、美術・工芸関係、歴

史・考古関係の資料を多く所蔵していたと推定できる。

それでは、こうした資料群のなかで当館の小杉文庫の特徴は、どのように  
把えられるであろうか。次節においてみていきたい。

#### 四 国立国会図書館所蔵小杉文庫の収集と特徴

現在、当館に所蔵している小杉文庫は、いかに収集され、いかなる特徴があるのだろうか。個々の書物については目録及び必要に応じて記した説明をご覧くださいととして、まずは全体像を確認していこう。

当館の小杉文庫は『国立国会図書館蔵書印譜』の「小杉楹邨」によれば「94点」、『国立国会図書館百科』の「小杉文庫」によれば「100余点」と記されている。点数に差異があるが、おそらくこれは、小杉文庫の範囲の認識の差によって生じたものであろう。小杉文庫は大正2年から3年にかけて数回に分けて収集された資料群とされるが<sup>26</sup>、管見の範囲では小杉本の購入自体は大正2年から昭和9年に及ぶ。両者とも明確には記していないが、小杉文庫をどの範囲まで含めるかによって、自ずから点数は異なってくるのである。そこでまずは、当館所蔵の小杉文庫の範囲を検討していきたい。

それでは、当館所蔵の小杉本の購入日と購入件数を確認してみよう。

購入日	件数	請求記号
①大正2年7月9日	44件	830-1~39、亥二-78~82
②大正2年7月21日	27件	830-40~66
③大正2年12月12日	20件	830-67~86
④大正3年5月27日	1件	830-87
⑤大正3年10月2日	1件	830-88 (WA7-126に分類変更)
⑥大正3年11月5日	1件	830-91
⑦大正4年2月16日	1件	830-103
⑧大正4年4月20日	1件	830-106
⑨大正5年4月21日	1件	830-134
⑩大正5年7月8日	8件	830-135~142
⑪大正5年9月22日	1件	ひ-84 (寄別3-3-3に分類変更)
⑫大正8年12月9日	1件	830-159
⑬大正11年12月9日	1件	830-178
⑭大正12年7月16日	1件	831-110
⑮大正12年12月25日	1件	830-182

⑯昭和8年12月20日 1件 ね-43 (わ216-1に分類変更)

⑰昭和8年12月20日 1件 830-205

以上112件の資料が確認できる<sup>27</sup>。そこで、核となる大正2年から3年までの購入分(上記①～⑥)をみてみよう。総計94件となり、当館所蔵の小杉本の8割を越す件数がこの時期の購入であることが分かる。これらの資料は、折本という形態によって分類されたと推定される「亥二函」の5件を除いて、その全てが「830函」に収められている。このようにみていくと、原則的に小杉文庫は830函に収められたと考える事ができるであろう。

そこで、次に大正4年以降受け入れられた18点をみてみよう。大正5年購求の『諸織物縞本集帳』(⑪)、大正12年購求の『神楽大前帳』(⑭)及び昭和8年購求の『紀伊国古文書纂』(⑯)を除く15点の資料が830函に収められている。これらの資料は、大正2年から3年にかけて購求された小杉文庫を補充する意味を持っていた、と位置付けることができるであろう。

それでは、830函に収められなかった3件の資料はいかなる特徴があるのだろうか。『神楽大前帳』は『帝国図書館和漢書書名目録』第4編によれば、「屋代弘賢自筆」と註記されている。ここから、屋代弘賢の自筆本であったことが主な収集理由であったと考えられる。『諸織物縞本集帳』は貴重書に準じる「いろは函」に収められていた。これは小杉本で、かつ榊原芳野旧蔵書でもあり、布の貼込帳であるため、収集理由を特定することはできない。『紀伊国古文書纂』については、「いろは函」に収められていたが、『帝国図書館和漢書書名目録』第5編には、収集理由を推定できる要素は記されていない。いずれも小杉本であることが収集理由とは考え難いのである。

このように、「小杉文庫」は830函に収められた104件(うち1件は現在貴重書に分類変更)及び亥二函中の5件と捉えられる。したがって、「小杉文庫」の点数は109件と考えることができるのである<sup>28</sup>。前述の「94点」と「100点余」の違いの理由は、このような捉え方の差異であると考えられる。本目録では小杉文庫109件と、現在小杉本と確認している3件を紹介したい<sup>29</sup>。

つづいて、当館所蔵小杉文庫の特徴について、他館にも共通するものと、他館とは異なるものとに分けて見ていきたい。まず、他館の小杉本にも共通する特徴について、つぎの3点を挙げておきたい。

① 「不忍文庫」「阿波国文庫」本が多いこと。

「不忍文庫」は江戸時代の和学者屋代弘賢の文庫。「阿波国文庫」は蜂須賀家の文庫である。「不忍文庫」は屋代弘賢没後蜂須賀家に譲られ「阿波国文庫」中のコレクションとなる。これらの本を小杉榊原が入手した経緯については、

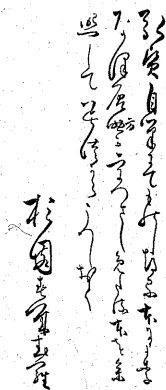
次のように記している<sup>30</sup>。

維新に際して、いまの<sup>(蜂須賀茂韶)</sup>正二位侯爵より、旧藩士の中に於て、篤学のもの、その望にまかせて、凡そ十部を限り不忍文庫本にても万卷楼本にても、わかちあたへんとの仁慈を施されし事ありて、榎邨も不忍文庫本及び阿波国文庫両印のもの、数部頒与をうけ（後略）

こうした例は当館所蔵の『法曹至要抄』〈830-14〉に、「維新ニ際シテ藩主公ヨリ申請ヒテ所蔵セシ（後略）」という識語があることから裏付けられる。だが、それにとどまらず、小杉は屋代弘賢自筆資料を収集していたようである<sup>31</sup>。それは、屋代弘賢を「尊信」していた<sup>32</sup>ことによるだろう。古文書・古記録の調査研究の先学ということに加え、「屋代弘賢の筆道」を学んだ父昭真に書の手ほどきを受け、蔵書にも触れる機会が多かったことを考えれば、「尊信」も納得できることである。

## ② 小杉自写資料が多いこと。

小杉榎邨自身「古文・古記といふものを、ふかく尊ぶ精神おこりて、其くさぐさ後の参攷にもとおもふものは、見るに随ひ写しとりぬ」<sup>33</sup>と記し、親戚の梅津連も「珍しい書物があれば写して残し置かれました」と述べている<sup>34</sup>。当館の小杉文庫中にも『延喜染鑑』〈830-37〉、『二中歴』〈830-35〉など、特徴のある筆跡で記された、小杉榎邨自写資料が多く残されている。また、『栄花物語』〈WA-126〉、『政事要略』〈830-12〉のように、反町の聞書にもみられる小杉自ら校訂註を施したものが多く残されていることも、特徴の一つといえる。



小杉榎邨筆跡（『延喜染鑑』〈830-37〉）

③ 手書ラベルが附されていること。

小杉本には蔵書印以外に、片仮名と場合によって二種類の漢数字が付された自筆ラベルが残されているものが多い。片仮名は分類、漢数字のうちの一種類が冊数を示しているものと推測できる<sup>35</sup>。だが、当館所蔵本の場合、元ラベルの上に帝国図書館のラベルを添付しているため、判読できない場合も多い。分類については他館の資料をもとに検討していく必要がある。

つづいて、当館所蔵の小杉文庫の特徴をみてみたい。

① 小杉自ら編綴したと考えられる雑記・論集類が多く含まれていること。小杉は、自らの調査記録や論説等を分野毎にまとめ合綴し標題を付していた<sup>36</sup>。当館には、土地制度に関する『農政必携』〈830-3〉、神葬祭制度に関する『葬祭儀草』〈830-27〉『葬祭儀』〈830-36〉、歴史関係の『読史翼』〈830-182〉、美術工芸関係の『書画一斑』〈830-74〉『工芸一斑』〈830-43〉などが残されている。

こうして編綴された資料のなかには、小杉自ら写した資料、当時の学者の自筆資料も多い。また、論説を雑誌掲載する際に作成された校正も含まれている<sup>37</sup>。これらは識語や使用されている罫紙から書写時期を推定できるものも少なくない。また、当時の国学者の交友が分かる資料も含まれている。小杉榎邨の活動を如実に示すものである。当館以外では『和かくさ』（和歌関係）『臨池抄』（書道関係）『江戸名園記』『もみじのひかり』（庭園関係）『近世名家紀行』（紀行文）『いけの玉藻』（屋代弘賢自筆書類）など東京都立中央図書館に同様の資料が残されている。

② ウィーン万国博覧会関係資料が含まれていること。

明治6年に開催されたウィーン万国博覧会の関係資料が含まれている<sup>38</sup>。これらはウィーン万国博覧会の開催にあたり、各地の産物について調査したものを、産物別に綴ったものである。標題の筆跡が小杉の筆と考えられることや、「臨時帝室宝物調査局」罫紙に小杉榎邨自ら写した書類も含まれていることから、①同様美術・産業・工芸史研究等の参考文献として、小杉榎邨が編綴し、所蔵していたものであろう。各村から県庁への差出文書、それを県庁で纏めなおして博覧会事務局に提出したもの、博覧会事務局の役人が現地へ赴いて調査したものなどがある。印判のある原本、博覧会事務局で浄写したものなど、古文書としてのレベルは多様である。また、産物の由来、製造者、製造工程、付図、生産高、値段等が記されているものも多く、なかには博覧会事務局からの質問内容が記されているものもある。また、『草章』の草案とみられる調査も含まれている<sup>39</sup>。小杉榎邨が帝国博物館（帝室博物館）に勤務



していた時期に入手したものであろう。

③ 善本は少ないが、多様な分野の資料が所蔵されていること。

静岡県立美術館には重要文化財に指定された資料があり、東京大学史料編纂所にも古経典などいわゆる善本が多くみられる。当館所蔵の小杉文庫にはそういった「善本」は少ない。名家自筆本の類も『阿弥陀経石本考』など数点にすぎず、当館の貴重書として指定されたものも古活字版の『栄華物語』1件にすぎない。しかも、同書を小杉は校訂の底本にしており、夥しい書き込みがあることから、小杉自ら貴重と捉えていた書物とは考えられないのである。

だが、当館の小杉文庫には、神祇関係・美術工芸関係・史学・文学関係等の調査書類や古典籍、また古文書・古記録の写本などが数多く残されている。また、①で示した同時代の学者の論説を集めたようなものや、②で示したウィーン万博の調査資料も収蔵している。和歌関係の資料が殆どないことを除けば、小杉の学問的関心を満遍なく網羅した収集となっているといえる。

このように見ていくと、当館所蔵の小杉文庫は、善本を収集したものではないが、小杉楯邨の学問的世界の全体像を俯瞰するような資料を多数有していることに特徴があるといえる。ウィーン万国博覧会関係資料群も含め小杉が編綴した資料が多いことは、その特徴を、よりはっきり示すものである。

## 五 おわりに

「はじめに」でも述べたように、今回紹介した小杉文庫だけではなく、当館には多様な名家旧蔵コレクションが収蔵されている。逆にいえば、小杉文庫は当館の名家旧蔵コレクション群の一部にすぎない。それらのコレクションが収集された背景には、帝国図書館の収集方針に「散逸のおそれのある貴重文庫の収集」が有ったことによるものと考えられる。このことについて、帝国図書館長をつとめた岡田温氏は以下のように述べている<sup>40</sup>。

古来いずれの国でも愛書家、蔵書家といわれる人の数は多く、それ等愛書家達の集めたコレクションというものは、隔々まで心が配られ注意が行き届いていてまことに得難いものである。しかもこのような集書は、その1冊1冊を分離してしまえば、単独にはさしたる内容的価値も市場的価値も呼ばないものであるが、これを集大成した一つのコレクションとして見るとき、そこに得難い価値が生ずるものである。しかしこの様な

貴重なコレクションもひとたびその所有主が世を去ると、多くの場合いつとはなしに散逸してしまうのが世の常である。国立図書館はすべからずこのようなコレクションを収集保存すべしというのが、帝国図書館設立案の提案理由の説明の中で述べられた外山正一博士の言葉であったし、又当時の田中稲城館長の方針でもあったようで、その後この考え方は私共が同館に職を奉じ、収集業務を担当するようになってからも、館長、先輩から示された方針でもあった。われわれはこのようにせつせと史料を集める学者、愛書家を蜜蜂にたとえ、その集められたコレクションを貴重な蜂蜜と称してその収集につとめた。

このように、帝国図書館は名家旧蔵コレクションの収集を積極的に行なう方針を持っていた。さらに、岡田氏は「徳川時代の名家の稿本及び自筆写本類」が収集対象となっていたと述べる。具体的には、「古事記伝、本朝編年録、栗山詩稿、紫禁和歌草、里見八犬伝、その他国学者、文人、戯作者の稿本、写本類」と挙げている。だが、このような収集のためには、選書眼を持つ担当者が不可欠であったろう。こうした司書の存在、殊に和古書担当司書について岡田氏はつぎのように述べている<sup>41</sup>。

明治末から大正期を経て昭和初期まで、上野図書館には西村竹間、鹿島則泰などという、古書に明るいすぐれた図書館員がおったので、乏しい予算にもかかわらず、明治以前の文献が比較的よく集められている。中でも鹿島氏は江戸期の文献に造詣が深かったので、江戸時代の政治、文学、演劇、音曲、遊芸関係資料はやや系統的に集められている。

鹿島則泰については、「鹿島翁の詰めている貴重書室の客」となっていた書誌学者川瀬一馬氏も、「鹿島則泰さんなどが司書官で目が利いていますから古写・古版・古文書・古記録・江戸物まで各種の善い物を集めておられます。色々競争入札で取った話も聞いております。」と述べている<sup>42</sup>。鹿島則泰は明治39年から昭和13年まで、一貫して帝国図書館の和漢古書の収集・整理等を担当していた人物<sup>43</sup>。父は鹿島神宮司で大蔵書家でもあった鹿島則文で、このことも則泰の帝国図書館採用の理由であった。この鹿島のような目利の存在が、帝国図書館の和古書コレクションの形成を担っていたのである。

それでは、小杉文庫も鹿島が収集を担当したのであろうか。これについての確証は得られないが、大正3年に鹿島は「和漢古書購入及謄写調査并取扱」

「購入和漢古書事務用カード調整」「貴重書取扱、乙部統計、細目編纂（謄写本和漢叢書類）和漢書書名著者名ノ調査」「乙部和漢書事務用カード調整同書整頓并其函架目録調整」を担当事務としていた<sup>44</sup>。鹿島が、小杉が教鞭を取っていた東京大学古典講習科の出身で師弟関係があったことから、関与していなかったと考える方が不自然であろう。

以上のように、帝国図書館のコレクションは、積極的な収集方針と司書の力によって形成されたものであった。そして、そうして集められたコレクションには、独自の請求記号が付された大規模なものや、今回紹介した小杉文庫のように独自の請求記号こそ付されないものの旧蔵者の名を冠したものだけではなく、「文庫」と言うにはごく小規模なものも散見される。小杉文庫もそうであったが、殊に小規模なものは幾度にも涉って収集されている場合が少なくなく、全体像が把握しにくい場合も多い。そのため、こうした資料は、個別的には当館『月報』のコラム「稀本あれこれ」などで紹介されても、コレクションとして知られる機会は少なかった。しかし、上に述べたような収集の方針や経緯を考えた時、大規模なコレクションはもとより小規模なコレクションも、高い価値があるといえる。こうしたコレクションの紹介をつづく課題としておきたい。

## 注記

- (1) 国立国会図書館編刊『国立国会図書館所蔵個人文庫展』1～3（1982～84年）＜当館請求記号：UP72-42、以下当館請求記号は松葉括弧に包む＞なお、国立国会図書館所蔵の特殊コレクションは『国立国会図書館百科』（出版ニュース社、昭和63年）＜UL214-E4＞「専門資料」（296-389頁）など参照。
- (2) URL：http://www3.ndl.go.jp/rm/index.html。
- (3) 朝倉治彦「『榊原芳野家蔵目録』のこと」（『参考書誌研究』13号、昭和51年＜Z21-291＞）参照。また、「榊原芳野家蔵目録」（『参考書誌研究』12号、昭和51年）も翻刻されている。
- (4) 当館の小杉文庫に関しては岡田温「上野図書館の収書とその蔵書」（『図書館研究シリーズ』5号、昭和36年、208頁）、前掲注(1) 国立国会図書館編刊『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」（昭和58年）24～26、54～55頁、「小杉文庫」前掲注(1)『国立国会図書館百科』328頁）、朝倉治彦「小杉榭邨」（国立国会図書館編『国立国会図書館蔵書印譜』青裳堂書店、平成7年＜UM57-G1＞）183頁を参照のこと。
- (5) 小杉榭邨については「文学博士小杉榭邨先生の履歴」（竹柏会『こころの華』

4巻10号～5巻2号、明治34～35年<Z13-328>。なおこの伝記の初出は『徳島学生会雑誌』とのことだが未見。また、小杉没後「明治三年以前の故小杉博士の履歴」1～5（『歴史地理』15巻5号～16巻3号、明治43～44年<Z8-3275>）に再録されている、「小杉博士記念録」（『歴史地理』15巻5号、明治43年）、関山（名欠）「小杉博士逸事拾遺」（『歴史地理』15巻6号、明治43年）、「小杉榎邨」（昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』11巻、昭和女子大学光葉会刊、昭和34年<910.26-Sy961k>）、原秀三郎「小杉榎邨と小杉文庫」（静岡県立美術館編刊『小杉文庫名品抄』昭和62年<未所蔵>）、湯之上隆『日本中世の政治権力と仏教』第10章「小杉榎邨の蒐書と書写活動」（吉川弘文館、2001年<GB241-G23>）、拙著「小杉榎邨の蔵書形成と学問」（『近代史料研究』1号、2001年<Z71-F912>）、西洋子『正倉院文書整理過程の研究』（吉川弘文館、2002年<UL567-G1>）等を参照のこと。

- (6) 前掲注(5)「文学博士小杉榎邨先生の履歴」1,2頁。
- (7) 伊井春樹「鑑定筆記抄（一）—小杉榎邨の古美術調査の世界—」（大阪大学中古中世文学研究会編『詞林』20 平成8<Z12-717>）に抄録されている。
- (8) 梅津連「追懐」前掲注(5)「小杉博士記念録」所収）594頁。
- (9) 「徴古雑抄編纂の趣旨」（小杉榎邨編『阿波国徴古雑抄』日本歴史地理学会、大正2年<218.1-Ko667a>）には「帝国大学史料編纂掛よりもめさるるものとな」ったと記されている。具体的には史料編纂所所蔵資料中に明治18年から19年にかけての修史局によって謄写された『徴古雑抄』や明治39年謄写された『招提千歳伝記』などがみられ、さらに、『大仏測定図』（明治44年模写）『朝鮮国書翰』（大正5年模写）のように、小杉榎邨歿後養嗣子美二郎へ史料採訪を行っていることも分かる。
- (10) 前掲注(5) 関山「小杉博士逸事拾遺」。
- (11) 売却の経緯については反町茂雄の深沢良太郎への問書「明治大正期のセドリについて」（反町茂雄『紙魚の昔がたり 明治・大正篇』八木書店、平成2年<UE111-84>）226～230頁、川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の歴史』（ベリかん社、平成11年<UM51-G14>）96～97頁、203～204頁、三村清三郎「小杉博士遺書」（『本の話』2 「日本書誌学大系」23(2)青裳堂書店、昭和57年<UM57-G1>）参照。なお、小杉本の売立の日について、深沢は、「明治の末」のこととしているが、三村清三郎は、「大正二年七月一日」としている。
- (12) 前掲注(11) 反町問書「明治大正期のセドリについて」228頁による。
- (13) 前掲注(11) 三村清三郎「小杉博士遺書」による。
- (14) 前掲注(11) 反町問書「明治大正期のセドリについて」226頁による。

- (15) 松野陽一「小杉榭邨」(『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、1999年、221頁<UM2-G2>)。
- (16) 前掲注(11) 川瀬『日本における書籍蒐蔵の歴史』204頁による。和田雲村(維四郎)は鉱物学者で日本古典籍のコレクター。『訪書余録』の著者。
- (17) 小杉文庫調査団編『藤江家旧蔵小杉文庫目録』静岡県教育委員会、昭和56年<UP171-168>、前掲注(5) 静岡県立美術館編刊『小杉文庫名品抄』。
- (18) 三浦治編『行啓記念北駕文庫蔵書略目録第一巻』北駕文庫刊、大正3年<UP171-146>。
- (19) 東京都立日比谷図書館編刊『加賀文庫目録』昭和35<029.9-H426k>。『江戸名園記』『もみじのひかり』『輿車図考』『職人由緒』『臨池抄』『池の藻屑』『筆のはやし』『近世名家紀行』が確認できる。
- (20) 目録上小杉編とは判断できないが和歌関係の雑綴『わかくさ』も所蔵している。なお、『わかくさ』の内容は松野陽一「小杉榭邨『わかくさ』細目」(『国文学研究資料館調査研究報告』第14号 平成5年<Z13-2772>) 参照。
- (21) 国文学研究資料館史料館編『史料館収蔵史料総覧』名著出版、平成8年<GB5-G19>。
- (22) 東京国立博物館編刊『東京国立博物館蔵書目録』和書1(平成10年)<UP111-G76>、同編刊『東京国立博物館蔵書目録』和書2(昭和32年)<029.9-To456z>。『二中歴』『四天王寺文書』(以上、和書1)『重訂御書籍目録』『和学所等書籍目録』『栗田日記』『諸神本懐集』『白川家服仮雑穢略抄』『白川家神道秘書』『可家旧記』『神器考証』『外宮年中行事今式』『伊勢勅使部類記』『伊勢勅宮神領部類』『日吉社古代造営記』『熊野神社考定』『熊野新宮神宝図』『直毘靈補注』『馭戒問答』『大元実義』『葬祭儀式』『高野山靈宝目録』『法王帝説証註』『全光明最勝王経音義』『大乘院本諸寺縁起』『法隆寺宝物献品之内陳列略図』『蛙の説』『葉末露』『伊吹おろし』『日本神字考』『神代文字考』『異体文字』『日本正紀序』『逸号年表』『翁姫夜話』『武林隠見録』『諸陵周垣記』『山陵考略』『本朝尊卑分脈図脱漏』『旧考余録』『寧楽正倉院続修成卷文書目録』『高山仲繩江戸日記』『和歌山より大坂への道順』『日神地名録』『石見国地誌ぬき書』『伊予国旧跡考』『箋釈豊後風土記』『西大寺領大和添下郡班田図』『伊勢美濃尾張三国堺略図』『永禄年中江戸略図』『天平宝字三年東大寺領越中国射水郡開田地面図』『上古備中国五郡図』『淡路国全図』『天平七年弘福寺領讃岐国山田郡古図』『関市令』『貞享四年大嘗会調度図』『三種図』『大内裏抄並内裏抄』『服飾管見卷』『裘代考』『田令図解抄』『正徳年間銀座年寄關所顛末』『観気令衡』『河蝦考』『保夜並甘葛考』『葦草考』『真本千金芳』『製茶詳

説』『陶器考』『陶器考図』『船史王後首墓誌考証』『寧楽正倉院所保存大仏開眼筆全図』『寧楽正倉院保存漆紗冠并篋図』『寧楽正倉院印鑰御封掛様』『阿波国祖谷山菅生氏所蔵旗銘紋』『阿波国祖谷山阿佐氏所蔵旗銘紋』『阿波国助浦郡田之浦村発掘破甲図』『御鏡図案二種写経生戲筆人物』『香道客主心得次第』『薰物方』『香木考』『供物調進図式』『進退業述記』『綿甲胄考』『軍配之図』『内侍所叢説佩刀沿革』『古代刀鉾甲胄図説』『鞍鐙判並紋』『具都和図考』『大和錦城記』『安芸国厳島神社所蔵蛮絵形』『淡路国之図』『阿波国名東郡一宮神像』『阿波国鳴門真景』『阿波国図』『阿波之国図』『出雲大社図』『石上神宮宝物六叉矛図』『厳島大鳥居』『伊予国三島神社所蔵古鏡銘』『閏月録』『阿州雲辺寺図』『天平宝字三年東大寺領越中国射水郡開寺地図』『寛永錢書体一覽』『紀伊国地図』『倉庄土地帳添上郡図』『宮城図』『享保年間徳島方角図』『皇太神宮宮城図』『御即位図』『齋宮寮齋宮領図』『天平七年弘福寺領讃岐国山田郡古地図』『詩仙堂六物図』『十輪院校倉精細図』『上古備中国五郡図』『内外神宮諸建物二十分ノ一図面』『大乘院家御領若槻庄土帳』『筑前太宰府神社所蔵雲版図』『仙台領中尊寺一山図』『月読宮宮城図』『対馬国下県郡黒島所発見銅鉾黒摺』『京都東寺旧蔵辛櫃所画少年遊技図』『道風朝臣肖像』『豊受大神宮々々城図』『豊受大神宮殿舎旧制之図』『内宮中之図』『日本古銅印写』『野見宿禰参内図』『百川入海』『宝印木版』『陸奥二本松大照院所蔵曲玉図』『水入之図』『守屋連肖像』『山城国宇治郡条里図』（以上和書2）。なお、和書1からは小杉本の写しも9点確認できる。

- (23) 「杉園蔵」捺印資料のみ。このほか、小杉榎邨の蔵書印・識語印としては「杉園蔵」「一片月」「榎村」「榎邨」「小杉」「小杉園」「発印」「文学博士」「御歌所参候」「深草静堂」「すきむら」「樹園」が確認される。印影については、前掲注(5)拙著「小杉榎邨の蔵書形成と学問」5頁参照。なお、『妙法蓮華経』『大智度論』（東京大学史料編纂所蔵）のように書物に直接捺印せず、包紙を付し捺印している例や、『年貢納帳』『自葬事略』（当館所蔵）など蔵書印の捺印がないものもある。なお、今回調査する過程で新たに蔵書印・識語印を発見したので掲載する（図1『百人一首古説』（当館所蔵）所載、図2『世尊寺法書』（財団法人東洋文庫所蔵）所載、図3『又楽居蔵目』（財団法人東洋文庫所蔵）所載）。

図 1



図 2



図 3



- (24) 「所蔵史料データベース」(URL: [http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/ships/shoz\\_login.sh](http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/ships/shoz_login.sh)) から小杉美二郎『御室相承記巻二首部』『大般若波羅密多經 卷第五百卅』『歌仙』『耕雲紀行』『妙法蓮華經卷第四』『大智度論 卷第八十七』『一切經音義 卷第十五』『大乘阿毘達磨集論 卷第六』『大般若經 卷第五百二十』『大乘理趣六波羅蜜多經 卷第一』『大毘盧遮那成仏経疏 卷第二十』『梵字形音義』『刀剣解紛記 下之巻』『聖教目録 支配百首当坐歌』『藤原為兼卿詠歌』『烏丸家文書』『靈元天皇宸翰』『里村玄陳自筆発句』『滝本坊乗淳自筆書状』『壺井義知自筆書状』『正保五年元日連歌』『堯然法親王自筆御書状』『古写経断片雑』の所蔵が分かる。なお、『小杉美二郎氏ヨリ購入書類目録』には『御室相承記巻二首部』『大般若波羅密多經 卷第五百卅』がみられず、『大般若波羅密多經三百廿奥書』『大般若波羅密多經第四百一十』『大般若波羅密多經某卷奥書』がみられる。このほか『諸国文書』も小杉本である。
- (25) 岩崎文庫本としては『丹鶴叢書』『池底の玉藻』『淡路古文書』『学書宝鏡』『画像須知』『世尊寺法書』『月のゆくへ』『武功雑記』『又楽居蔵目』『日本風土記』が確認できる。大東急記念文庫本として『杉の葉草紙』『古冠考』『日本王子弁』『奉納聖廟一千首』『懐風藻』『陵墓の図』『職原抄』『古器発掘品図』『般若理趣経』が確認できる。大東急記念文庫編刊『大東急記念文庫書目』(昭和30年) <UP111-283>による。なお、『杉の葉草紙』は小杉の編綴資料。
- (26) 前掲註1)『国立国会図書館百科』328頁による。
- (27) 『年貢納帳』『安房国忌部家系』『自葬事略』には蔵書印がないが、後二者は小杉楓邨の書入本、自筆本である。『年貢納帳』は収集原簿に「小杉本」とあることに従った。一方、前掲註(4) 岡田温「上野図書館とその集書」によれば『古文崇正抄』も、小杉文庫とされているが、小杉楓邨旧蔵の形跡がなく事務文書類にも小杉本の根拠がみられないため、ここでは省いた。

- (28) 「830函」は帝国図書館時代の函架番号であり、戦後は凍結されているが、戦後受入の古典籍のデータが含まれているNDL-OPACの蔵書印検索（「件名」に印文入力）では、小杉本は見当たらない（平成15年7月30日確認）。
- (29) なお、このほかに小杉樞邨に関連する資料として次のような資料も確認できる。小杉自筆部分を含むものとしては次の4点を確認している。『千代の光』<834-12>（「南部家蔵」印あり）には明治41年1月の小杉樞邨自筆序文が付されている。『諸大家草稿』<本別4-5>は『国史大辞典』序文の草稿類を貼り込んで、卷子仕立にしたものであるが、そのなかに小杉の草稿も含まれている。『四名家筆記』<831-20>は、黒河真頼「鏡面に仏影を現す」（「洒竹文庫」「中川氏蔵」印あり）、屋代弘賢「十如筆記」、喜多村信節「後三年合戦絵集説存疑」（「喜多村」印あり）を合冊したもの（いずれも自筆本とされる）であるが、「鏡面に仏影を現す」に「小杉君手書冥報記納函背記」が小杉の書簡とともに付されている。その内容は次の通り。「昨日ハ欠敬仕候、御約束の高山寺箱書付又貼紙一写共別紙二つつし指上候○春村翁の円鑑の説昨日うつし被下候由ニ候処数枚の内にて小生書ぬきいたし度候間不苦候ハ一兩日中一寸御恩借願上候うつしぬき直々返上可仕此段願上候、頓首 加藤先生親展／寺所蔵冥報記三巻 箱裏ニ旧唐書臨伝方便智院慧友護闍梨自書也、別ニ一紙ヲ貼ス、其文ニ円行阿闍梨承和五年入唐之日以皇朝官紙所令書写也柳庵識。『百人一首古説』<WA18-5／元請求記号：貴7-49>（賀茂真淵自筆、荷田東満書入、「青楓館主」「荷田氏珍藏」印あり）は巻末に以下の小杉樞邨自筆識語がある。「この古人百人一首古説一冊は東丸大人の晩年にかゝれし筆意なること疑ふべきにあらず、世間にこの古説といふもの或ハ在満翁かけりなといへとも既く翁自筆もてかくしるされたるを按へは、いよいよこの翁の著と決すへし、又頭注に自筆墨書一所ありまた真淵大人の墨も三所あり、今一所ハ余いまた詳かにせざるなともありていとめてたき冊子なり、蓋し今一冊となれるはいと惜しむべきものなるを今ハ萩野博士も同じ心にこを愛惜して秘架に蔵め給へり、一日観ることを得て嘆賞しぬ、また蔵書印に青楓館主とあるはかの名高きあをかりしよりとよミし歌をおもひよせつるにあらしか、荷田氏珍藏とあるは後の押印ならむなとかりそめにくつつし出たるをすへてすへてこのおもふかまゝのことかいつけてよと請はるゝまゝにするし今後のあかしをまつ 小杉樞邨㊦㊦。萩野博士（萩野由之か）に請われて識語を付したものと分かる。『源氏物語湖月抄』<た-20>（刊本への賀茂真淵書入本。「橘氏蔵書」「芳宜園」印あり）も、小杉本ではないが、『百人一首古説』同様、残されている7巻分の巻末に以下の通りの小杉樞邨自筆の識語がある。



「この写本ハ版本湖月抄にもとより補ひそへられたるものならむ、さるは真淵大人の中年の筆つきの書入あるうへに千蔭翁の筆もミえたる墨朱ともにミな翁のものせられしなるへし、そこの三種の本とも和田ぬしの蔵書とせらるゝを閲て此よしものしそふ 小杉榎邨<sup>⑧⑨</sup>」(うつせみ)、「此墨筆かき入ハ真淵大人の中年のはしめかとの筆意あさやかなり、朱筆かき入はここにミへる識語あるか如く一柳千古なり、和田ぬし今は蔵書とせられたるをはじめの桐壺の写本にかけるか如く千蔭翁の蔵書なりしなり、いとめつらしけれハ一日閲つゝこのよしかきそへ再びミもてゆくに千蔭翁の墨かきもましれり 小杉榎邨<sup>⑧⑨</sup>」(あかし)、「この訂正かきいれハ真淵翁みつからの此物語の新釈によりてものせられたるか如し、別冊にいふか如く今ハ和田ぬしの蔵書とせらるゝを一日よく見て一言をそふ 小杉榎邨<sup>⑧⑨</sup>」(とこなつ)、「この書入訂正などすへて別冊にいふか如し中に朱筆あるハ例の千古ものしつるなり、千蔭翁かもてりしをそは和田ぬしの秘架におくものとす一日こひミつゝ一言かきそふ 小杉榎邨<sup>⑧⑨</sup>」(かかり火)、「このかき入れ訂正もさきさきの冊子にかけるかことく大人の new 釈同文なり、なほ千古の朱書もいさゝかましれり千蔭翁の旧蔵せられたるものなるを和田ぬしの秘架におかるゝによりて一日めつらかに閲つゝ一言をそふ 小杉榎邨<sup>⑧⑨</sup>」(野分)、「この訂正かきいれも大人の new 釈をそのまゝにものせられたるか如し中に就て例の千古の朱かきもミゆ、和田ぬしの蔵書に帰するを一日閲て一言かきそふ 小杉榎邨<sup>⑧⑨</sup>」(行幸)、「この訂正付箋はいかなる人のものせしか考ふるへからされと真淵大人のこの物語 new 釈をうつしとれるものなり、はしめ千蔭翁の蔵書印あれと印の記載ハ一種ことなり其前後を弁知せされとも加藤家一揃ひのこの湖月抄なるへし、蓋しこの一冊ハ別にかきいれなしこれも和田ぬしの一そろへとせられるを閲てかゝなむ 小杉榎邨<sup>⑧⑨</sup>」(はし姫)。以上『源氏物語湖月抄』を除きいづれも写本である。一方、小杉本の写本として次の8点を確認できる。『摂津国水無瀬古図』<832-279> 『阿波国新島庄絵図』<832-280> 『大和国平群額安寺古地図』<832-281> 『讃岐国山田郡古図』<832-282> 『大乘院家御領若槻庄土帳』<832-283> 『越中国射水郡開田地図』<832-287> は小杉本から写しを作成したものであることが奥書によって分かる。うち5舗は明治19年2月および3月に写されたものである。いずれも今泉雄作の旧蔵資料。また『阿波国板野郡田上郷延喜二年戸籍』<102-173> 『阿波国徴古雜抄』<102-191> は邨岡良弼旧蔵の資料である。

- (30) 小杉榎邨「源弘賢翁の小伝」(屋代弘賢『古今要覧稿』国書刊行会、明治41年<016.11-Ko5488u>) 4頁。なお文中の「万巻楼本」とは柴野栗山旧蔵書で、

やはり蜂須賀家の所蔵に帰し、江戸別邸にあったという。

- (31) 国立国会図書館蔵本中にも屋代弘賢自筆本『阿弥陀経石本考』〈830-8〉がみられるほか、「不忍文庫」本として『栄花物語目録』〈830-159〉『偽類従三代格考』〈830-20〉『政事要略』〈830-12〉などが挙げられる。また、小杉榎邨は日記『池底の玉藻』（東洋文庫所蔵）や自筆本を合綴した『池の藻屑』（東京都立中央図書館所蔵）なども所蔵していた。
- (32) 前掲注(36) 小杉榎邨「源弘賢翁の小伝」による。
- (33) 前掲注(9)『阿波国徴古雑抄』による。
- (34) 前掲注(1)「追想録」による。
- (35) たとえば、当館所蔵資料で「フ」のラベルが付されたものは、『延喜染鑑』〈830-23〉『漆器説』〈830-81〉『飛騨国春慶漆工系統』〈830-75〉『袷装式』〈830-80〉工芸一班〈830-43〉『諸国陶器集説七宝焼附』〈830-40〉『織物集説』〈830-48〉『京都陶磁器説』〈830-53〉『漆器説』〈830-44〉『造紙説』〈830-65〉『染物織物製絲略説』〈830-49〉『銅器之説』〈830-42〉『陶器集説』〈830-50〉『西陣織物詳説』〈830-66〉『蒔絵図』〈830-60〉であり、一定の傾向がみられる。
- (36) このことは東京都立中央図書館所蔵の『池の藻屑』に「翁（屋代弘賢）の志操の一斑をしのふに足るものなりとて別にえりわけて筆の林といふかりな録けてその部類の櫃にをさむといふ」と小杉榎邨識語があり、また『近世名家紀行』標目に「この四種あやまりて和かくさ一の巻にとち入れたり」と小杉榎邨識語があることから明らかである。
- (37) たとえば『読史翼』〈830-182〉5巻、「万葉集を讀心得」には「大八州会雑誌料七月二出八月余出」という朱書がある。また、「万葉集の歌の解」には巻末に木村正辞自筆の朱書「大八州雑誌料惣稿差上申候、宜敷御修正可下候、扱、巻三惣説中（訂正内容略）右二条後巻二正誤御出し奉願候、頓首 九月十四日 木村正辞 小杉先生侍史」とある。そのほか「山多豆の考・同補正」に「十九年済」とあり、「馬酔木の考」には「廿年三月」とあるのも雑誌掲載に拘わる識語であろう。実際にこれらは『大八州雑誌』に掲載されている。
- (38) ウィーン万国博覧会については、当館ホームページ「世界の中のニッポン：ウィーン万国博覧会」を参照のこと（含関連資料リスト）。  
URL：[http://www.ndl.go.jp/site\\_nippon/venna/index.html](http://www.ndl.go.jp/site_nippon/venna/index.html)
- (39) たとえば、「藍一覽」（『藍一覽・沙糖説・烟草類纂』〈830-59〉所収）は『教草』「藍一覽」説明に、「青花紙説」（『十種略説』〈830-63〉所収）は『教草』「青花紙一覽」説明に、「生絲制法略説」（『染物織物生絲略説』〈830-49〉所

- 収)は『教草』『生糸製法一覽』説明とよく類似する。図に関しても「洪ヲ取ル柿写生」(『殖産略説』<830-45>所収)は『教草』『白柿并柿油一覽』にはほぼ同一図が含まれている。
- (40) 前掲注(4) 岡田温「上野図書館の収書とその蔵書」206-207頁。なお、明らかな誤植と思われる部分を訂正した。文中「外山正一博士の言葉」とあるのは「帝国図書館ヲ設立スルノ建議案」中にある「今日は私有の図書と云ふものが、段々と散逸すると云ふ時である、蔵書家と云ふやうなもので、旧い家柄で随分蓄へて居つた者、旧い寺杯で蓄へて居つた所蔵の書物が、段々と、今日は、散逸すると云ふやうな時である(中略)此時に於きましては、斯の如くに散逸せんとする所の書物を、帝国図書館と云ふやうなものが有つて、始めて能く注意して、さうして其大切な書物であると認めたものは、之を尽く購買すると云ふやうな途が立たなければならぬ時である」という発言の事をさすのであろう(上野図書館編・刊『上野図書館八十年略史』昭和28年<016.11-Ko5488u>91頁)。
- (41) 前掲注(4) 岡田温「旧上野図書館の収書方針とその蔵書」205頁。
- (42) 前掲注(11) 川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の歴史』
- (43) 西村正守「鹿島則泰覚書」(『図書館学会年報』25-2、昭和54年<Z21-133>)による。明治39年4月28日に司書を拝命、書目掛となり、以来和漢古書の蒐集・目録編纂等に従事し、大正12年3月31日に行政整理により退職、同日付で事務囑託採用となり、昭和13年4月16日に老齢のため帝国図書館を去ったとのことである。また、図書館講習所が帝国図書館に附設されるや、「日本書誌学」の講義を担当した。
- (44) 前掲注(43) 西村正守「鹿島則泰覚書」による。なお、当時の帝国図書館の職員は14名であった。

## [目録編] 国立国会図書館所蔵小杉文庫目録

### 凡例

1. 本目録は国立国会図書館古典籍資料室所蔵小杉文庫（一部関連資料を含む）の目録である。
2. 本目録は、以下に部立てし、そのなかで書名の五十音順に配列した。  
「古典籍・古文書類」 一般の和古書（明治新写本や明治期著作も一部含む）  
「小杉榎邨編綴主題別資料」 小杉榎邨自ら分類・編綴し標題を付した資料  
「博覧会事務局関係資料」 ウィーン万国博覧会の調査記録等  
「そのほかの小杉旧蔵資料」 小杉文庫以外の小杉旧蔵資料
3. 目録の記述は書名、編著者名、刊写の別、冊数、大きさ、請求記号、一般注記、内容注記、特記事項の順に記した。
4. 書名は太ゴシック体で示した。原則的には『帝国図書館和漢書書名目録』を踏襲したが、一部変更したのものもある。複数の書名がある場合は、原則として巻頭から採録し、採録以外の書名を一般注記に記した。書名の後に適宜、完本の場合は巻数を、端本の場合は存在する巻数を記した。
5. 編著者の役割が「著」のみの場合は役割を省略した。
6. 出版事項、書写事項は刊写の別に続けて、括弧内に記した。
7. 小杉榎邨書写と推定できるものについては、写本の表示の脇に\*印を付した。合綴されたものの一部が小杉榎邨書写と推定される場合は、内容細目の書名の脇に\*印を付している。
8. 冊数は合冊されている場合は、原冊数の後、括弧内に記し、合冊者が推定できる場合は、それも記した。丁数は記入していない。
9. 大きさは縦×横で記した。小数点以下一桁まで記した。
10. 請求記号は右寄せで松葉括弧に包んで記した。
11. 一般注記は行を替え、別書名、特殊な装丁情報、印記、元ラベル、購入日などについて記した。
12. 内容注記（または附属資料）は行を換え、書名、編著者名を記し、その後括弧に包んで適宜関連事項を記した。書名は巻頭または小杉榎邨自筆標目のいずれかから採録した。巻頭がない場合がある一方、標目も実物との関係が一对一になっていない場合があるためである。

13. 「博覧会事務局関係資料」の内容注記は表形式の細目を作成した。
14. 必要に応じて二段下げで説明を附した。特に、小杉樞邨による書写や校正、入手の経緯等に関する識語や、成立状況が分かる奥書がある場合は原則として翻刻した。ただし、煩瑣を避けて巻末に註として記述したものもある。
15. 一部の文書資料は作成者の居所、肩書、宛所、成立月日を記した。
16. 字体はおおむね現在通行の文字を用いた。印形は形に関わらず㊦で示した。
17. 推定は [ ] で記し、参考の為の補記は ( ) に囲んだ。

### <古典籍・古文書類>

阿弥陀経石本考・田島石経記 写本 2冊 (小杉合1冊) 27.3×19.8cm

<830-8>

書名は書外題による。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求  
 内容：阿弥陀経石本考／屋代弘賢（寛政2年跋、小杉樞邨書入あり。印記：「不忍文庫」）。田島石経記／梶原善太夫（明治18年小杉樞邨写、同25年同校合、紙高24.2cm。付：附言／[梶原善太夫]、与青柳種麻呂／[梶原善太夫]。題色定法師書後／[梶原善太夫]（文化14年成立）、昭陽文集宗像石経記／亀井昱（文政5年成立）

「阿弥陀経石本考」は屋代弘賢自筆本。内表紙に、朱筆で「屋代先生自筆草本」と小杉樞邨の識語がある。また、「田島石経記」は江藤正澄（1835-1991）の所蔵本を小杉樞邨が書写した本。巻末に「就江藤正澄蔵本写之 明治十八年九月 小杉樞邨」と小杉樞邨識語がある。また、「明治十六年七月以長野和平所蔵本托相川錠吉令贍写焉 随神舍人正澄識」と江藤正澄本奥書を移写している。一方、巻頭には「以一本比較 明治廿五年八月」と校合に関する小杉樞邨識語がある。『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」24頁参照。

淡路草 藤井彰民 写本 8冊 27.2×19.2cm

<830-87>

彩色図入、小杉樞邨校訂朱註入り（明治7年）。元ラベル：「カニ共八」。印記：「杉園蔵」「樞邨」（識語印）。大正3年3月26日贍写、同年5月27日製本

巻末に「この淡路くさ全編松野真経の蔵書をかりてよみ考ふるをりおのれいとまのひまなけれハ元木氏の筆を備ひてかくハものしつ、さてまたよみもてゆくに伝聞のあやまりとおほしきことも多く見えその図様のいかしきことなきにあらねとさる一歳いとまある時藤井氏の原書就て訂すへく

おもひとめてしはらくそのまゝにさしおきぬ、たゞし心つける所々は朱をもて正しつることもあり 明治七年五月はかり 小槐園㊦と、小杉榎邨識語がある。

安房国忌部家系 写本 1冊 26.7×19.7cm <830-178>

明治9年4月から8月にかけての小杉榎邨書入あり。絵入。印記：「松平家蔵書印」。大正11年12月9日購求

内容：安房国忌部家系。忌部岡島家系。齋部宿祢本系帳

「安房国忌部家系」巻頭に「明治九年四月小杉榎邨今ノ戸主高山義行ニ就テ此家系本書ト云フモノ、卷子ヲ目撃スルニ其料紙ハ美濃紙ト云モノヲツギ立テ正楷ニモノセル筆跡ナド今四五十年バカリ過ザルモノト見ユ、サレド紙中ノス、ケ痛ミナドノヤウハ今少シ古ビタル如クニモノシタリ（後略）」と、「忌部岡島家系」巻頭に「明治九年八月榎邨岡島家ニ依頼シテ此家系原本を目撃スルニ美濃紙ニ本行ノ如クモノシテ今三四五年前ニ執筆セシ如クミユル（後略）」と、「齋部宿祢本系帳」巻頭に「明治九年八月今ノ戸主小野義久ニ親シク接シテ此本系帳ト云モノ今ノ原本ヲ見ルニ（後略）」と、校合した原本の様子を記した小杉榎邨識語がある。

今様集要 写本 1冊 27.2×17.4cm <830-26>

書名は書題箋による。巻頭：「拾玉集卷之第五<sup>五</sup>云今様」。江刺恒久識語あり。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

付：体源抄抜書

巻末に「此書ハ六樹園飯盛大人のもたる本を我俳諧の師森集亭の繁門大人か天保七年江戸の勤番の暇に写取て此盛岡に持下りてひめ置れたり、今借得て猶写取てやかて蔵本に加へおきつ 嘉永七年二月二日江刺恒久」と識語がある。

梅曲 田安宗武 写本\*（安永3年序） 1冊 26.4×18.8cm <830-25>

書名は内表紙上書による。書題箋：「梅乃曲」。巻頭：「梅」。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

付：（謡曲詳解）

小杉榎邨写本とみられる。『帝国図書館和漢書書名目録』も「小杉榎邨写」とする。

栄花物語 小杉榎邨校 刊本 [元和寛永年間] 20冊 表紙27.2×19.6cm

<WA7-126/元請求記号：830-88>

古活字版。元ラベル：「コ四共二十」。印記：「今出河蔵書」「杉園蔵」。大正2年12月12日購求

小杉榎邨による朱（数種）、代赭、緑、藍の加筆・書入が多数ある。緑色は「日本紀略」、藍色は「扶桑略記」の記事の移写が多い。ただし、第5冊から第15冊にかけて藍色の加筆はない。各巻末には以下のとおり小杉榎邨の識語がある。第1冊「慶応四年六月十日就三条西殿古本校畢」、第2冊「就古写本加校畢」、第3冊「慶応四年七月九日就古本校合畢」、第4冊「慶応四年七月廿九日就三条西殿古本校畢」、第5冊識語なし、第6冊「慶応四年九月五日就古本校畢」、第7冊「明治元年九月廿八日就古本校畢」、第8冊「明治元年十二月二日就三条西殿古写本校畢」第9、10冊識語なし、第11冊「明治元年十二月七日就三条西殿文庫之本校合訖此第廿一卷以下四十卷合冊七帖者別本小雙紙也標紙第識云世継」、第12冊「明治元年十二月九日校了」、第13冊「明治元年十二月十三日校了」、第14冊「明治元年戊辰十二月十六日雪窓灯下校畢」、第15冊「明治二年二月九日就三条西殿御本校合畢」、第16冊「明治二年二月二十四日校了」、第17冊「明治二年二月十七日校畢」、第18冊「明治二年二月廿日雨窓灯下校畢」、第19冊「明治二年二月廿六日校了」、第20冊「明治二年二月廿七日夜灯下就三条西殿御本一校畢」。なお、第1冊巻頭には小杉自筆の緑筆にて「康保三年 明治卅四マデ九百三十四」と記され、「卅四」を「卅一」に、「三十四」を「四十三」に朱筆で訂正している。『国立国会図書館貴重書解題』第2巻29頁及び『国立国会図書館古活字版図録』38頁及び238頁、『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」25頁参照。

栄花物語目録 写本 1冊 27.4×19.7cm

<830-159>

金沢文庫本の模写本。巻末に屋代弘賢識語あり。元ラベルあり。印記：「不忍文庫」「阿波国文庫」「杉園蔵」。印記影写：「金沢文庫」。大正8年12月9日購求

越後国内輪弓箭聞書老師物語 加治景治 写本 1冊 24.6×17.1cm

<830-29>

書題箋：「越後国内輪弓箭老師物語」。元ラベルあり。印記：「成沢氏収蔵記」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

明治24年に針重全平所蔵本の校訂註を小杉榎邨が移写した本。巻末に

「此書上杉家ノ旧藩士針重全平ニ示シツルニ他家旧來藏書數種ニ比較シタリトテミツカラ此書ヲ写シ得ツル一本ヲ又予ニ示ス、タゞニ見捨難ケレバ其針重手写校本ノマ、ヲ此書ニカキクハヘツ 明治廿四年四月 小杉園主人」と小杉榎邨識語がある。

延喜染鑑 写本（小杉榎邨写） 1冊 27.0×19.0cm <830-23>  
彩色図入。彩色紙貼付。元ラベル：「フ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

巻末に「弘賢自筆にてものしつる本によりなほ辰方かうつさしめたる本を参照してみつからうつしおく 杉園すきむら」と、小杉榎邨識語がある。書写及び校正本奥書を「寛政十年四月三日終写功 屋代弘賢」、「右式内染鑑者享保大君於吹上御庭親監臨令染試給命住吉某摸其色以令成一冊給辰方請需住吉氏而模写之 文化八年十月 松岡清助辰方（花押）」と移写している。

小野随心院所蔵文書 写本\*（影写） 1冊 38.7×28.0cm <830-37>  
元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

杜若考・母子草考・毒蛇はふ図説・翡翠二考（小杉榎邨編） 写本 3冊（小杉合1冊） 19.4×13.1cm <830-67>  
書名は書外題による。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年12月12日購求  
内容：杜若考母子草考（紙高18.2cm。印記：「新見文庫」。付：杜若考／岩崎常正（一枚物。図入。文化14年成立。大きき27.8×40.0cm）。毒蛇法部図説／[栗本] 丹州（紙高14.5cm。付：彩色図1枚。大きき28.0×36.8cm）。翡翠二考／[栗本] 丹州（付：翡翠図（大きき28.1×38.2cm）。鯛図（大きき28.1×38.0cm）。魚図（大きき28.0×37.6cm））

春日若宮祭式 写本 2冊 27.0×19.4cm <830-135>  
作成者全てに印判あり。神祇官付箋あり。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正5年7月8日購求

内容：第1冊：春日若宮祭神濫觴之事／春日若宮神主、同一社惣代朝倉従五位[差出]。神祇官御役所 [宛]（彩色図入。明治3年10月作成）。第2冊：春日若宮祭式事件并図面概略。大宿所掛物員数／春日若宮神社、同社惣代朝倉従五位[作成]。神祇官御役所 [宛]（彩色図入。明治3年10月作成）。懸島警衛等起元



年月由緒之事／春日若宮神主,同一社惣代朝倉従五位 [作成]. 神祇官御役所 [宛] (明治3年10月作成). 野太刀長刀等寄附根元之事, 大和士交名之事／春日一社惣代朝倉従五位 [作成]. 神祇官御役所 [宛] (明治3年10月作成)

冠辞一言鈔1卷附録1卷 賀茂季鷹 写本 1冊 27.1×19.2cm <830-18>  
書名は巻頭による,書題箋書名「冠辞一言抄」. 安永6年成立. 元ラベル:「ク二共三」. 印記:「不忍文庫」「阿波国文庫」「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

偽類聚三代格考12卷 荷田春満 写本 5冊 (帝国図書館合2冊) 27.0×18.7cm <830-20>  
元ラベルあり. 印記:「不忍文庫」「阿波国文庫」「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

皇国古字徴 松岡御調 写本 1冊 26.3×19.0cm <830-24>  
文久1年成立. 元ラベル:「キー」. 印記:「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

岡山先生書翰2卷 [淵岡山] 写本 1冊 25.2×17.0cm <830-30>  
元表紙角書:「陽明学」. 元ラベル:「テ」. 印記:「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

弘仁二年九月官物勘録 写本 (影写) 1帖 32.6×13.7cm <亥二-78>  
書名は書題箋による. 折本. 元ラベル:「サ三共六」. 印記:「杉園蔵」「一片月」「楡村」「楡園」. 大正2年7月9日購求

興福寺旧記 写本 2冊 (合1冊) 12.3×16.5cm (第1冊) 14.1×20.7cm (第2冊) <830-138>  
書名は第1冊元表紙書外題による. 第2冊元表紙朱書:「興福寺大乘院一乘院次第」. 第1冊は横半帳. 元ラベルあり. 印記:「興福寺印」「杉園蔵」. 大正5年7月8日購求

古経題跋2卷附録1卷 [鵜飼] 徹定 刊本 (出版事項不詳,明治2年序) 2冊 22.8×16.0cm <830-141>  
元ラベル:「サ二四」. 印記:「杉園蔵」. 大正5年7月8日購求

古言梯の誤またもれたる仮字 [村田] 春海 写本 1冊 26.1×18.8cm

<830-22>

書名は巻頭による。元表紙書外題：「仮字拾要」。元ラベルあり。印記：「堤氏帳秘」「上毛石文」「石文」「橘園蔵書」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

巻末に「此本嘉永五年壬子六月以永井英順之蔵書謄写 鏡屋主人(花押)」とある。

故実物図式 花林伊右衛門 写本\* 1冊 26.8×19.0cm

<830-83>

彩色図入。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」ほか。大正2年12月12日購求

古文類葉2編15巻 清水浜臣 写本 15冊 25.8×18.7cm

<830-28>

元ラベルあり。印記：「杉園蔵」ほか。大正2年7月9日購求

雑物出入帳 写本(影写) 2帖 32.2×13.4cm

<亥二-82>

書名は書題箋による。折本。元ラベル：「サ三共六」。印記：「杉園蔵」「一片月」「榎村」「榊園」。大正2年7月9日購求

内容：第1帖： 從天平勝宝八歳十月三日  
至延暦三年三月廿九日 雑物出入帳。 第2帖： 從弘仁五年九月十七日  
至天長三年九月一日 雑物出入帳

襍物出入継文 写本(影写) 1帖 32.6×13.6cm

<亥二-81>

書名は書題箋による。折本。元ラベル：「サ三共六」。印記：「杉園蔵」「一片月」「榎村」「榊園」。大正2年7月9日購求

付：齋衡三年六月雑財帳巻末一紙

讃岐府誌2巻 写本(明治8年佐伯右文写) 1冊 23.8×16.0cm

<830-1>

元ラベル：「ニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

小杉榎邨が徳島の国学者松岡調(1830-1904)所蔵本を佐伯右文に書写させたもの。巻末に「明治八年八月以松岡調蔵本課佐伯右文令謄写畢 小杉榎邨」と小杉榎邨識語がある。この直前に本文と同筆で「于時元文二年藤原政啓写之畢」と原本奥書を移写している。

山陵志 2巻 蒲生秀実 刊本 1冊 26.4×18.0cm

<830-9>

彩色写図綴込。元ラベルあり。印記：「不忍文庫」「阿波国文庫」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

付：自開化至于敏達凡二十三陵及南都諸陵図。自用命至于文武凡十陵図。(陵

墓所在絵図)

- 色紙考 川崎千虎 写本 1冊 27.5×18.9cm <830-82>  
図入。「帝国博物館」13行朱色罫紙使用。元ラベル：「ハ」。印記：「杉園蔵」。  
大正2年12月12日購求
- 自葬事略 小杉楹邨 写本（明治3年小杉楹邨自筆） 1冊 24.7×17.5cm  
昭和9年12月20日購求 <830-205>
- 漆器説 黒川真頼 写本（明治年間成立） 1冊 26.7×18.3cm <830-81>  
元表紙書外題：「漆器説・堆朱家譜」。絵入。「帝国博物館」13行朱色罫紙使用。  
元ラベル：「フ」。印記：「杉園蔵」。大正2年12月12日購求  
付：堆朱之家譜（巻頭による）
- 四天王寺諸堂社再建大概積高帳 公文所秋野,金利 [差出] 寺社御奉行所[宛]  
写本（享和2年） 1冊 27.5×19.5cm <830-7>  
元表紙書外題：「四天王寺諸堂社再建大概積高帳」。内表紙書外題：「享和二  
壬戌八月四天王寺諸堂社再建大概積高帳」。表紙は嘉永7年紀伊国屋忠蔵宛渦嶋  
四丁目源二地借 細屋六兵衛差出古文書裏紙使用。元ラベル：「テ」。印記：  
「南畝文庫」「大田氏蔵書」「福田文庫」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求
- 支那国通信事略4卷附記1卷 写本 1冊 26.0×18.5cm <830-11>  
「大学」10行黒罫紙使用。元ラベル：「ワ五」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9  
日購求
- 信濃国古器集録 写本 1冊 27.2×19.1cm <830-103>  
元表紙書外題：「信濃国古器等」。同訂正前外題：「長野県下古器類」。彩色図  
入。元ラベル：「サ二」。印記：「杉園蔵」。大正4年2月16日購求
- 紙譜 木村青竹 写本 1冊 23.8×16.9cm <830-72>  
書名は元表紙書題箋による。抄録本。元ラベルあり。印記：「福田文庫」「耕  
田楼蔵書記」「杉園蔵」。大正2年12月12日購求
- 聖武天皇宸翰雜集 写本（小杉楹邨影写） 1帖 32.5×13.7cm <亥二-80>

書名は書題箋による。折本。元ラベル：「サ三」。印記：「杉園蔵」「一片月」「榎村」「樹園」。大正2年7月9日購求

小杉榎邨影写本。巻末に「教部省権中録小杉榎邨謹写」と識語がある。

神祇雑考 黒河春村 写本\* 1冊 23.7×16.6cm <830-73>  
元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年12月12日購求

神聖考 (小杉榎邨編) 写本\* 1冊 23.0×16.3cm <830-71>  
元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年12月12日購求  
内容：神聖考／西田直養(弘化3年成立)。神聖考疑傍評私議(弘化4年成立)。  
神聖考疑弁／前田夏蔭疑。西田直養弁(嘉永1年成立)。神聖考斥非。三種神符考／[堀]直格(万延1年成立)。神聖考便蒙／[黒川]春村(万延1年成立)

小杉榎邨の写本。なかでも「神聖考疑弁」は国学者久米幹文(1828-94)所蔵本の写本。巻末に「ワか友水戸の殿人久米幹文かさいつころ伊吹舎の蔵本をかり及てうつしおけるをことし文久二年四月もと文にこひてうつしおきぬ、さゝのや翁の奥書は云々あれとその誤脱といへる誤脱ハもと文のかり得たる時はやゝ補ひ正して今のうつしの本なりしといへり 源真瓶」と小杉榎邨自筆識語がある。「三種神符考」は国学者飯田武郷(1827-1900)所蔵本の写本。巻末に「右神符考一冊飯田武郷か手写本をかりてこの間に補綴しぬ 明治九年三月はかり 榎邨」と小杉榎邨識語がある。「神聖考便蒙」は国学者黒川春村(1799-1866)所蔵本の写本。巻末に「右斥非便蒙ともに春村翁が本ともてうつしそへつるは文久二年葉月つこもりはかり真瓶」と小杉榎邨識語が付されている。

神鳳鈔 写本(明治9年小杉榎邨影写) 1冊 32.4×23.1cm <830-39>  
元表紙書外題：「古本神鳳鈔」。元ラベルあり。印記：「一片月」「杉園蔵」「榎邨」(識語印)。大正2年7月9日購求

神官御巫清直(1812-94)所蔵本の小杉榎邨影写本。巻末に「以清直秘蔵本再影写成功了 明治九年九月十日 小杉榎邨<sup>㊤</sup>」と小杉榎邨自筆識語がある。また、「神鳳抄流布本倉妄不審多々之間累年探索原本于旧家而不得焉粵中川九禰宜経晴神主以内宮文殿所蔵之古本被許借閱之、則所渴望之元本也、疑滯水解不堪欣悦、謹以影摸之但恐失古体一日写一紙、三十日而成功了于時嘉永六年癸丑二月十二日 御巫内人正六位上石部清直」と御巫清直所蔵本奥書を移写している。

政事要略 卷22-30,51-56,58-62,67,69-70,81,84,95 惟宗元亮著 小杉榎邨校 写本 27冊(小杉合9冊) 26.7×19.5cm <830-12>

残巻全てあり。元ラベル：「ク四共九」。印記：「不忍文庫」「阿波国文庫」「杉園蔵」「発印」(識語印)「小杉園」(識語印)。大正2年7月9日購求

佐藤誠実(1840-1908)所蔵本(烏丸文庫旧蔵本)をもとに小杉榎邨が校合したもの。各巻末に識語がある。巻22「就佐藤誠実手校本校読了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻23「就佐藤誠実手校本一校了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻24「就佐藤誠実手校本一校了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻25「就佐藤誠実手校本比校 小杉榎邨注書<sup>㊤㊦</sup>」、巻26「就佐藤誠実手校本自比校了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻27「就佐藤氏手校本比照注書 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻28「就佐藤誠実手校本訂正了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻29「就佐藤博士手校本訂正了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻30「以佐藤氏校本訂正了 榎園榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻51「就佐藤氏手校本比照注書 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻53上識語なし、巻53下「就佐藤氏手校本比照注書 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻54「就佐藤誠実氏手校本比照注書 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻55「就佐藤氏手校本比照注書 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻56「就佐藤氏手校本比照注書 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻58奥書「就佐藤氏秘本比照朱書了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻59「就佐藤氏校本比照朱注了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻60「就佐藤文学博士秘本比照注書了 文学博士小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻61「就佐藤氏手校本对照朱補 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻62「就佐藤文学博士自校秘本比照注写了 文学博士小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻67「就文学博士佐藤誠実手校本比照注書 文学博士小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻69「就佐藤文学博士手校本比照補注 小杉文学博士榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻70「就佐藤文学博士手校秘本比照補訂 小杉文学博士榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻81「就文学博士佐藤誠実手校秘本一日比照朱注了 文学博士榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻82「就佐藤博士手校本比照朱書 小杉文学博士<sup>㊤㊦</sup>」、巻84「就佐藤氏手校秘本一照細書了 小杉榎邨<sup>㊤㊦</sup>」、巻95「就文学博士佐藤誠実手校蔵本比照朱註 文学博士小杉榎邨功成<sup>㊤㊦</sup>」。巻55、巻62、巻84、巻95には本奥書を移写している。それぞれ「若狭守宗直貞(「興」と朱訂)書云元文四六廿八一校了」(巻55)、「一本以金沢学校古本借所伝写之本一校了文化壬申孟秋初四 章武」及び「安政六年己未春二月十七日就館庫一本校合栗田寛<sup>二十五二十七二十八二十九五十一五十三五十四五十七五十九六十六十一六十二六十六七十九七十八十一</sup>(巻62)、「一本奥書云政事要略残冊<sup>五十六五十八二十八十四</sup>廿冊以大理公麗卿<sup>巖野井</sup>之本書写之 宝曆十二年壬午冬十月 章純」(巻84)、「佐藤本跋文 蓋在烏丸文庫押印(識語文章略)天明丙午之冬從四位上行大判事兼左衛門大尉 明法博士中原章純謹識」(巻95)とある。

竹本正興家集 写本 3冊 30.9×21.6cm <830-85>  
彩色図入。元ラベル：「コ三共三」。印記：「杉園蔵」。大正2年12月12日購求

丹後旧史 写本 2冊 24.1×16.8cm <830-142>  
元ラベル：「サ二四」。印記：「今林文庫」「宮津住関文庫」「清謙文庫」「像艸園」「関印清謙」「杉園蔵」（下冊は「宮津住関文庫」「関印清謙」「清謙文庫」のみ）。大正5年7月8日購求  
内容（原則として標目による）：[第一冊]：丹後旧事記4巻。丹後田辺府志／華梁靈重（宝永6年自序。宝永7年出雲寺版の写本）。丹後田辺記。延喜式抄。七種原因（巻頭：「七種若菜」）。熊野山之事（巻頭：「熊野」）。宮津八景ノ和歌（巻頭：「宮津記」）。宮津城松之間海棠之間ノ図等。由良産建良家出一件。鶴賀町（標目にはなし）。[第二冊]：丹後風土記残欠。天橋図説／[貝原益軒]（享保10年成立）。大和命世記内宮外宮遷行之巻／岡田盤斎、匹田重淹（巻頭：「大和姫世記内宮迂幸」）。天橋山和歌集（元禄3年跋）。舞鶴城旧聞記（貞享5年成立）。鶴城雑記

「丹後風土記残欠」は奥書により写本作成の経過が分かる。「資益王家之蔵本積年懇望漸今年一覽不日頓臨写之畢 長享<sup>3</sup>年九月十日大聖院権大僧都真言大阿闍梨智海在判／右一卷雖落丁多錯簡不少一宮本与大内武波氏本以校合畢 慶長十三戊申年三月八日 沙弥素然在判／右一卷者中院前権中納言通勝卿真筆之写本加茂神社松下氏珍藏所請懇写之畢 宝永己丑年十一月吉辰 宮内大輔菅原長近在判」「安政二乙卯年七月十四日就加賀守藤原千尋所蔵本写・平種案／同四年丁巳年十月二日借谷森氏所蔵本写之 久米幹文／同五戊午年二月廿七日借久米氏蔵本而於駒籠邸中写之 大津明融」とある。

徴古年表 小杉榎邨 写本（明治後期成立。小杉榎邨自筆） 3冊 27.2×18.9cm <830-136>

巻頭：「稿本徴古年表」。『博物館／図書目録』10行黒用箋使用。元ラベル：「サ三」。印記：「杉園蔵」。大正5年7月8日購求

明治38年まで項目あり。記事は弘化4年まで。

篆法・十二点 写本（明治30年小杉榎邨写） 1冊 27.0×18.9cm <830-84>  
朱書あり。元ラベル：「ハ」。印記：「杉園蔵」「榎邨」（識語印）。大正2年12月12日購求

内容：篆法／秦李斯．十二点粟田

新井政毅（1827-1902）所蔵本の小杉榎郵写本。卷末に「明治三十年九月書写了㊦（印文：「榎村）」この篆法十二点の二書ハ友生川越の志義町にすめる新井政毅ニそのむかしこゝにすめりしを以三好永孝に就て書道をまなひとりし伝書ともうけつきしうちのものなりとてしめしつれば、参考にものせむとてせちにこひてもとのまゝにうつしおく、たゞ政毅の本ハミな墨かきなるを今は双鉤にしつるなり」と小杉榎郵識語がある。「十二点」には「弘化元甲辰孟冬 三好永孝」とある。

唐国行事 写本 2冊（帝国図書館合1冊） 26.3×18.0cm <830-16>  
元ラベルあり。印記：「阿波国文庫」「新井庫」「林氏図書」「東園文庫」「松嶋文庫」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

東大寺奴婢籍帳及古牒 写本 小杉合1冊 25.9×18.2cm <830-15>  
元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

内容：東大寺奴婢籍帳2巻（明治9年小杉榎郵校。印記：「阿波国文庫」）、大宅朝臣賀是万呂奴婢見来帳、東大寺古牒券（万延1年栗田寛校。明治8年小杉榎郵）、東大寺奴婢帳略（万延1年栗田寛校。明治8年小杉榎郵）

小杉榎郵が浅草文庫所蔵本（現内閣文庫本）及び栗田寛（1835-99）所蔵本をもとに校合したもの。「東大寺奴婢籍帳」巻1末に「明治九年八月十八日原本二就テ一校了 小杉榎郵」と、巻2末に「以上二巻明治九年八月十八日十九日両日浅草文庫楼上ニ於テ東大寺ノ原書ニ就テ比較傍書少今按ヲ加フ、一兩後暑熱九十一度 榎郵」と小杉榎郵識語がある。巻2末には「安永八年歳次己亥夏日以東大寺原本写之 左京藤貞幹」と原本奥書が移写されている。

「東大寺古牒券」巻末には、「就栗田寛蔵本比較補訂了 明治八年十一月五日 小杉榎郵」と小杉榎郵識語があり、「右東大寺奴婢籍一巻以延宝中所写彰考館本比較補訂類従本之闕謬了 万延元年夏五月十日夜半 栗田寛」との栗田寛本奥書が移写されている。また、「延宝辛酉夏六月下浣至南都東大寺仰油倉真本写之于寺内善性院裏書并校讎了」と、本奥書も移写されている。

また、「東大寺奴婢帳略」巻末には、「就栗田寛蔵本謄写畢 明治八年十一月八日 小杉榎郵」と小杉榎郵識語があり、「右東大寺古牒券一冊依彰考館本縮写本文如此 万延紀元五月十八日 栗田寛」と栗田寛本奥書が移

写されている。いずれも小杉榊邨の筆である。『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」25頁参照。

東夫余永樂大王碑銘解・荒山大捷之碑銘記事 写本 1冊 27.0×19.0cm

<830-76>

書名は書題箋による。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」「榊邨」（識語印）。大正2年12月12日購求

内容：東夫余永樂大王碑銘之解／青江秀 [著]。小杉榊邨校（書入：高句麗碑出土記（抄）。横井忠直著高句麗古碑考（抄）／横井忠直）。荒山大捷之碑（明治9年小杉榊邨写。伴信友書入移写）

「東夫余永樂大王碑銘之解」は小杉榊邨校合本。卷末に「右古碑注解郷友青江氏命ヲ奉シテ試ニ筆録スル所ナリ、注解ノ述意ニ於テ聊愚見ヲ示ス所アリシヲ以テ其原稿ノマ、ニ写サシメ寄贈セラル、者ナリ 明治十八年二月十八日 ㊦（印文：「榊村）」と小杉榊邨識語がある。また、別に「明治廿一年十月横井忠直カ著ス所ノ釈文ヲ以テ比較加朱ス」と識語がある。

「荒山大捷之碑」は小杉榊邨写書本。「以大沢氏蔵本自写 明治九年二月 榊邨」と記されている。また、「榊邨云荒山大捷之碑搨本一枚朝鮮装潢ノ古幅今帝國博物館ニ所有ス、実ニ珍奇ト云ベシ、余当時ヲ追想シテ措カザル余り総長ニ請ヒテ歴史部典籍室金石文科ニ陳列シテ衆庶ノ縦覧ニ供スルモノトナス 明治廿四年九月 杉園識」との識語が残されている。

唐房行履録・日新録 写本 1冊 24.6×16.0cm

<830-2>

元ラベル：「ヒ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

内容：唐房行履録3巻／敬光。日進録 巻5／敬長智遠

「唐房行履録」には「右唐房行履録三巻 石座大法主所借賜謹影鈔家蔵云 天保辛卯仲秋 江州刺史（花押）」と原本奥書が移写されている。

読大日本史私記 谷川士清 写本 1冊 22.9×15.3cm

<830-31>

「恒徳堂」11行黒罫紙使用。元ラベルあり。印記：「観月楼蔵書」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

「恒徳堂」は谷川士清（1709-76）の号。成立に関して「君侯ノ御本ヲ拝借シ読ニ随テ筆ス、敢テ水戸侯ニ対捍スルニ非ス、彰考館ノ史臣ヲ批評スル也、謹テ以服部氏ノ梧右ニ呈ス 安永甲午歲仲魯之日 谷川士清」と



ある。また、巻末には「老眼ナルヲモテ代筆セシム、請恕シタマヘ」とある。なお、「観月楼蔵書」印は谷川士清の主藤堂高猷の蔵書印。

得長寿院考 田中教忠 写本 (明治年間) 1冊 23.7×16.4cm <830-33>  
元ラベル: 「ヒ共三」. 印記: 「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

読令明道論 和泉真国、村田春海 写本 2冊 23.5×16.1cm <830-140>  
付: 書簡1通. 元ラベルあり. 印記: 「杉園蔵」. 大正5年7月8日購求

第2冊巻末に「片山賢蔵書を以て補ふこゝ春海の所蔵本をうつしつるものなり」と注記のある書簡を移写している。

長門国地誌備考・石見国地誌備考 写本 1冊 25.8×18.3cm <830-77>  
「教部省」10行緑色罫紙使用. 元ラベルあり. 印記: 「杉園蔵」. 大正2年12月12日購求

内容: (近藤清石手録抜粹長門国地誌考証)\* / 近藤清石. 長門国豊浦郡阿弥陀寺安德天皇御影堂実檢勘註 (内表紙による. 巻頭: 「長門国赤間関阿弥陀寺御由緒」). 石見国名跡考 [抜粹]\* / 藤井宗雄 (最終2丁のみ「教部省」13行茶色罫紙使用)

奈良正倉院保存鳥毛立女屏風絵 写本 6帖 123.8×52.4 (折畳27.2×17.8) cm <830-70>

書名は題箋による. 内題: 「東大寺献物帳天平勝宝八歳六月廿一日注進鳥毛立女図屏風六」. 量物. 元ラベル: 「セ六」. 印記: 「杉園蔵」「榎邨」. 大正2年12月12日購求

各巻に、「就帝国博物館所蔵影摹本写之六鋪之一」とある。巻数が記されていないが、巻毎にそれぞれ、「榎邨原本を拝観するにところところ大いたみあり、故に入墨補筆にいとおほし」、「明治廿一年八月正倉ニ入り原本ヲ拝観スルニ此一本紙中コトニ新シ 榎邨識」、「正倉院所保存聖武天皇御屏風絵二鋪之一 就大岩某模本又所写 田中尚房者也」と小杉榎邨識語がある。また、天平勝宝四年の貼紙を移写した貼紙があり、「右鳥毛立女屏風 料紙裏ニカケル所ノ文 明治三十一年 月御修飾ノ時発見」と小杉榎邨識語があるものもある。さらに、別巻に「正倉院東大寺所保存聖武天皇御屏風絵二張之一 就大岩氏模本写之㊦ (印文: 「尚房」)」と故実家田中尚房 (1839-91) の自筆識語があるものもある。

丹生神社古文書 加納諸平,伴信友,小杉榎郵校 写本 (明治9年小杉榎郵写)  
1冊 27.2×19.1cm <830-10>

彩色絵図入。元ラベルあり。印記：「杉園蔵」「榎村」(識語印)。大正2年7月9日購求

内容：丹生大明神告門。丹生氏系。丹生名神御位階勳状事。高野山某院秘蔵所稱丹生明神神像 (冷泉為恭縮図)

小杉榎郵書写本。卷末に「ことし特選神名牒編纂の事につきて丹生都比売神社考証の料にとて和歌山県令におほせてこの告門氏文といふものの原本をもとめ給ひしに今は真の原本といふものは得かたしとてそれこれ写し伝ふるもの、うち本社祠官丹生一麿祠堂丹生所謂大祝なり徹所謂二ノ祝なりほか所蔵各種二部をとり出て進覧す(中略)明治九年八月十五日教部権中録小杉榎郵<sup>㊦</sup>と小杉榎郵識語がある。

また、それぞれ原本奥書を移写している。「丹生大明神告門」卷末本奥書「丹生家蔵本奥書ナシ本云広永五年二月之候以神主所持之本写之但於点者交合諸本而模之即校之了 左学以権大僧都定秀<sup>禱</sup>」。「丹生氏系」卷末本奥書「享保元年丙申九月十七日本中院大乘院宝庫写焉 英仙日光院以一本校合 栗田寛」。「丹生大明神告門」卷末本奥書「丹生家蔵本奥書ナシ本云広永五年二月之候以神主所持之本写之但於点者交合諸本而模之即校之了 左学以権大僧都定秀<sup>禱</sup>」。「高野山某院秘蔵所稱丹生明神神像」には「信友按(後略) 弘化二年九月十七日於平安得之」とあり、伴信友所蔵本の移写本であることが分かる。

西陣織物詳説6編 写本 2冊 27.0×18.8cm <830-66>

元ラベル：「フ共二」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

内容：第1篇生絲撰立之部。第2篇絲調之部。第3篇練法之部。第4篇染法之部。第5篇機仕掛之部。第6篇織法之部に分篇

二中歴 写本(小杉榎郵影写) 7冊 22.8×15.8cm <830-35>

元ラベル：「キ四共七」。印記：「杉園蔵」「一片月」「榎郵」(識語印)。大正2年7月9日購求

小杉榎郵影写本。卷1末に「二中歴十三帖 従四位菅原利嗣君旧加賀侯前田家曾テ秘蔵シ給フ所ノ古写本ナリ今茲明治十年六七月間タマタマ披閱スル事ヲ得テ頓ニ筆ヲ起シテ影写神速功成了、蓋シ原書ハ所謂胡蝶装ニシテ料紙ハ厚斐紙ナリ毎紙両面七行白欄ヲ抹シテ筆ヲ下ス其紙筆ノ古色掬スヘシ、今新写之ヲツトムトイヘトモ真ニ似サル事遙ニ遠シ只惜ムラクハ接縫脱落シ或

ハ闕込ニ属スルモノアリ、然ルニ同家ナホ所蔵シ給フ壹部七冊ノ新写本註  
續十四年ノ  
文アルモニ就テ之ヲ追校スルニ頗補綴スルモノアリテ完備スル所ニ近キヲ覺  
ユ 余先年一友生ノ所齋神代人代皇后女院公卿侍中ニ至ル殘闕二本二本ト  
第四本ノ二冊ヲ見シ事アリ、又頃者浅草文庫ニ於テ神代歴ヨリ公卿歴ニ至  
ル二本ト第二三四五六ノ七冊合テ三本  
ニ製ス借覽ヲ得シ事アレトモ未タ如斯數本ア  
ルヲ見ス、実ニ希世ノ珍ト云ヘシ、故ニ其ノ所獲ノ顛末ヲ聊附記シ併テ同  
志ニ之ヲ諗クト云、九月廿又五日 於東京駿河台僑居小杉榎邨識<sup>㊤</sup>と小  
杉榎邨識語がある。

日本感靈録 写本\* 2冊 (合1冊) 26.7×19.2cm <830-13>  
元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求  
内容：日本感靈録／義昭著 伴信友、栗田寛、小杉榎邨校（写本）。潤背 卷上  
（写本 明治27年小杉榎邨写）

「日本感靈録」と「潤背」とは紙質が異なる。「日本感靈録」は長沢伴  
雄本を写した伴信友本をもとに写本を作成、彰考館本（久米幹文本）を写  
した栗田寛本と田中教忠本（旧高山寺本、現竜門文庫蔵）をもとに校合を  
したもの。卷末に「右日本感靈録鈔本墨付十四葉長沢伴雄以或秘蔵本  
所摹写也今懇請写畢原書朽損可惜 天保六年乙未八月二十七日 伴信友」  
と伴信友本奥書を移写している。また、同じく卷末に代赭色筆にて「以水  
府本一校 奥書云 右日本感靈録殘篇惜蠹食難雖然以其古色可愛故写一本  
以贈之水屋久米君時文久紀元夏五月十八日 栗里迂人」との栗田寛本奥書  
が移写されている。さらに、「原本今伝京都町人田中堪兵衛教忠之家余懇  
請借覽一一比校以悉復旧実是田中氏之賜也 明治廿六年十二月 小杉榎邨  
識」と小杉榎邨識語がある。

一方、「潤背」卷末には「右潤背上一卷零本以前田侯爵蔵奔本臨写之  
明治廿七年二月 小杉榎邨」と小杉榎邨自筆識語ある。

日本語意便覧 卷1,3-6 西野古海 写本 5冊 (小杉合3冊,帝国図書館合2冊)  
26.9×18.9cm <830-6>  
朱書書入あり。元ラベルあり。大正2年7月9日購求

仁寿鏡 影写本 1冊 35.0×25.0cm <830-38>  
元ラベル：「サ三」。印記：「阿波国文庫」「在々復此」「杉園蔵」。大正2年7月9  
日購求

卷末に「右仁寿鏡一卷以智積院惠岳僧正本 書写 文化十四年二月廿二日 檢校保己一 以埒氏所藏本影写」とある。

年貢納帳 写本 1冊 20.7×12.9cm <830-68>  
内表紙尾書：「天文廿辛亥九月吉日」. 天文20年成立. 東寺. 嵯川式胤識語あり. 大正2年12月12日購求

能書方 写本 1冊 29.7×20.5cm <830-86>  
書名は元表紙書題箋による. 元表紙標目：「百十九 卷状表 百二十 御願文 御諷誦文 百二十一 臣下願文ふしゆ文勸進帳比叡山戒帳 百廿廿一」. 森尹祥書入あり. 元ラベル：「ハ」. 印記：「根津文庫」「杉園藏」. 大正2年12月12日購求

「根津文庫」は江戸時代の書家森尹祥の蔵書。森は屋代弘賢の書の師。各巻頭、「奏状可書様之事」に「百十九」と、「華山院四十九日御願文」に「百二十」と、「為亡恩澄明四十九日願文」に「百廿一」と朱書されている。本文は古文書を収集したものであるが、文中に朱書で字の大きさや行間の取り方などについてただし書があり、「何モ以此趣可清書品々々々可点見源尹祥謹記之」という巻末の識語から森尹祥の手によることが分かる。

暴涼帳 写本 (影写) 2帖 32.6×13.7cm <亥二-79>  
折本. 元ラベル：「サ三共六」. 印記：「杉園藏」「一片月」「榎村」「榎園」.  
大正2年7月9日購求  
内容 (書題箋による)： 上卷：延暦六年六月暴涼帳. 下卷：延暦十二年六月暴涼帳

『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」25頁参照。

飛騨国春慶漆工系統 福田吉郎兵衛 写本 (明治38年) 1冊 23.8×16.4cm <830-75>  
書名は書外題による. 内表紙書名：「明治三十一年調査<sup>飛騨國特産</sup><sub>飛騨國本派</sub>春慶漆工系統記」. 元ラベル：「フ」. 印記：「杉園藏」「春蘭」(識語印). 大正2年12月12日購求

付：<sup>飛騨</sup>春慶塗工系統図 (大きさ47.2×33.1cm)

巻末に「この系統記は今年飛騨国に遊びてくさくさの風俗を見きくのついで名産春慶ぬりの事に及びしを福田吉郎兵衛さきつとし取しらへつるも

のありとて見せつるかいとこまかに材料にあつへき良書なりとおほゆるを  
もてやかて福田に依頼し一本うつさしめてもち帰りぬ 明治三十八年八月  
はかり 杉園主人㊟と小杉楡邨識語がある。

襖装式 写本 1冊 27.0×19.0cm

<830-80>

書名は書外題による。朱書書入あり。元ラベル：「フ」。印記：「杉園蔵」。大正2年12月12日購求

内容：掛物仕立雛形\*（絵）。[襖装式]（絵入）／木村長蔵。椎園叢書巻五の中  
小笠原流表具雛形／蜂屋惟清（絵）。石州流表具要法（絵）

「小笠原流表具雛形」朱書書入は「朱書駒塚本ト校合スル所」である。  
また、巻末に「文政八年乙酉十一月就柳亭蔵本写 椎園」とある。「石州流  
表具要法」には「石州流表具要法 駒塚本 予カ本ト校合シ補写ス」「石  
州流三百ヶ条ノ内表具要法ト云写本ヲ駒塚愚一ヨリ借覧シテ校合スルニ大  
同小異<sup>明治三年庚午十月  
補写 附入</sup>」との識語がある。

ふる寺のしるべ 写本 1冊 24.2×16.3cm

<830-139>

元ラベル：「サ五」。印記：「杉園蔵」「楡邨」。大正5年7月8日購求

内容：薬師寺縁起国史。霜沙門堂<sup>霜沙門堂</sup>跡備考／田中教忠（明治37年成立）。巻尾山  
縁起証文等之事（標目及び内表紙：「楨尾山縁起証文等之事」）

「巻尾山縁起証文等之事」巻末に「本書楨尾山にものして宝物調査のを  
りかり出て参攷にとてうつさしむ 杉園主人㊟と小杉楡邨識語がある。  
また、「右之本者当寺理趣院善海坊法印快賢被置写之畢、于時寛文二年壬  
子正月廿八日泉州巻尾山観音院常住也」と原本奥書を移写している。

文房四賢伝 写本 1冊 27.2×18.5cm

<830-78>

元ラベルあり。印記：「不忍文庫」「温古堂文庫」「杉園蔵」。大正2年12月12  
日購求

内容：文房四賢伝／三宅緝明。文房四賢詩

法隆寺所蔵玉蟲厨子図 写本 4帖 折畳26.7×19.3cm（各巻参照）

<830-69>

書名は題箋による。量物。彩色絵入。元ラベル：「セ二乙共四」。印記：「杉  
園蔵」。大正2年12月12日購求

内容：法隆寺所蔵玉蟲厨子<sup>須弥臺</sup>所画<sup>密陀</sup>舍利供養図（大きさ76.3×53.3cm）。法隆

寺所蔵玉蟲厨子須弥座所画影金光明王經捨身品之意（大きさ76.6×43.9cm）、法隆寺所蔵玉蟲厨子須弥座所画影涅槃經得四句文之意（大きさ76.0×43.8cm）、法隆寺所蔵玉蟲厨子須弥座所画影須弥山図（大きさ76.6×53.3cm）

慕景集 太田持資 写本 1冊 22.9×16.4cm <830-32>

代緒の注記あり。元ラベル：「コ三」。印記：「石原蔵書」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

附：水戸澹泊先生来書之内抄出。白石先生返事之内抄出。慕景集作者考／前田夏蔭

「慕景集作者考」巻末には、慶応2年7月の前田夏繁識語を移写している。

法曹至要抄 石斎鶴信之訓点 山田以文壺井義知校訂書入 刊本（浪華 加賀屋善蔵刊 出版年不詳） 3冊（帝国図書館合1冊） 25.6×18.3cm

<830-14>

寛文2年（1662）洛陽村上勘兵衛刊本の後版。元ラベル：「キ二」。印記：「東園文庫」「林氏図書」「新居庫」「杉園蔵」「発印」（識語印）「小杉園」（識語印）。大正2年7月9日購求

新井正方所蔵本を小杉樞邨が入手したもの。巻末に「わか友正方か秘蔵せしか死後蔵書をみな売り払ひしをり東京のふみやあかしかたか手におちしときわか友林厚德これをもとめ得て秘蔵せしかまた厚德死後その蔵書をみな吉川半七にうりし□ものしつるよしき、てそれをあかなひ今は蔵書とす 明治廿三年十一月 小杉樞邨<sup>㊦</sup><sup>㊦</sup>と小杉樞邨識語がある。また、同じく小杉の筆で「此法曹至要鈔三卷付紙并書入者吉田祠官山田阿波介以文先生手書所贈勢州御師足代弘訓也其本有故伝于早雲高吉先生矣予亦転写而秘玩之者也 天保十三年十月日」との本奥書を移写している。別に「不忍文庫旧蔵壺井氏校訂ノ本書別ニ一部維新ニ際シテ藩主公ヨリ申請ヒテ所蔵セシヨ明治三十八年三月ニ及ヒテ大槻如電旧襲ノ古版本元禄年間以前ニ係ルモノヲ陳列シテ学友ニ縦覧ヲ促ス事アリコノ美挙ヲ賛同シテ即チ其不忍文庫印及び阿波国文庫踏印ノ三冊ヲ割愛ス、サレハ其ノ壺井氏ノ鬚頭傍註ヲコノ本ニ倉惶ウツシトリコノ奥書ヲコ、ニウツスモノトセリ、記念ノ為ニ一言ヲ加フ<sup>㊦</sup><sup>㊦</sup>（壺井奥書文章略）享保八癸卯孟春人生 壺井義知」との小杉樞邨識語があり、壺井義知旧蔵別本の校訂を移写したことが分かる。

本草和名 深江輔仁等奉勅撰 多紀元簡校 刊本（江戸 和泉屋庄次郎 寛政

8年序) 2冊(帝國図書館合1冊) 26.6×18.4cm <830-17>  
小島尚質,尚真書入. 元ラベルあり. 印記:「温古堂文庫」「小島氏図書館」  
「掃葉山樵」「谷質投読」「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

上巻末には「天保四年八月狩谷椋斎伊呂波字類抄參校本審訂併及椋老校語質記」と、また下巻末には「天保四年九月三日据伊呂波字類抄參校本西城直舎灯下朱校往年余從屋代弘賢借字類抄与亡友山本恭庭同校未就恭庭已為泉下人今再照狩谷望之手校本卒功併記狩谷氏校語以示子孫之嗣是学者江戸小島質誌」、「天保十五年七月廿八日据香葉抄引一校併及香葉抄裏書時雨窓画静質又誌」と、小島尚質(宝素)の識語がある。また、「此書寛政校刻之際間有誤脱文字曾部依医学原鈔訂正以事務恹悞不累頃之友人森立之就原鈔校訂尤詳仍仮立之校本校勘一過更以原鈔本再審卒業聊記其田安政乙卯夏五初二日尚真識㊦㊦」とある。別に「本文田安殿近習番岡田多門 序奥御右筆手伝屋代太郎 提要浪人武田源次郎 享和二年壬戌秋八月廿七日初刷装釘(文略)多紀安長」「右安長法眼手記に据てしるす 尚真」と、小島尚真の識語がある。『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」24頁参照。

蒔絵集説・髻譜 榊原芳野 [小杉榎邨編] 写本(榊原芳野自筆) 2冊  
(小杉合1冊) 24.9×16.3cm <830-4>

図入. 元ラベルあり. 印記:「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

内容:蒔絵集説/榊原芳野考証輯録(明治8年,榊原芳野自筆,「文部省」10行朱色野紙使用). 髻譜/榊原芳野編(榊原芳野自筆)

ともに榊原芳野自筆本。内表紙裏に小杉榎邨が入手した経緯について「こは榊原芳野自筆の稿本なり、一書舗の反故堆の中より見出して蔵書とす」と小杉榎邨識語がある。また、成立に関し巻末に「明治八年九月 紀元二千五百二十五年 製造諸法蒔絵工五十嵐佐吉 考証輯録榊原芳野」と奥書がある。『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」24頁参照。

まゝき考・提灯考 写本 2冊(合1冊) 27.9×19.6cm <830-21>

書名は小杉筆書題箋による。元ラベルあり。印記:「杉園蔵」. 大正2年7月9日購求

内容:麻々伎考/[屋代弘賢](書名は原著元表紙による,屋代弘賢自筆,「古今要覧稿」稿本. 印記:「不忍文庫」). 提灯考/[本多忠憲著](紙高26.6cm,

印記：「阿波国文庫」「在々復此」)

『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」24頁参照。

湯島紀行 永井精古 写本 1冊 26.7×19.4cm <830-79>

元ラベルあり。印記：「杉園蔵」。大正2年12月12日購求

謡曲秘書 写本 1冊 24.0×16.7cm <830-5>

書名は書題箋による。元ラベル：「卜」。印記：「雁清」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

令鈔 [一条兼良] 写本 3冊 (帝国図書館合1冊) 28.1×20.8cm

<830-19>

元ラベルあり。印記：「不忍文庫」「阿波国文庫」「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

上巻末に「文明第十曆小春中旬令全部十卷書写已後奉受禅閣御説同鈔出少々総写申訖法務前大僧正巖宝／後成恩寺殿御抄也不可外見可秘々々親衛大將軍藤原朝臣在判」「右以後円明寺殿御自筆写之雇人之手早卒繕写之再往加校正了 延宝己未年三月吉日」との原本奥書を移写している。

蓮華王院三十三間御堂考2巻 田中教忠 写本 2冊 23.8×16.4cm

<830-34>

書名は元表紙書外題による。巻頭：「現存蓮華王院三十三間堂考」。朱書入り。元ラベル：「ヒ共三」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求

元表紙及び下巻本文紙は「得長寿院考」と同一のものとみられる。

渡辺推庵遺像裏書 南部晋編 写本 1冊 27.1×19.3cm <830-137>

書名は内表紙書題箋による。同角書「南部晋編纂」。同尾書「臨時全国宝物取調局第一号登録之附属」。巻頭：「渡辺勘兵衛遺像裏書」。印記：「南部家蔵」「杉園蔵」。大正5年7月8日購求

付：雄山肖像。近江国伊香郡七郷村大字横山式内兵主神社所蔵遊山文書 (大きき39.4×69.4cm。「明治三十六年二月一日夜於灯火 兵主神社掌南部晋摸」)。(書画古器物図)。(渡辺家系図)。(渡辺推庵翁一族之墓銘之写



## <小杉榎邨編綴主題別資料>

工芸一斑 [小杉榎邨編] 写本 1冊 26.6×19.2cm <830-43>  
書名は書外題による。元ラベル：「フ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

内容（主に標目による）：土工葺瓦工考<sup>1</sup>（内表紙「木工式之内土工葺瓦工考」。明治20年川崎千虎写）。くつがた・しゃちほこ\* / [屋代] 弘賢（「古今要覧稿」抄録）。松屋外集（抄）\* / （小山田与清）。国華収載書ぬき\*（内容：東大寺盧舎那仏雛形。『国華』31号）。青瓷説<sup>2</sup> / 糞心道人（小杉榎邨写。明治5年成立）。宝鐸\* / [屋代弘賢]（巻頭：「古今要覧稿宝鐸」。鏡面に仏影を現す\* / 黒河春村。又国華かきぬき\*（内容：乾漆製仏像（『国華』33号）。伎芸天女像（『国華』36号）。三月堂執金剛神（『国華』28号）。十一面観自在尊木像（『国華』20号）。東大寺三月堂梵天像（『国華』26号）。蓮慶作文殊菩薩維摩居士（『国華』34号）。伎楽の面\* / 福地復一。能面の説\*。仮面の説\*（本文「仮面譜」。仮面譜 / 喜多古能（寛政9年序）。面目利書細工各伝\*（標目なし）。面十作之名（享保12年成立。印記あり）。黄檗山の仏師范道生\*（巻頭：「隠元禅師の仏師范道生」。『譚海』巻6書抜）

杉園雑集 写本 11冊 25.4×18.0cm <830-106>

印記：「南部家蔵」（第2-4冊にあり）「晋印」（識語印、第4冊ほかにあり）「渡辺氏図書記」（第11冊にあり）「杉園蔵」「榎邨」（識語印）。大正4年4月20日購求  
内容：第1冊：官職方稽古入門式 / 速水房常（寛保3年成立。大きき25.5×18.2cm）。神拝伝。第2冊：神祇伯伝<sup>3</sup>（大きき26.3×18.3cm）。第3冊：神祇官之記<sup>4</sup>（内表紙書名による。巻頭：「神祇官御年貢進社事」。大きき27.6×19.9cm）。第4冊：日吉社々領注進記<sup>5</sup>（大きき26.9×19.5cm。）。第5冊：雑役庄取納之内近年之作法<sup>6</sup>（内表紙書名による。巻頭：「雑役庄近年之作法」。元表紙上書：「杉園雑集 中」。大きき27.6×19.6cm）。第6冊：伊達伯爵家所蔵芳野花見懐紙\*（元表紙「杉園雑集 下」。大きき27.6×19.7cm。「東京帝室博物館」13行朱色罫紙使用）。第7冊（大きき27.7×19.7cm）：江州滋賀郡仰木五社権現縁起（巻頭：「仰木権現縁起」。享保11年成立）<sup>7</sup>。縁起 医王山毛越寺金剛王院（附：[明治28年10月20日出張宝物鑑査掛小杉榎邨御尋問要点につき]参考書）<sup>8</sup>。勅使舞伝本。第8冊（大きき27.6×19.9cm）：元和八年正月廿八日於八条宮様（邸連歌記録）\*（小杉自筆奥書あり。原本は高橋健自所蔵）。片野邑平所蔵山岡明阿弥自筆妙寿院本土佐日記奥書\*。子爵松平定教君記録守国公御伝記のぬき書\*。（写図料領収書）。年中御祝次第\*。（文明二年庚寅

大柁)\* (「文部省／古事類苑稿」用箋使用。「明治二年五月記」とあり)。(古書画目録)。(源直義願文)。(横川楞嚴院营造會議案(「晋印」印あり)。(平泉碑銘\*。朝隆卿筆をうつしたりとミゆる願文の原書といふものゝ跋(「臨時全国宝物取調局」13行黒色罫紙使用)。(金光明最勝王經十幅曼荼羅)\* (「帝国博物館」13行朱色罫紙使用)。(金色堂棟木記文\*。金色堂二関ル文書\*(「臨時全国宝物取調局」13行黒色罫紙使用。「中尊寺」橙色罫紙による貼込あり)。(第9冊(大きさ26.4×19.0cm) : 愛久沢家伝<sup>9</sup> / 中間継衛。宮下熱海入浴中之愚詠(内表紙角書「文政庚寅初秋廿日発」)。(第10冊(内表紙「小杉榎村先生 杉園雜集上十一冊合本」とあり。大きさ24.7×17.2cm) : 淡風。屋代太郎源弘賢諸国風俗問状目録。今様乃譜\*(内表紙に「スー」と書込あり。「杉園藏」印あり)。(今益歌(貼込1枚。大きさ22.1×29.6cm)。(第11冊(大きさ24.2×16.2cm) : 冷泉為紀伯爵返書\*(高崎大人宛)。(恒為書簡)。(時代不同歌合\*(「東京帝室博物館」13行朱色罫紙使用)。(渡辺華山消息\*(原本森田包克所藏)。(渡辺華山文2通)\*。(豊臣秀吉書状)\* (水野宗兵衛宛。原本子爵水野忠敬所藏)。(書状4通)\* (「好古社」10行桃色罫紙使用)。(山名義海所藏横物\*(勘修寺中納言宛天海書状。「東京帝室博物館」13行代赭色罫紙使用)。(市川万庵所藏書状3通)\* (「好古社」10行桃色罫紙使用)。(飛鳥井殿宛右府実量公(禪定)消息(「好古社」10行桃色罫紙使用。原本松浦伯爵所藏)。(越後国三嶋郡寺泊村大町菊屋事五十嵐紀一所有の中(書簡3通)\*。(福島県岩代国耶麻郡境川仲町赤城源右衛門所藏(書簡26通)\* (「東京帝室博物館」13行代赭色罫紙使用)。(右大将頼朝卿筆消息)\*。(「好古社」10行桃色罫紙使用。明治35年1月前田香雪識語移写)。(正二位権大納言菅原継長卿日記残欠一葉傍注\*(原本飛騨国吉城郡古川町渡辺章所藏)。(姉小路基綱卿消息の裏面二書之タル日記残欠につき) / (飛騨国国府村)岡村利兵衛(「渡辺氏図書記」印あり)。(断簡)(貼込)。(鎌倉裁許書巻卷写(「帝国京都博物館」12行黒色罫紙使用。原本京都市上京区聖護院末住心院所藏)

第10冊の「小杉榎村先生 杉園雜集上 十一冊合本」という識語により、小杉榎村自身による編綴資料ではないと考えられるが、資料の性格上「小杉榎村編綴資料」の項に入れた。

書画一班 [小杉榎村編] 写本 1冊 23.9×16.5cm <830-74>

印記: 「杉園藏」。元ラベルあり。大正2年12月12日購求

内容(主として標目による): 帝国博物館所蔵野詠白氏文集詩添書付佐藤誠実所蔵墨拓本\*(巻頭: 「帝国博物館所蔵野跡添書」。「帝国博物館」13行朱色罫紙及び「帝国博物館歴史部」20×10朱色原稿用紙使用)。(渥美螭軒書伝\*(巻

頭：「渥美蟬軒王右軍書伝五位百法口授目錄」。建部伝内入木道教訓\*（「澄水会」12行代赭色罽紙使用。原本江藤正澄所蔵）。渡辺章蔵書尊円親王書卷跋文\*（巻頭：「飛騨國人古城郡古川町渡辺章蔵品古今集俵字序跋文」。「澄水会」12行代赭色罽紙使用）。玉園快応蔵教長卿筆経跋文\*／向山栄（巻頭：「玉園快応蔵教長卿手写理趣経跋」。明治29年成立。「澄水会」12行朱色罽紙使用）。筆跡鑑定\*／前田香雪（「澄水会」12行朱色罽紙使用）。古筆了佐略系（巻頭：「古筆家略系」）。古筆鑑定家印譜／古筆了伴（巻頭：「<sup>補</sup>古筆了伴先生正得許可上木和漢書画古筆鑑定家印譜」。明治26年5月10日古筆了悦刊。一枚物）。冬木手鑑目錄\*（巻頭：「浅草区大谷善八郎所有冬木手鑑目錄」。「澄水会」12行代赭色罽紙使用）。和久半左衛門墓法名死去年月\*（「澄水会」12行朱色罽紙使用）。延宝三年刊行手鑑の序文\*（巻頭：「延宝三年刊行手鑑といふものの序にいふ」。「澄水会」12行代赭色罽紙使用）。長恨歌絵\*（「帝国博物館」13行朱色罽紙使用）。伴大納言絵\*（「帝国博物館」13行朱色罽紙使用）。定家卿真影\*／信実（巻頭：「京極黄門真影」。「帝国博物館」13行朱色罽紙使用）。師宣画吉原と芝居との図に題す\*（巻頭：「もと松坂屋所蔵なりし菱川師宣ゑかきし吉原と芝居との図」。「帝国博物館」13行朱色罽紙使用）。柳菴筆肖像<sup>子</sup>目録（巻頭：「栗原柳菴筆肖像目録」）。扶桑名画伝解題\*／松尾四郎（「帝国博物館」13行朱色罽紙使用）。前田侯爵所蔵素眼筆新札\*（巻頭による）。山本基庸筆忠度百首奥書\*（巻頭：「同（前田侯爵）蔵山本基庸筆忠度百首」）。郷里小伝<sup>蘇</sup>両氏\*。素眼筆新札上下二巻奥書\*（巻頭：「古筆了仲所蔵素眼筆新札上下二巻」）。一文字石譜\*（巻頭：「中井敬所蔵一文字石譜」。彩色図入。「帝国博物館」13行朱色罽紙使用。附：一文字石記。山崎新次郎手簡。輪池翁箱のうらがき。箱のおしいた裏にしるしてはいはく／中根淑）。尾州家西行物語奥書\*（巻頭：「尾張徳川侯爵所蔵西行物語零本一卷奥書」。「帝国博物館歴史部」20×10朱色原稿用紙使用）。画人小伝（小杉榎邨書入あり）。古絵巻目録\*（巻頭：「古絵巻目録」。「杉園蔵」30×12朱色原稿用紙使用）。絵難坊画を論ず（巻頭：「絵難坊画を論ずる事」。「河合庫太郎」）。名家真蹟款字式／安西雲煙（刊本抜粹。『近世名家書画談』1-2編附録。2編は天保15年刊）

諸国陶器集説七宝焼附 [小杉榎邨編] 写本 1冊 24.2×16.2cm <830-40>  
書名は書外題による。元ラベル：「フ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

内容：本邦玻璃七宝ノ説／黒川真頼（「黒川書斎」20×10黒色原稿用紙使用）。英国人ボース氏の七宝窯略説\*<sup>10</sup>（「杉園蔵」30×12朱色原稿用紙使用）。嬉遊笑覽二下（抄）。装剣奇賞（抄）。蔭涼軒日録（抄）（貼込1枚）。七宝師平田家系\*

(「帝国博物館」13行朱色罫紙使用)。鑿工譜略／栗原信充(天保15年刊本の写。「高等商業学校」10行朱色罫紙使用)。名古屋七宝\* (「帝国博物館」13行朱色罫紙使用)。七宝烧起源碑文之写／横田太一郎(明治20年9月成立。刊本切抜。著者は愛知県東海西郡長)。塚本貝助幼少ヨリノ履歴概略(明治21年9月迄の内容。「杉園蔵」30×12朱色原稿用紙使用)。七宝烧愛知県取調書(小杉榎邨識語あり。「高等商業学校」10行朱色罫紙使用)。小堀道具入日記(貼込み1枚)。陶器の沿革。青磁目録<sup>11)</sup>(小杉榎邨写。天保9年仲冬成立。「帝国博物館」13行朱色罫紙)。[鬼足千鳥]。浄清所解\* (「帝国博物館歴史部」20×10朱色原稿用紙使用)。松平頼聰献品千鳥香炉記\* (「帝国博物館」13行朱色罫紙使用)。遠江国榛原郡シド口村瓶烧古文書五葉\* (「帝国博物館歴史部」20×10朱色原稿用紙使用)。加藤唐四郎伝記<sup>12)</sup>(明治23写)。藤四郎小伝\* / 刑部陶痴(「史学協会雑誌」30×13桃色原稿用紙及び「杉園蔵」30×12朱色原稿用紙使用)。陶祖春慶翁之碑／阿部伯孝(明治21年愛知県春日井郡瀬戸村陶器館刊。慶応2年成立)。瀬戸陶器考／横井時冬(20×10青色原稿用紙使用)。陶玉園加藤五助陶磁器製造伝記／第四世加藤五助(書名は表紙による。明治22年12月刊行。冊子。18.4×12.3cm)。不二見焼愛知県取調書(「高等商業学校」10行朱色罫紙使用)。夜寒烧愛知県取調書(「高等商業学校」10行朱色罫紙使用)。大橋秋二(墓誌銘)／小塚章彦(大橋秋二略伝)。加賀国陶器史料\* / 加藤恒(明治21年4月成立。「杉園蔵」30×12朱色原稿用紙使用)。越中瀬戸(陶器由来)。前田家取調越中新川郡古文書。八代陶器伝記\* / 上野次郎吉(明治22年2月成立。附:八代陶器製作ノ解説)。肥後国天草郡深江村陶器工夫書\* / 平賀源内(彩色図入。明和8年成立。「帝国博物館」13行朱色罫紙使用)。高麗烧陀羅尼焼\* (「帝国博物館」13行朱色罫紙使用)。薩摩烧陶器。明治十八年四月ヨリ六月ニ至ル共進会陶磁器出品解説ノ中抜書\* / 樺田善次郎(「帝国博物館」13行朱色罫紙使用。著者は淡路国三原郡稲田村住)

『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」25頁参照。

諸国名所古寺略縁起 [小杉榎邨編] 刊本(張込帖) 2冊 24.9×16.7cm

<830-91>

元ラベル:「ヒ共二」。印記:「杉園蔵」。大正3年11月5日購求。標目あり  
 内容(原本内表紙又は巻頭による。著者及び刊行者は原則として山号は略すが、一部肩書等を付す。写本に「写」と示す):上巻:唐李嶠洛州昭觉寺什迦牟尼仏金銅瑞像讃之句\*(写。紙高16.9cm)。南都唐招提寺略縁起。竜盖寺略縁起。(什物書上)(大きさ17.0×14.5cm)。(唐招提寺諸堂由来)(写。紙高17.3cm)。

(法輪寺由緒什物等書上) / 法輪寺住職吉本宝恵, 信徒総代田中亀太郎, 中野辰次郎 [ほか] (写. 明治24年成立. 紙高23.9cm). 大和国三井法輪寺仮字縁起\* / 前権大納言総長 (写. 元文3年成立. 「帝国博物館歴史部」朱20×10行原稿用紙使用). 大和国平群郡富郷村大字三井村法輪寺仏像五等以上抜録\* / 吉本宝恵 (「臨時全国宝物取調局」朱色13行罫紙使用). 橘寺靈宝概界 (一枚物. 紙高24.6cm. 「杉園蔵」印あり). 和州秋篠寺略縁起 / 秋篠寺 (一枚物. 紙高28.5cm. 元禄4年成立). 和州壺坂山南法華寺略縁起 (一枚物. 紙高25.8cm). 和州添上郡菩提山正曆寺竜花樹院\* / 多聞院珍盛, 中蔵院海旭, 感身院舜仏 [ほか] (写. 紙高24.2cm. 元文5年成立). <sup>巻入</sup>南都名所記 (宝暦4年刊万延2年修南都絵図屋庄八版. 絵入. 紙高22.2cm). 大和国長谷寺縁起 / 宝阿 (巻頭: 「豊山長谷寺略縁起」. 文化14年). 小楠公梓弓詠 / 如意輪寺主慶誉 (文久3年吉野如意輪寺蔵梓. 絵入). 和州矢田山略縁起 / 念仏院 (巻頭: 「和州矢田山金剛山寺略縁起」. 安政4年念仏院刊). 月輪寺略縁起 / 月輪寺 (月輪寺刊. 紙高23.0cm). (来迎寺縁起) (写). <sup>花巻勝地</sup>東山銀閣寺略縁起 / 銀閣慈照寺 (慈照寺刊). 銀閣寺縁起略\* (写). 洛陽般若三昧院記\* (写). <sup>出所</sup>王福茶筌由来記 / 一瓢主人 (一枚物. 絵入. 空也堂刊. 紙高24.7cm). 山城州葛野郡北山鹿苑禪寺之略記 (一枚物). 京都大仏殿大像組建 (弘化5年大仏殿勸化所刊. 一枚物). (西本願寺宝物庁堂・書院) (活版. 一枚物. 紙高19.0cm). (西本願寺宝物滴水園) (活版. 一枚物. 紙高19.0cm). 天野山金剛寺略縁起 (書名は小杉楯邨書外題による. 安永8年天野山金剛寺大衆刊. 紙高24.1cm). 箕面山路縁起 (巻頭: 「摂州豊嶋郡箕面山滝安寺略縁起」. 紙高23.6cm). (捕鳥部之墳墓図) (写. 大きさ27.6×40.4cm). (和泉国南郡神須屋村捕鳥部墓地図) (写. 大きさ27.3×39.1cm). 捕鳥部万碑 / 相馬肇 (写. 大きさ17.0×46.6cm). (捕鳥部万墓) (写. 大きさ27.8×39.1cm). 守屋大臣古墳墓地取調書 / 渋川郡亀井村外二ヶ村戸長森田富三郎 [差出]. 郡長深瀬和直 [宛] (写. 差出者に印判あり. 明治21年7月12日作成. 「渋川郡<sup>亀井村外ヶ村</sup>戸長役場」青色10行罫紙使用). 摂州西成郡長柄村雲松山鶴満寺鐘之由来 (一枚物. 紙高27.0cm. 「杉園蔵」印あり). 明細帳写大阪府管下攝津国東成郡東高津村字餌差町攝津国東成郡大今里村妙法寺末真言宗円珠庵 (縁起)\* / 上田照遍 (写. 明治21年12月作成). 甚目寺略縁起 / 鳳凰山知事 (鳳凰山知事刊). 尾州中嶋郡長島山妙興報恩禪寺略縁起. 勸財緒言 / 曼荼羅寺住職権少教正恒川東学 (活版. 明治15年8月). 由緒略記 / 愛知県尾張国葉栗郡大田島村大字大毛番外河野栄泉寺住職栗木徳順 (写. 差出者に印判あり. 明治23年10月16日作成). 笠寺略縁起 / 笠覆寺 (一枚物. 紙高28.2cm). 金湯山早雲寺記録\* / 蒲岸 (写. 寛文12年成立). (早雲寺縁起)\* / 柏州 (写. 元禄14年成

立)。早雲寺所蔵古物品目録略(活版、一枚物、大きき19.6×27.1cm)。鎌倉名所記(鎌倉常陸屋伊三郎刊(嘉永改正新刊)。絵入、紙高21.8cm)。鎌倉長谷觀世音略縁起(巻頭:「相州鎌倉長谷寺觀世音略縁起」)。鑿門覺寺仏牙舍利之記(巻頭:「鎌倉門覺寺祖塔正統院仏牙舍利之記」。活版)。(海蔵寺縁起)(一枚物3枚。絵入、紙高27.5cm)。金沢金石録(寛政6年成立)。金沢名所杖(文政6年旭松堂刊)。樞寺縁起竝辟火靈符来由\* / 正覺寺(文化11年成立。写。「文部省」青色10行罫紙使用)。播磨国石宝殿略記(紙高29.0cm。「杉園蔵」印あり)。石山寺由来略縁起(一枚物。紙高28.7cm)。国上山寺縁起由緒\* / 普賢院万元(写。享保3年成立)。下巻:京真如堂如来略縁起(紙高23.7cm)。安居天満宮芝原御祭礼略縁起 / 橘恭之進(紙高23.5cm)。勢州津国府阿弥陀略縁起 / 大宝院知事(紙高23.2cm)。勢州石薬師略縁起 / 瑠璃光院(巻頭:「伊勢国高富山略縁起靈験」。瑠璃光院刊)。法華宗門  
根本靈場鎌倉松葉谷安国論寺略縁起(巻頭:「鎌倉名越松葉谷根本御小菴安国寺由来」。紙高24.0cm。元禄2年成立。安国論寺蔵板)。聖延齡高祖略縁起 / 光則寺(尾書:「鎌倉土之牢靈地宿谷光則寺」。天保11年。光則寺刊)。塔峯阿弥陀寺略縁起(紙高24.2cm)。東海道相州足柄下郡酒匂梅沢之間国府津勘山信楽院真楽寺御旧跡略由緒(紙高24.0cm)。蓮如上人御作相州国府津御坊真楽寺(紙高23.7cm)。相州大磯駅西嶋立沢記(巻頭:「相中大磯嶋立沢元由来記」。明和4年嶋立菴主鳥粹重刊。紙高23.5cm)。善福寺縁起 / 権律師乘順(享保5年成立)。江之嶋大縁起五巻略記宋朝伝来古碑畧図 / 江之嶋下之坊(巻頭:「江之嶋下の宮縁起五巻の略縁起」。元禄6年成立。紙高23.1cm)。江島三社弁才天来歴(寛延2年成立文化3年再刻)。羽州立石寺縁起(巻頭:「羽州立石寺縁起略」。立石寺刊)。木曾宣公旧里碑 / 山邨良由(文化10年成立。紙高24.4cm)。玉津嶋神社略伝記(絵入。附:玉津嶋頓宮辺址記 / 仁井田好古(天保2年成立)。奠供山記(天保2年成立)。望海楼遺址記 / 仁井田好古(文化10年成立)。聖野山麓光明真言土砂加持修行勸発帳 / 高野山萱堂千蔵院(巻頭:「土砂加持縁之序」)

間島由美子編「国立国会図書館所蔵江戸期以前寺社縁起関係目録」(『参考書誌研究』40号)参照。

葬祭儀諸家集説 [小杉榎邨編] 写本 1冊 23.6×15.6cm <830-36>  
書名は元表紙書外題による。元ラベルあり。印記:「杉園蔵」「小杉」。大正2年7月9日購求  
内容(標目なし。著作巻頭による):伊勢国人名島政方双樹の落葉(抄)(「教部省」10行朱色罫紙使用)。(諸説)\*。(棺の制)\*。葬忌弁 / 伊能顯則。伊能

氏の祭と忌との弁説に付添へる臆説／岡吉胤．祖祭之弁／渡辺玄包．祭忌の弁につきていさゝか記す／久保季茲．権判官殿ヨリ葬地事件御下問二付建白并附記草案／大崎昌庸．年忌考\*／大崎昌庸（紙高16.7cm．附：伊能穎則書簡（忌日年忌ノ事説二付））．年忌考附録祭典考\*／〔大崎〕昌庸（明治3年成立．付：（葬祭式御定二付）／伊能穎則）．（多聞院日記天正十五年九月条書抜）\*．葬祭儀略草．（神道を以自葬祭仕度旨願出書類）／矢島藩〔差出〕．神祇官〔宛〕．明治4年10月18日．印記：「小杉」．津和野藩靈条式・葬祭儀式\*（印記：「杉園蔵」）「小杉」．黄紙「徳島藩」8行黒色罫紙使用）．自葬愚考\*／新居正方（明治3年11月作成．印記：「小杉」．10行黒色罫紙使用．著者肩書は学校二等助教）．（小杉榎邨宛新居正道書簡）\*／新居正道（印記：「小杉」）．姫路藩神葬祭達\*／〔姫路藩〕藩庁監察掛〔作成〕．〔姫路藩〕士族〔宛〕（明治4年4月18日作成）．「徳島藩」8行黒色罫紙使用）．葬祭儀．園左記後小松明德四年（書抜）．神民葬式<sup>13</sup>／御巫清直（明治9年小杉榎邨写）．（諸書書抜）．稚瑞照彦尊御葬式\*（「教部省」8行緑色罫紙使用．附：稚瑞照彦尊御葬式御列）．明治九年六月三品内親王董子尊御葬式并御列書\*（「教部省」8行緑色罫紙使用）．華頂院宮三品博経親王御葬式記\*（明治9年成立）．発葬祝詞\*（「教部省」10行朱色罫紙使用）

葬祭儀草 〔小杉榎邨編〕 写本 1冊 26.8×19.4cm <830-27>  
元ラベルあり．印記：「杉園蔵」「榎邨」．大正2年7月9日購求  
内容：（四時祭・春秋祭・二月四月十一日祭・天皇御遠忌之事）／木村正辞（明治3年成立）．「神祇官」8行黒罫紙使用）．葬祭儀略草<sup>14</sup>（明治2年成立．紙高25.9cm）．葬祭別記草<sup>15</sup>（巻頭：「葬祭別記」）．葬祭別記草<sup>16</sup>（巻頭：「葬祭別記」）．葬祭儀（紙高26.3cm）．華族葬祭儀略（巻頭：「葬祭儀略華族」）．士族葬祭儀草（紙高26.6cm．図入．朱書書入あり）．庶人葬祭儀（図入）．葬祭儀／伊能穎則．葬祭儀

読史翼 〔小杉榎邨編〕 写本 9冊 26.9×19.3cm <830-182>  
元ラベル：「イニ」．印記：「杉園蔵」「榎邨」「榎村」．大正5年12月25日購求  
内容：〔第1冊〕：天津日高彦火瓊々杵尊御子数の考\*／谷森善臣（明治10年成立）．「教部省」10行朱色罫紙使用）．武烈天皇御年紀考\*／小中村清矩（巻頭：「列城宮御宇天皇御年紀考」）．慶応3年成立．附：横山由清意見）．天智天皇外記\*／藤原貞幹．大炊省足鼎\*／岡部東平（附：山陵考付録火葬説）．倭文考\*／松浦道輔（印記：「榎村」）．上古曆日考\*／飯田武郷（「内務省」13行朱色罫紙使用）．嘉永7年初稿明治6年成立）．古史伝異年号考\*／〔伴信友〕（「教部省」8行茶色罫紙使

用)。碩鼠漫筆かきぬき\*／黒川春村（「内務省」13行朱色罫紙使用。14項目書抜）。**第2冊**：美加保志弥夜／矢野玄道（明治3年成立）。はなさく松\*<sup>15</sup>／檢校保己一（小杉楹邨写。附：生駒周蔵書簡1通貼込）。花さく松弁\*／藤田一正。[花さく松弁]\*／大竹親従。花咲松弁々\*<sup>16</sup>／木村正辞（明治6年成立。栗田寛の朱書入の移写あり）。長慶院天皇御事跡考\*<sup>17</sup>／小中邨清矩（明治6年成立。紙高24.3cm）。雪ゐの花\*<sup>18</sup>／木村正辞（明治6年成立）。長慶院天皇継統考証\*<sup>19</sup>／栗田寛（明治8年成立。「教部省」10行茶色罫紙使用。「栗田本伝問」に関わる付箋あり。付：小杉楹邨宛栗田寛自筆書簡）。**第3冊**：出雲宿祢尊澄の間に答ふ\*（嘉永3年成立）。出雲千歳屋松壺千家尊澄問状十篇の答\*／三郎篇再問（嘉永5年成立）。十二篇答\*（嘉永5年成立）。池辺真棒の問古語拾遺の答\*。**第4冊**：続紀問答\*<sup>20</sup>／渡辺寿、生駒正直、吉田正秋〔ほか〕問。寺村成相答（「古事類苑」／文部省）匡郭用箋使用 附：寺村主殿成相問穂井田兵助忠友答）。さかき\*<sup>21</sup>（「教部省」10行代赭色罫紙使用）。伴部品部\*<sup>22</sup>／小中村清矩（伊能穎則書入移写あり。「教部省」10行代赭色罫紙使用）。中古の世に病人を棄る葬風有し事并施薬院悲田院の事\*<sup>23</sup>／小中邨清矩（「教部省」10行代赭色罫紙使用）。宇合考\*／木村正辞（「教部省」10行代赭色罫紙使用）。古事記訓法の論\*／飯田武郷（小杉楹邨書入あり。明治13年成立。「内務省」13行朱色罫紙使用）。伊碁能布\*／飯田武郷（「内務省」13行朱色罫紙使用）。論語千字文貢進時代考\*／落合直澄（「文部省」13行朱色罫紙使用）。弘文天皇乃御事\*（細目：弘文天皇御世代之儀ニ付近藤芳樹意見書三条公ヨリ下問有之能間各官意見付箋ヲ以テ条陳有之候也（諸局編集館宛。明治12年4月21日成立。「三浦」印影移写。「修史館」10行黒色罫紙使用。「楹邨」印あり）。弘文天皇ヲ御正当ニハカゾヘ奉ルマシキ事（「修史館」10行黒色罫紙使用）。第二局乙科ニテ意見注進ノ草稿／菅政友考按（「修史館」10行黒色罫紙使用）。有馬皇子の罪せられ給ひし論\*／飯田武郷（「教部省」8行朱色罫紙使用）。諸国之別別王\*／飯田武郷（「教部省」8行朱色罫紙使用。附：栗田寛意見）。国典学ヲ興サントスルニハ日本紀ヲ講習スヘキ事\*／飯田武郷（巻頭：「国典学ヲ興サントスルニハ第一日本紀ヲ講習スヘキ事并日本紀ヲ講習スヘキ方法ノ事」。附：小中村清矩意見）。楠氏考\*。文貞公事蹟\*／伊能穎則（慶応2年成立。印記：「楹邨」）。日本人種論並良賤ノ別\*／横山由清（印記：「楹邨」。「明治十二年六月印行」とあり）。日本貴族沿革論\*／横山由清（印記：「楹邨」）。本朝古来戸口考\*／横山由清（印記：「楹邨」）。婚礼通考\*／横山由清（印記：「楹邨」）。刑法志略\*／横山由清（明治8年成立。印記：「楹邨」。朱書訂正あり）。釜煎の刑\*／木村正辞（印記：「楹邨」）。鑿着大使主\*／栗田寛（「教部省」13行朱色罫紙使用。付箋あり）。米餅搗\*／栗田寛（巻頭：「伴信



友が姓氏録に米餅搗と書る人名を之度宜都幾と訓るハ非なる由の説」。明治10年成立。「教部省」13行朱色罫紙使用)。 樞詞／〔栗田〕寛(栗田寛自筆。「教部省」10行青緑色罫紙使用)。 端牛考証\*／稻垣千穎(「教部省」13行朱色罫紙使用)。 三十三所觀世音順拜\* (「教部省」13行朱色罫紙使用)。 古写本日本書記目錄并奥書\* (「内務省」13行朱色罫紙使用。「宮内省御本 神田孝平所蔵」とあり)。 〔第5冊〕：平安城地震考例／山川正宣(巻頭：「平安城遷都以後数度大地震之記」。文政13年成立。26.6×18.9cm)。 碩鼠漫録ぬきかき\*／〔黒川春村〕(55項目。「教部省」8行朱色罫紙使用)。 新撰姓氏録問答／佐野久成(書名は標目による。小杉榎邨筆書入及び附箋あり。「十九年済」と朱書あり。「元老院」13行橙色罫紙使用)。 続日本紀ノ逸事／栗田寛(明治20年成立。1丁補写。補写部分は「文部省」13行朱色罫紙を使用し小杉榎邨写)。 論庸\*。 調庸\*。 持統紀所見一富一部\*／飯田武郷(巻頭書名省略。「文部省」13行朱色罫紙使用)。 相當考／船曳鉄門(明治19年成立。「十九年済」と朱書あり。著者は高良神社官司)。 万葉集を讀心得<sup>24</sup>／木村正辞。 万葉集の歌の解<sup>25</sup>／木村正辞(紙高24.7cm。「十九年済」と朱書あり)。 山多豆の考・同補正／加納諸平〔著〕。 木村正辞〔補〕(紙高24.0cm。「十九年済」とあり)。 馬酔木の考／木村正辞(紙高24.6cm。「廿年三月」とあり)。 銭の説／菊永敏高(明治21年成立)。 銅鑛追考<sup>26</sup>／佐藤泰郷(「十九年」とあり。紙高24.3cm)。 あらたあたらの論／佐藤泰郷。 木綿／増子永図。 猿丸大夫考。 浦島子考／永谷重賢問。 西野古海答(「太政官」13行朱罫紙使用)。 時学鍼砭説／西野古海。 もちゐ／田中頼庸(「廿年二月」とあり。「神宮教院」13行桃色罫紙使用)。 マヲスと云辞考(「神宮教院」13行朱色罫紙使用「もちゐ」と同筆)。 〔第6冊〕：官職通解／千葉芸閣(安永5年版本の写)。 筆のすさひ。 川岡雜譚書ぬき／瀬下教忠(著者は信州更科群三塚村豪農)。 徂徠枕の記文。 俳諧五派。 内侍処御鏡。 堂上方封結式。 東山双林寺展観目<sup>(マツ)</sup>六。 古尺考。 諸国の詞つかひ。 和学講談所懸札。 楽数目<sup>(マツ)</sup>六。 扶桑樹伝／明月。 志実／青木敦(延享3年成立)。 座右十友銘／小林政七三郎。 山城国山崎神祠製油器摸写図序\*／城州大山崎当祠職等藤原宗邵。 藤原秀治。 藤原宗朝。 紀則治。 藤原秀興。 藤原宗武〔著〕(「帝国博物館」13行朱色罫紙使用)。 春宵茶談／大草公明(丁亥暮春)。 〔第7冊〕：諸見附尼仏論余意。 太平記編撰之由来並書号或義。 豊嶋作左衛門来書。 細川三斎へ被下御茶之次第／三斎老人。 延宝五年巳十月日旧和歌山藩御壁書写／岡野平太夫。 加納平次右衛門。 水野縫殿。 三浦玄蕃。 久野丹波守。 水野対馬守。 安藤帯刀〔著〕。 土井幹夫〔編〕(「農商務省」13行朱色罫紙使用)。 池田勝入記事<sup>27</sup>／大嶽(安永5年成立。著者は濃州竜福寺和尚)。 くさぐさ書拔。 楠筆記。 秋津草苦語。 蓋徹問答。 改元物語<sup>28</sup>。 年号弁\*／新井君美。 土佐画工板

谷慶舟工送遣候慶舟画三物之絵評論／伊勢貞丈<sup>29</sup>（安永5年6月2日成立）。瓦松。皆川家記ぬき書\*／巖田之常。新田岩松家古文書目録并考案\*（「帝国博物館」13行朱色罫紙）。寛政四年内侍所臨時御神楽散狀（「新見文庫」印あり。黄紙使用）。蛎殻残編惣目録／大野広城。酒造役米御免願（享和3年閏1月1日成立。「大坂之郷大行事年行事」ほか18カ村による差出。「御奉行所」宛文書の写し）。**第8冊**：天の御中主神考<sup>30</sup>／渡辺重石丸（印記：「杉園蔵」）。歴朝禪位考大意\*／大江春平（「文部省」10行朱色罫紙使用）。君臣名義考大旨\*（「文部省」10行朱色罫紙使用）。元文<sup>31</sup>（「帝国博物館」13行朱色罫紙使用）。白の大袈紅の打衣の事\*（巻末朱筆書入：「滋野井入道ノ答書ハ闕失」）。関東勅文。尊号廷議\*／一条閑白〔ほか〕。紫震殿賢聖障子画模本屏風記（付：日本大家論集抜書<sup>31</sup>）。幡州越部旧跡の記／大鹿清基（宝暦2年成立）。訓点私言／三浦清（文政7年成立）。**第9冊**：岸本由豆流日本紀評註零残／岸本由豆流〔註〕（岸本由豆流自筆。貼込4葉。印記：「朝田所蔵」）。両局訓解\*。碩鼠漫筆抜抄\*／黒河春村（3件抜粹。「古事類苑稿／文部省」用箋使用）。新三十六歌仙\*。四季物語\*。上子の七種菜の事\*。三十六歌仙\*<sup>32</sup>。新学考。聖武天皇御名考\*（嘉永1年成立）。達智門院皇后宮考\*（嘉永3年成立）。あしたの原の根さし\*（嘉永2年成立）。帝室系譜に見たる光仁天皇の皇子等の系譜\*。中宮識\*／谷森種案（嘉永3年成立）。景雲遺事\*／山川正宣。八朔考附五節句\*／豊藤熟之（天保4年成立）。神字日文伝五十音考案／二宮正胤<sup>33</sup>。玉前神社祭神考／浜田男麻呂（自筆。明治11年成立。付：一宮廟祭神考跋／木嶋来）。王子神社考／浜田男麻呂（自筆。明治21年成立。4丁目裏に朱筆にて区切があり「廿七号濟」「廿八号」とあり。小杉筆朱書訂正あり）。崇道画敬皇帝の一千百五十年の遠忌に祭を修る時いさゝか所感を陳ふ／栗田寛（自筆。「元老院」13行橙色罫紙使用）。平安朝初期の美術／紀淑雄（「帝国博物館」13行朱色罫紙使用）。支那南北ノ区別\*／岡倉覚三（「帝国博物館」13行朱色罫紙使用）

『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」25頁参照。

農政必携 [小杉榎郵編] 写本\* 3冊 23.6×16.3cm <830-3>  
 元ラベル：「ク五共三」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月9日購求  
 内容（書名は主として標目による）：**上** 戸口・調庸・田租・田制：戸口・調庸・田制祖法<sup>35</sup>／本居内遠（明治9年写）。条里図帳考／本居内遠。度地図解／御巫清直。公廨部類（黄紙使用）。公廨備考<sup>36</sup>／小中郵清矩（嘉永7年成立。黄紙使用）。（諸書抄録）<sup>37</sup>（「教部省」10行緑色罫紙使用）。土佐国段別略（「教部省」10行緑色罫紙使用）。貫高／黒川春村。国学忘具書ぬき（「草稿用／

内務省」10行黒色罫紙使用)。田制考／小中村清矩。祖稅考。鷄肋問答<sup>38</sup>／大内正敬(天保9年成立)。中国郡・田租・帳簿・宝貨：農政座右4卷<sup>39</sup>／小宮山昌秀(文政12年成立。明治9年写)。下 度量權衡：度量權衡考<sup>40</sup>／遠藤元理。周尺論／朝川鼎。本朝度制略考<sup>41</sup>／荷田在滿[著]。小中村清矩[補]。升々考。式内升々考。清原業賢日記書ぬき(享祿2年)。古升略抄。異本古量考<sup>42</sup>(明治11年写)。紀伊国斗升考。大半斤・大斤・儀式解(卷頭：「上古尺度之制」)。度量權衡改正之議(細目：(尺度ノ制沿革)／制度局[作成]。權衡之義。新制斗量之事。度量權衡ヲ改正スルノ議(黄紙使用)。大藏省并ニ当局ニテ新制スル度量衡ノ得失議案)／制度局[作成](明治3年5月成立 黄紙使用)。集議院へ謹答／日比野徳島藩権大參事(明治3年閏10月15日。黄紙10行黒罫紙使用))

<博覧会事務局関係資料>

藍一覧・沙糖説・烟草類纂 写本 1冊 26.5×18.9cm

<830-59>

元ラベル：「ナニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
藍一覧	安岡百樹録。狩野良信図		明治5年6月	図なし。『教草』説明文と同一
藍説附録	安岡百樹			付図（琉球山あゝ <sup>43</sup> ）
藍制作の事	東京金六町永田又治郎店支配人新井半兵衛	博覧会事務局	明治5年4月	
[美濃国葉藍作方御取調回答書]	美濃国羽栗郡笠松村山口伝四郎	岐阜御県御役所	明治5年7月	
藍製作の事	東京金六町永田又次郎店支配人新井半兵衛	博覧会事務局	明治5年4月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
[美濃国葉藍作方御取調回答書]	美濃国羽栗郡笠松村山口伝四郎	岐阜御県御役所	明治5年7月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
[藍玉備に付] 覚	美濃国羽栗郡笠松村山口伝四郎	岐阜御県御役所	明治5年7月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
尾張国藍草濫觴	愛知県下海西郡前ヶ須新田佐藤七三郎説。丹波修治[編]		明治6年10月	彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
香川県下讃州産白糖之説	大草稿			彩色図入
烟草類纂（巻頭：「談巴菰類纂」）2編	南部陳編輯。狩野良信画図		明治5年9月8日	図なし。成立事情識語あり <sup>44</sup>

飲食物略説 写本 3冊 26.9×19.1cm

<830-64>

書名は元表紙書外題による。標目：上巻「豆腐。かんでん。葛粉。蕨粉。かたくり。百合粉。枳餅。川海苔。海草類。ほし飯。阿め。粉菟藟」。中巻「真桑瓜。乾瓢。干大根。白萱。落花生。沢芋。長いも。大葉欵冬。椎たけ。いはたけ。鹹草」。下巻「味醂。軀津保命酒其他名酒。養老酒。醬油」。元ラベル：「ナニ共三」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

上巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
豆腐集説	第六大区八小区南番場町作		明治5	彩色図入

	腐家片桐寅吉口授. 榊原芳野録		年11月26日	
豆腐皮	東京第五区小九区浅草材木町腐皮工関根茂兵衛口授. 榊原芳野録		明治6年1月14日	彩色図入
瓊脂集説 (巻頭:「凝海菜」)	第一大区小区小舟町三町瓊脂生産人姓欠宇吉口授. 榊原芳野録		明治6年1月	彩色図入
寒天之説 京都府				図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
和州吉野葛粉検査表				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
筑摩県下栃餅製造方法	関島退蔵取調			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
葛粉 (欄外朱書:「小倉県葛粉」)	企救郡道原村,項吉村,呼野村,小森村			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
蕨粉著説	武田昌義,山崎董塗			朱筆書入あり. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
田辺葛粉製法図説 (巻頭:「葛粉製法」)	田辺庄司富八,那須常七,佐山伝吉,高田六郎,那須小八郎,竹中久助			彩色図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
蕨粉製方図 木曾	筑摩郡木曾奈川	明治5年6月		図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
第四号 保田葛粉	(筑前国夜須郡中町高木吉兵衛)			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
大和吉野蕨粉詳説				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
越後國小千谷村蕨の粉製同葛粉製 (巻頭:「蕨の粉わらび 製造之法」)	矢島忠琢			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
北上県群馬郡星般村片栗製 同片栗 車前葉山燕姑製	矢島忠琢		明治5年7月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
片栗粉製方	魚沼郡小千谷町製造人西野入要太郎,副戸長野口休兵衛,戸長西脇清一郎 [差出]. 第五大区長佐藤半左衛門 [添書]	柏崎県御庁	明治5年10月9日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
新川県下植物 (カタクリ)				「博覧会事務局」10行色朱罫紙使用
埼玉県百合	埼玉県		明治5	「博覧会事務局」

			年11月	8行朱色罫紙使用
百合粉	企救郡道原村,項吉村,呼野村,小森村			彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
小倉県下雌百合ト称スルハ別物ニ非スシテ全ク花ヲ開カサルモノト思ハル御答	百合粉製造人豊前国企救郡村道原村農谷橋文右衛門,村上作次郎			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
生産品取調書上帳 美濃国山県郡円原村(巻頭:「川海苔」)	山県郡円原村副戸長長屋孫三郎,戸長若井久左衛門	岐阜御県御役所	明治5年6月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(川海苔代価に付) 覚	山形県円原村戸長若井久左衛門	岐阜御県御役所	明治5年7月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
七尾県下海藻類				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
和歌山県下海藻製法図説	和歌山本町四丁目美山弥兵衛説			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
福岡県下海草説 ウキユード及びウキユード海苔	製主 筑前国粕屋郡箱崎駅山本久五郎			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
福岡県下海草之説 寿泉苔	製主 筑前国夜須郡秋月町遠藤喜三右衛門			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
福岡県下海草之説 イギス	製主 筑前国遠賀郡木城村永沼周太郎			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
河内道明寺乾飯之説并見本				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(粟飴製方につき回答書)	頸城郡第四十区高田春日町高橋孫左衛門	柏崎御県御役所	明治5年8月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
水飴 京都郡玉江彦右衛門製造(欄外朱書:「小倉県 水飴」)				「小倉県」8行黒罫紙使用
三宮飴 企救郡小倉町渡辺喜助製造				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
粉菟蓐著説	武田昌義,山崎董詮調			本文朱筆。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

## 中巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
真桑瓜養法書 本巢郡真桑村	本巢郡真桑村戸長稲見小忠太		明治5年6月	彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

乾瓢製造図会 甲賀郡第四区水口村(巻頭:「甲賀郡水口村産出乾瓢」)	甲賀郡第四区水口村年寄大野善平,庄屋沢田周三郎,第四区副戸長庄屋兼森井善九郎,同戸長検村清吉	滋賀県御庁	明治5年5月	彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
乾瓢製器械書上(巻頭:「干瓢製造及器械書上」)	掛川鈴木陸平		明治5年伏日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
厚見郡嶋方産美濃干大根細記	近島村戸長藤井湛一郎	岐阜県御役所	明治5年6月	
(干大根千本代金に付)記	厚見郡中島村戸長古田六衛,東嶋村戸長田辺銀造	岐阜県御役所	明治5年7月	
白茎				彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
落地生 地豆 落花生				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
岐阜県下 沢芋	不破郡宮代村戸長小野市郎右衛門	岐阜県御役所	明治5年6月	図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
埼玉県中丸村長芋	埼玉県		明治5年11月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
大葉歟冬				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
奈良県下香草				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
山口県下椎茸製法				彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
紀州香草産地	武住村小坂安太郎			彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
鹹草之記	八丈嶋中之郷菊池武利	博覧会御庁	明治6年夏	紙高24.2cm

## 下巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
味噌製造始書上	御県下流山村 堀切紋次郎 <sup>㊦</sup>	印旛県御役所	明治5年5月	紙高23.7cm
味噌製造道具雛形書上	堀切紋次郎	印旛県御役所	明治5年5月	図
味噌造伝説書上(巻頭:「印旛県下味噌製造伝説」)	秋元三左衛門	印旛県御役所	明治5年5月	図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

名酒醸法詳記	大日本備後鞆津生玉堂中村吉兵衛			紙高20.0cm。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
岐阜県下養老酒製造法書	美濃国多芸郡高田町製造人土屋八十郎		明治5年6月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
養老酒直段小割書	美濃国多芸郡高田町製造人土屋八十郎		明治5年6月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
美濃国多芸郡根古地村産養老酒并喜久水製造図説	多芸郡根古地村酒造人高橋太之助㊦	岐阜県御役所	明治5年6月	彩色図入
養老酒并菊水直段取調書	多芸郡根古地村酒造人高橋太之助㊦	岐阜県御役所	明治5年6月	
備後国鞆津名酒醸法詳記	大日本備後国鞆津生玉堂中村吉兵衛製			「文部省博物局」8行代赭色罫紙使用。「名酒醸法詳記」と同内容
醤油集説 稿本	柳原芳野		1月18日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
醤油造諸道具雑形 総葛野田町 (巻頭:「醤油仕込道具記」)	醤油造惣代戸辺与四郎,茂木七左衛門代松崎甚助,組頭石塚藤七	印旛県御役所	明治5年5月25日	
醤油醸造細調書 第一大区第十二小区総葛野田町	下総国葛飾郡野田町醤油造惣代戸辺与四郎㊦,役人惣代石塚藤七㊦	印旛県御役人衆中	明治5年5月	紙高24.7cm

『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」25頁参照。

織物集説 写本 1冊 26.4×18.8cm

<830-48>

書名は元表紙書外題による。標目「綴錦。五日市黒八丈。結城紬木綿。下館木綿晒水振。桐生織物。奈良晒。津綵。掛川葛布。都留織物。兵主縞布。晒布。八幡蚊蠅。近江縮緬絹縮。長浜天鷲絨。高宮晒布。長浜蚊蠅。岐阜縮緬。八反掛八入織。精好折。紙布織。川股小網木綿物。小千谷縮。玖珂市木綿縮。博多織。八反掛精好。奉書紬。七子綾織。紹。紗。綸子。木綿縞。苧布。紬木綿。裂織。峰山縮緬。宮津縮緬。美濃羽二重有為以下。越前織物。玖珂木綿縮。河内木綿。草棉。袋真田。段氎紋羽」。元ラベル:「フ」。印記:「杉園蔵」。大正2年7月21日購求。

標題	作成者	宛先	成立	備考
織物総論				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
綴錦考	西村兼文*			
神奈川県管下武州多摩郡五日市村黒八丈織原由				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用。



				以下「福岡県管下筑前国那珂郡博多津織物原由」まで紙高25.2cm
印旛県管下下総国結城紬木綿原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
茨城県管下常陸国茨城郡下館木綿晒水振原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
栃木県管下上野国桐生織物之原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
奈良県管下大和国奈良晒原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
三重県管下伊勢国安濃郡清水村津緞織原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
浜松県管下遠江国掛川葛布原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
山梨県管下甲斐国都留郡織物原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
滋賀県管下近江国野洲郡兵主産綿布原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
滋賀県管下近江国野洲郡野洲村晒布原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
滋賀県管下近江国蒲生郡八幡町蚊蠟原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
犬上県管下近江国坂田郡縮緬織絹縮織原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
同県管下近江国犬上郡長浜町天鷲絨織原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
犬上県管下近江国犬上郡愛宕晒布原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
犬上県管下近江国犬上郡長浜八幡町蚊帳原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
岐阜県管下美濃国厚見郡岐阜紋縮緬織原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
宮城県管下陸前八反掛并八入織ノ原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
宮城県管下磐城国刈田郡白石町紙布織原由				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
福島県管下岩代国伊達郡川股小綱木村織物原由并織方方法				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
福島県管下岩代国信夫郡福島町産信夫文字摺之事				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用

柏崎県管下越後国魚沼郡小千谷縮ノ原由				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
山口県管下周防国玖珂郡玖珂市木綿縮緬原由				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
福岡県管下筑前国那珂郡博多津織物原由				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
宮城県管下仙台ノ産八反掛織方法	宮城県貫族士族織物取捌人伊藤為治,右為治ノ養子伊藤竜藏		明治5年5月	「文部省博物館」8行代赭色罫紙使用
宮城県白精好織物方法	宮城県々下一等戸長清水惣三郎		明治5年5月	「文部省博物館」8行代赭色罫紙使用
足羽県管下越前国産物	足羽県権大参事千本久信,足羽県参事村田氏寿	博覧会事務局	明治5年11月23日	「文部省博物館」8行代赭色罫紙使用
豊岡県管下丹後国中郡峯山縮緬原由				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
丹後国与佐郡宮津近傍産縮緬				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(豊岡県) 概説書抄				「豊岡県」10行青色罫紙使用。紙高23.4cm。「豊岡県管下丹後国中郡峯山縮緬原由」「丹後国与佐郡宮津近傍産縮緬」と同一
(縮緬値段につき) 記	岐阜県縮緬職片桐文治郎㊦,所八左衛門㊦	岐阜県御役所	明治5年6月	
(羽二重等につき記)	製造捌人惣代笠松村玉井伊兵衛㊦	岐阜県御役所	明治5年6月	
(美濃羽二重等につき記)	笠松村玉井忠造㊦,玉井伊兵衛㊦	岐阜県御庁	明治5年6月	
(奉書紬等につき記)	足羽県権大参事千本久信㊦,足羽県参事村田氏寿㊦	博覧会事務局	明治5年11月23日	「足羽県」8行黒色罫紙使用。「足羽県管下越前国産物」と同一
木綿縮仕立手続概略 玖珂郡玖珂市	玖珂郡玖珂市			紙高25.6cm
縮布仕立手続概略 玖珂部署	玖珂市			紙高25.6cm
[山口県織物] (覚書)				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
河内木綿検査表				
泉州大鳥郡堺産物				「堺県」黒色8行

				罫紙使用
--	--	--	--	------

甘藷乃説・密乃説 写本 1冊 26.8×19.2cm

<830-51>

書名は元表紙書外題による。元ラベル：「ナニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
甘藷之説(巻頭：「甘藷」)	江夏干城			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
神奈川県下産甘藷之説	大藏権中録安岡百樹, 写生狩野良信		明治5年8月中瀬	彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用。巻末「右藷ノ説者神奈川県下ニテ書卒ル」とあり
(芋説)	江夏干城			彩色図入(後半2丁は祐尚写)。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
密之説	江夏干城			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用。第1丁に「杉園蔵」印あり
蜜蜂蜂蜜三ツ <small>藷</small>				図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
蜜蜂蕃養法	若山菊地喜太郎			彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙
(蜜・蠟・油・根菜等調査)				「博覧会事務局」8行朱色罫紙。「蜜蜂蜂蜜三ツ <small>藷</small> 」を含む
接榘方法概聞記				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

京都陶磁器説 4巻 写本(明治5年11月序) 1冊 26.5×18.9cm <830-53>

元ラベル：「フ」印記：杉園蔵。大正2年7月21日購求。附：陶器図説草稿(「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用)

細工物略説 写本 1冊 26.7×19.0cm

<830-46>

書名は元表紙書外題による。標目：「人形毛植及装束。奈良人形。同団扇。有

馬竹器. 尾張みむしろ. 大津鞭. 杖. 針. 水口藤蔓細工. 長門籐細工. 静岡竹工. 籐笠. あみ笠]. 元表紙「フ」. 印記: 「杉園蔵」. 大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
人形毛植之説 京都府				
奈良人形				「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
奈良団扇				「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
大阪府下摂津国宍戸郡竹器由縁書				図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
尾張国春日井郡小田井村蘭席図説				彩色図入
近江国物産鞭杖製造取調書 栗太郡草津村(巻頭: 「近江国栗太郡種津村名産鞭」)	栗太郡草津村喜多村九右衛門	滋賀県御庁	明治5年5月	彩色図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
博覧会ニ付奉差上品類直書 栗太郡草津村	栗太郡草津村鞭商業惣代辻重兵衛 [作成]. 右御用懸り喜多村九右衛門 [添書]	滋賀県御庁	明治5年5月28日	「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
国産物品滋賀郡大津大谷針細取調書				「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用. 付: 製針機械及執業分課之図 (彩色図)
近江国甲賀郡水口村出産藤細工明細書 (巻頭: 「近江国甲賀郡水口村藤蔓細工の起源由来并ニ製造記録」)	藤細工者売捌方西村藤七㊦. 山中喜三郎㊦. 舩文平㊦. 利田七平㊦. 大野六郎平㊦. 柚木長三郎㊦. 武河新七㊦ [作成]. 甲賀郡水口村年寄大野善平㊦. 庄屋沢田周二郎㊦. 第四区副戸長兼同森井善九郎㊦ [添書]		明治5年6月	彩色図入 「葛覃三章」作成者: 西村藤七
山口県下長門国籐細工之由来	長門国萩住中山千之進		明治5年6月	彩色図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
静岡県下竹并製造之記				図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
籐笠製造図会 甲賀郡下田村 (巻頭: 「甲賀郡下田村製造竹皮笠」)	甲賀郡下田村年寄山中若与門㊦. 同谷口作与門㊦. 同谷口五平㊦. 庄屋山中嘉	滋賀県水口御出庁	明治5年5月	彩色図入

	十郎㊦第二区戸長喜多新助㊦			
編笠ノ件之明細取調書(内表紙:「澳地利博覧会ニ産物品ノ内近江国付蒲国生郡八幡町編笠件之取調書附リ器械并執業ノ絵図」)				図入

砂糖集説 写本 1冊 26.6×19.1cm

<830-47>

書名は元表紙書外題による。元ラベル:「ナニ」。印記:「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
(砂糖説)				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(阿波国甘藷説)				彩色図入。「名東県産物局」12行朱色罫紙使用。紙高26.1cm
黒砂糖	江夏干城			
江夏干城砂糖之説	江夏干城			
砂糖之説	江夏干城			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用「江夏干城砂糖之説」と同一内容
讃州大内郡湊村元居住亡曾祖父向山周慶砂糖製作一件	讃州高松第三十区本町百二十二番士族向山好哉		明治5年7月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用附:向山翁砂糖開基碑/高尾養撰(弘化3年)
甘蔗糖製法図説				彩色図
甘蔗糖製法図説				図。前項と同一内容
(駿河国産)甘蔗烟培養并砂糖製法の記	佐々井半十郎			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
駿河国製糖書説図解				図入
静岡県下駿河国之説 甘蔗培養并砂糖製法の記				「駿河国産甘蔗烟培養并砂糖製法」の記と同一内容
静岡県下製糖書説図解	安岡百樹 [著]。狩野良信 [図]			「駿河国製糖書説図解」と同一内容
甘蔗記 <sup>45</sup>	後藤梨春		明和元年序	安岡百樹写(明治6年1月31日)。附:「甘蔗記附録」汝

				南圃史甘蔗製造法
--	--	--	--	----------

蚕桑集成4巻附録1巻 渋沢栄一閱. 南部陳撰. 宮本三平画図. 赤松範静校合  
 写本明治5年8月序 1冊 写本 26.4×19.0cm <830-62>  
 元ラベル: 「ナニ」. 印記: 「杉園蔵」「有住蔵」. 大正2年7月21日購求  
 附: 蚕桑集成附録試験表. 蚕桑集成附録艸稿図解之部 (「博覧会事務局」8行  
 朱色罫紙使用). 養蚕方御下問答議 / 石幡橋平 (印記: 「有住蔵」)

漆器説附漆樹採取 写本 1冊 26.9×19.1cm <830-44>  
 書名は元表紙書外題による. 標目: 「漆器説. 漆器製法図. 漆樹及漆著説.  
 吉野漆詳説. 遠江漆製造書. 漆樹図. 採取器具. 輪島漆製造由来. 阿波国漆  
 採取略記. 漆液掻取概法. 津軽塗取調書. 越中国漆器説. 紀伊国黒江漆工説」.  
 元ラベル: 「フ」. 印記: 「杉園蔵」. 大正2年7月21日購求

標題	差出	宛先	作成年	備考
漆器説 京都府	[京都府]			「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
漆器製法図				鉛筆書図
漆樹及漆著説	武田昌義, 山崎董詮			図略. 朱筆混交. 「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用. 東北地方説明
吉野漆詳説				彩色図入. 一部図 は鳩峰による
漆製造書上	遠江国敷知郡助信村名主 内藤三郎四郎㊦	浜松県 御守	明治5 年4月	図入
駿河国産漆の図, [採取器 具等図]				彩色図
漆作業図				彩色図
輪島漆器製造由来並手續書	能登国鳳至郡輪島鳳至町 橋本忠吉代判副郷長高森 万次郎㊦	七尾県 御役所	明治5 年7月 9日	
阿波国漆採取略記*				書名は標目による. 明治17年8月官報 抜粋. 小杉による 後補
漆液掻取概法*				書名は標目による. 明治19年11月15日 農商務公報第21号 抜粋. 小杉による

唐塗漆器調書	陸奥国津軽郡第廿区弘前紺屋町唐塗漆器家業六十七番屋敷青海源兵衛			後補
越中国射水郡漆器之説	越中国射水郡第十七大区高岡町塗物細工職石井勇助		明治5年6月13日	「博覧会事務局」8行朱罽紙使用
(高岡塗物書上書)(巻頭:「料紙箱出来方手続奉書上候」)	越中国射水郡第十七大区高岡町塗物細工職石井勇助 <sup>㊤</sup>		明治5年6月13日	前項と同一内容
紀州名草郡黒江村漆工図説	総代坂口利兵衛,青木利兵衛			彩色図入

十種略説 1冊 写本 26.5×19.0cm

<830-63>

書名は書外題による。標目「青花紙、薫物、紺青、岩紺青、岩緑青、雲母、赤滝石、其他石類、数種砥石、黒鉛、礬土、虫白蠟、樟腦」。印記:「杉園藏」。大正2年7月21日購求。

標題	作成者	宛先	成立	備考
青花紙説	山本章夫		(明治6年1月)	事務局「博覧会」8行朱色罽紙使用。『教草』と同一
江州栗田郡山田青花検査表	山本章夫,宮野昭,田中宣之		(明治5年頃)	
近江山田青花製造之図	鳩峰 [画]			彩色図
薫物之説 京都府	熊谷久兵衛			図入。「博覧会事務局」8行朱色罽紙使用
美濃国土岐郡下石村生産紺青書上帳	(下石村)副戸長安東東三郎 <sup>㊤</sup> ,副戸長林基助 <sup>㊤</sup> ,戸長加藤周助 <sup>㊤</sup>	岐阜県	明治5年7月	
岩紺録青荒石産地并製法略書 (巻頭:「岩紺青岩録青荒石産地銘書」)	長門国美祢郡長登村		明治5年5月	「田芳」朱円印あり。各丁に鉛筆書(三十九~四十四)あり
周防吉敷郡小鯖村雲母石製方略説并図 (巻頭:「雲母製方ノ略説并図」)	製造人吉敷郡上小鯖村畔頭鰐石伊左衛門組伊藤小市郎			内表紙右肩に「田芳」朱円印。表紙に「写済」とあり。各丁に鉛筆書(四十五~七)
福島県石之部				「博覧会事務局」8行朱色罽紙使用
梅ヶ畑本山越砥之説 京都府				図入。「博覧会事務局」8行朱色罽紙使用

(黒鉛 白蠟 礬土)				彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(石硯等につき) 記	八代県	博覧会事務局	明治5年7月	「八代県」8行青色罫紙使用
薩摩鉢山				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
樟脳并硫黄硝石之略説	江夏干城			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

殖産略説 写本 3冊 27.3×20.0cm

<830-45>

書名は元表紙書外題による。標目：上「菰米、稲穂図、紫草、紅藍、臙脂、韓種人參、漢種防風、朝鮮種黄芩、漢種白芷、木香、台州烏藥、朝鮮種山茱萸、漢種呉茱萸、同百部根、同黄茂、川芎、芍藥、地黄、牛膝、連翹、桔梗、独活、牡丹皮、薄荷、黄連、山槿子、大棗、漢種藁本、当歸、漢種貝母、同延胡索、同知母、同沙參、同白朮、同蒼朮、同酸棗仁、荊芥、鬱金、紫蘇、香薷、紅花、山梔子、胡荽子、蕙苡仁、前胡、竜胆、天南星、商陸、瓜 藹二、白桃花、烏梅、五味子、木天蓼、桑白皮、茯苓、神麴、土佐人參、津輕阿片、小倉桔梗、沙參、青森植物、菅菰、四方竹、実竹」、中「筑羽子、吉野榎、栗、ナラ榎実、紀伊ミかん培養図、同いとか橘園図、柿、信濃白柿、美濃柿油、柿渋、大和渋」、下「なんじゃもんじゃ、木曾山材、名取川埋木、杉板、巨竹、雲文竹、竹島竹、むささび、雙頭亀、ながら川の鵜飼、同あゆ、名取川鱒、金魚、真珠介、桔梗貝、毛だに」、元ラベル：「ナニ共三」、印記：「杉園蔵」大正2年7月21日購求上巻

標題	差出	宛先	作成	備考
菰米取調書 美濃国多芸郡有尾村	美濃国多芸郡有尾村戸長 田中藤左衛門	岐阜県御役所	明治5年7月	図入
下種ヨリ一切培養之方	美濃国不破郡赤坂村戸長 矢橋宗太郎、同副矢橋孫一、同矢橋勝三郎		明治5年8月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
稲穂図				書名は標目による。彩色図
小倉県紫草説				彩色図添付。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
紅藍著説	武田昌義、山崎董塗			朱筆混交。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
韓種人參著説	武田昌義、山崎董塗			朱筆混交。「博覧



				会事務局」8行朱色罨紙使用
大和宇陀ニ於テ製シ候薬品ノ目錄并精巧品若干并右ニ関係致候詳説	森野藤太、[森野]繁通 [述] <sup>46</sup>			標目「漢種防風」から「神麴」まで
土佐国高岡郡仁井田郷人參培養記	高知県土佐国高岡郡第五十二区仁井田郷寄留士族堀内六蔵安国		明治5年5月13日	彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
[青森県] 津軽阿片調書				「青森県」8行青色罨紙使用
小倉県下桔梗				彩色図添付。「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
小倉県下砂参				彩色図添付「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
青森県下植物部				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
宮城郡利府郷加瀬村十府菅菰由来	宮城県管下宮城郡戸長本郷貞吉		明治5年5月	「宮城県」8行黑色罨紙使用
宇多郡駒ヶ嶺村四方竹ノ由来	宮城県管下宇多郡戸長寺島鏡三郎		明治5年5月	「宮城県」8行黑色罨紙使用
宮城郡福浦島実竹由来	宮城県管下宮城郡戸長本郷貞吉		明治5年5月	「宮城県」8行黑色罨紙使用

## 中巻

標題	差出	宛先	作成	備考
筑羽子記 新治県管轄第二大区小四之区常陸国筑波郡筑波町	新治県管轄常陸国筑波郡筑波町戸長吉備万寿吉㊤、副戸長八木下精一㊤、同結束三郎㊤		明治5年9月12日	彩色図添付。紙高24.1cm
吉野榧				「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
豊岡県概説ノ内 丹波国水上郡岩屋村産栗				「博覧会事務局」10行朱色罨紙使用
筑摩県下木曾ナラ榧実并栃実製法書	王滝村名主松原彦右衛門		明治5年6月	彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罨紙使用
南紀有田川堤上ヨリ宮原村及山腹瑞橘培養之図(ほか)				彩色図5図
柿之説	信濃金田帰逸		明治4	

			年11月	
渋ヲ取ル柿写生	鳩峰 [画]			彩色図2図
加茂郡峰屋村名産枝柿	加茂郡峰屋村戸長堀部九平 <sup>㊤</sup> (文書により副戸長河合金蔵, 副戸長美濃和文蔵の名が見られる)	岐阜県御役所	明治5年6~7月	文書5通により構成
白柿並柿油説	山本章夫			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
柿ノ木調書	信陽飯田高坂督三郎		明治5年11月	図入
大和洗検査帳				

### 下巻

標題	差出	宛先	作成	備考
新治県下下総国神崎神社并神木明細書	神崎本宿戸長寺田敬三郎, 副戸長平野甚左衛門	新治県御庁	明治5年9月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
筑摩県下木曾山内材木仕出手順	信濃国筑摩郡木曾福嶋町村林半平	筑摩県御庁	明治5年10月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
〔宮城県埋木〕名取郡名取川埋木ノ由来	宮城県管下国分町戸長清水惣三郎		明治5年5月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
小倉県下杉板				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
浜松県下遠江国城東郡加茂村巨竹書	鈴木陸平, 岡田良一郎		明治5年6月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(日吉大神ニツキ)				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
犬上県下雲文竹	坂田郡西上坂村順慶寺	犬上県御庁	明治5年4月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
竹島ノ竹				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
鼯鼠				紙高24.6cm
双頭亀指出候添書	名東県参事久清断三 <sup>㊤</sup>	博覧事務局	明治6年3月28日	「名東県」8行黒色罫紙使用. 添書のみ. 紙高24.7cm
美濃国長良川鵜飼の説				彩色図入
(鵜飼ニ付回答書)	厚見郡岐阜魚屋町杉山半次郎, 加納松右衛門	岐阜県御役所	明治5年6月	「内務省」13行朱色罫紙使用
名取郡名取川鱒ノ説	宮城県管下名取郡戸長小倉長太郎		明治5年5月	「宮城県」8行黒色罫紙使用
金魚	井口直樹		明治6年1月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

			5日	
大村真珠介説				「長崎県」8行黒色罫紙
桔梗貝之記	第一大区小九区常陸国筑波郡足高村副戸長和泉権十郎㊦、戸長谷口弥一郎㊦	新治県御役所	明治5年10月	
秋田県下毛 蜻蛉略説	秋田県		明治5年6月	「博覧会事務局」10行朱色罫紙使用

製茶説 写本 1冊 26.5×18.9cm

<830-54>

書名は元表紙書外題による。元ラベル：「ナニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
製茶図説				彩色図入
製茶悉皆執行之図、茶樹之図、茶之実之図、茶之木之図、茶之葉之図	甲賀郡土山村			彩色図
製茶一式器械之図	甲賀郡土山村			彩色図
澳地利博覧会ニ付国産物品明細取調書上帳 甲賀郡土山村	甲賀郡第五区北土山村立岡長兵衛㊦、竹嶋万右衛門㊦	滋賀県御庁	明治5年5月	
深津県産亀石茶由来書				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
〔高知県〕土佐国安芸郡内原野産出シ茶詳説	小牧伝平直方		明治5年5月	表紙に後筆「高知県」
赤茶製法	嬉野式浪村山口卯右衛門		明治5年9月	「佐賀県」8行黒色罫紙使用。巻末「壬申九月藤津郡不動山村山口健蔵」
自然茶之説	江夏千城			彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(鹿児島県・都城県茶説) (巻頭：「茶」)				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

石油石炭略説 写本 1冊 26.9×19.2cm

<830-61>

書名は元表紙書外題による。元ラベル：「ナニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
石油御書上(巻頭：「御国	荊羽郡岩上村阿部慎一	柏崎御	明治5	「博覧会事務局」

産艸生水之儀御尋ニ付以口書奉申上候」)		役所	年8月3日	8行朱色罫紙使用
草生水出数書 石腦油書類 柏崎県 (巻頭：「頭城郡達野新田最寄拾ヶ村草生水油出数書上」)	右村々代兼雲藤寺新田池田九平,達野新田鈴木信平	柏崎県御庁	明治5年9月27日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
石油出所御書上 (巻頭：「草生水出所御尋ニ付乍恐以口上書奉申上候 三嶋郡岩田村」)	苅羽郡岩上村阿部慎一	柏崎県御役所	明治5年9月29日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
石油出処御書上 (巻頭：「御国産草生水出所御尋ニ付乍恐以口上書奉申上候 頸城郡松之山郷大荒戸村」)	苅羽郡岩上村阿部慎一	柏崎県御役所	明治5年9月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
越後国妙法寺村石腦油越後国柄目木村石腦油	矢島忠琢		明治5年7月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
石腦油説 長野県.			明治5年5月22日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用. 付あり <sup>47</sup>
[駿河国益頭郡越後島村豪農甲賀伊兵衛邸中火井につき]				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(石腦産出之地名ヶ所掘出之手続等につき回答書)	第貳拾三区蒲原郡柿目木新田天ヶ沢新田右両村草生水油稼人柿目木新田庄屋真柄茂雄,塩谷村金沢村右同断同村農真柄富左衛門,右兩人煩ニ付代柿目木新田庄屋真柄道三郎	新潟県御庁	明治5年8月23日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
炭礦略説 新竜吐水略図 (巻頭：「石炭略説」)	山口県炭礦懸 (押紙にて抹消)		明治5年6月 (押紙抹消)	彩色図入. 「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

造紙説 写本 2冊 26.5×19.0cm

<830-65>

書名は元表紙書外題による. 元ラベル：「フ共二」. 印記：「杉園蔵」. 大正2年7月21日購求

上巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
岐阜県下造紙之説	武儀郡上有知村製造調人正村平兵衛,元里正鈴木市		明治5年6月	彩色図入. 「博覧会事務局」8行朱

	郎右衛門			色罫紙使用
越前紙漉図説	越前国鶴賀県管轄今立郡 岩本村小林忠蔵	博覧会 事務局	明治5 年9月	附：奉書巻卷之 上り覚(値段書付。 紙漉職石老村加藤 助右衛門 [差出]。 小林忠蔵 [宛]。明 治5年9月2日作成)

下巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
四国産諸紙之説				彩色図入
阿波国 第五号 雁皮紙 製造ノ発端				彩色図入。「博覧 会事務局」8行朱 色罫紙使用
岐阜県下根尾紙之事	(美濃国) 本巢郡市場村元 組頭小野嶋庄之右衛門 <sup>48</sup>	岐阜県 御役所	明治5 年6月	彩色図入。「博覧 会事務局」8行朱 色罫紙使用
新川県下紙製方				「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
新川県下人造物				「博覧会事務局」 10行朱色罫紙使用

『国立国会図書館所蔵個人文庫展』2「古典籍探求の軌跡」25頁参照。

染物織物製絲略説 写本 1冊 26.4×18.7cm

<830-49>

書名は元表紙書外題による。標目：「かのか染。友禪染。あかね染。ずみ。黒八丈染。縮緬。きぬちぢみ。うづら織。びらうど。都留郡織。八反掛。白精好。生絲製方」。元ラベル：「フ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
鹿子染之説 京都府				「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
友染之説 京都府				図入。「博覧会事 務局」8行朱色罫 紙使用
茜製并染方梗概				「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
煎柄製法	井口直樹		明治5 年7月	紙高24.4cm
煉柄製法				
物産黒八丈染種書上	武州多摩郡五日市村元名 主土屋勘兵衛	神奈川 県御庁	明治5 年8月	「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用

			10日	
縮緬絹鶉織織立方御届書 縮緬仲間年行司共 (巻頭:「縮緬織立方申上」)	縮緬仲間年行司室村西川嘉平㊦、長浜大町増田孫七㊦、堀田村馬場七平㊦	犬上県御庁	明治5年5月24日	内表紙右肩に「品物未看」とあり
天鷲絨織立仕法之御答	長浜町天鷲絨織職惣代八幡町加藤与四太郎㊦	犬上県御庁	明治5年5月	
甲斐国都留郡織物製造由来書上	甲斐国都留郡第二区上谷村鈴木与次右衛門㊦		明治5年8月	図入. 附:「甲斐国都留郡在來機具之図」
生絲制法略説	御用掛信夫榮			彩色図入.「博覧会事務局」8行朱色罝紙使用
美濃郡上產生糸三位, 郡上一郡製出概算. 生糸手挽製造方概説. 生糸仕揚相底概算. 同車換製造方概説	岐阜県管下郡上郡八幡町宮川五平治㊦		明治5年6月	
美濃国郡上產生糸備積書	美濃国郡上郡八幡町宮川五平治㊦		明治5年6月	
生糸製方図				図
岐阜県下(蘭製造方二付)	恵那郡付知村曾我長四郎	岐阜県御庁	明治5年6月	彩色図入「博覧会事務局」8行朱色罝紙使用
[宮城県] 仙台ノ産八反掛織方法	宮城県貫属士族織物取捌人伊藤為治, 右為治養子伊藤竜蔵			「宮城県」8行黒色罝紙使用.『織物集説』『宮城県管下仙台ノ産八反掛織方法』と同一
白精好織方法	宮城県々下一等戸長清水惣三郎		明治5年5月	「宮城県」8行黒色罝紙使用.『織物集説』『宮城県白精好織物方法』と同一

烟草集説 写本 1冊 26.9×19.2cm

<830-56>

書名は元表紙書外題による. 元ラベル:「ナニ」. 印記:「杉園蔵」. 大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
烟草之説	安岡百樹, 狩野良信			彩色図入.「博覧会事務局」8行朱色罝紙使用. 附:丸葉烟草図解. 千枚葉烟草. 虫不食

				烟草
山本烟草之説 京都府				
烟草 タバコ 奈良県				彩色図。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
伊勢国三重郡千草村烟草之説(卷末:「烟草之説」)	丹波修治		明治6年10月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
烟草生育之説 木更津県下上総国周准郡小糸川近傍産				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
宇都宮県下 烟草				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
小田県下豊松烟草之説				「博覧会事務局」10行朱色罫紙使用
添状	山口県出張所	博覧会事務局	明治6年1月10日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
山口県管下烟草	山口県	博覧会事務局	明治5年11月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
目録				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
於赤間関葉烟草入出湊御届	東細江町福田五左衛門,西南部町増谷八十右衛門[差出]. 第一区副戸長伊藤房次郎 [添書]	支庁	明治5年3月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(烟草直段二付キ) 覚	下ノ関東細江町福田五左衛門,同西端町上村太次郎		明治5年10月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
名東県管下烟草				彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
都城県下国府烟草ノ説	戸長山内孝左衛門	博覧会事務局御掛り江夏千城	明治5年6月	「博覧会事務局」10行朱色罫紙使用
鹿児島県管下 薩摩烟草誌	戸長山内孝左衛門	博覧会事務局御掛り江夏千城	明治5年6月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
都城県管轄国分郷烟草詳説				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
鹿児島県管轄桜島烟草説				図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

			務局」紙使用
鹿児島県管轄揖宿郷 [煙草説]			「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用
都城県管轄小根占郷 [煙草説]			「博覧会事務局」 8行朱色罫紙使用

茶誌・宇治茶詳説 写本 1冊 26.7×19.0cm <830-41>

ともに図は省略。元ラベル：「ナニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

内容：茶誌3巻／山高信離（「博覧会事務局」8行朱色罫紙、補筆、訂正あり）。  
宇治茶集説

銅器之説 写本 1冊 26.9×19.3cm <830-42>

書名は元表紙書外題による。元ラベル：「フ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
銅器之説	伊藤平兵衛, 竜文堂安之助説(巻1), 中川浄益説(巻2), 金谷五郎三郎説(巻3), 藤屋九兵衛説(巻4), 金谷五郎三郎, 中川浄益説(補)			図入
武州足立郡川口町鑄物製造方法并起元略記図共埼玉県				図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
鑄物職器械一式并執業一切ノ図 近江国栗太郡辻村	栗田郡鑄物師太田猪三郎	滋賀県御庁	明治5年5月	彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
高岡金物製造由来並手続書(巻頭：「銅器製造由来書之事」)	第十七大区高岡町金物屋惣代水野佐七郎 <sup>㊤</sup> [差出] 第十七大区副戸長杉村義成 <sup>㊤</sup> [添書]	七尾県御役所	明治5年7月	図入
越中国射水郡銅器之説	越中射水郡第十七大区高岡町金物職金森宗七		明治5年6月17日	「文部省博物館」8行代赭色罫紙使用
美濃国武儀郡関村打刃物調査	戸長鹿取彦兵衛	岐阜県御役所	明治5年6月	二書あわせて「関打刃物并小道具調書 美濃国武儀郡関村」と内表紙あり
美濃国武儀郡関村打刃物并二小道具調書	副長広瀬惣右衛門, 戸長鹿取彦兵衛	岐阜県御役所	明治5年6月	



金山舗并金吹器械略図 山口県長門国美祢郡長登村			明治5 年5月	図入
----------------------------	--	--	------------	----

陶器集説 写本 4冊 26.5×18.7~26.8×19.2cm

<830-50>

書名は元表紙書外題による。標目：第1冊「京都栗田焼五条阪焼。近江信楽国分。尾張瀬戸赤津。美濃高山多治見。加賀九谷」。第2冊「尾張瀬戸赤津。美濃高山多治見下石。下野足利郡柘崎」。第3冊「近江甲賀郡神山同信楽庄長野。京都栗田焼五条坂焼」。第4冊「備前伊部。長門萩松本。筑前須恵高取上野。肥前有田。肥後八千郡高田。肥前三河内赤絵。薩摩高麗伝陶黒。朝鮮より被召渡留帳。同由来記。陶器沿革史。有田沿革史」。元ラベル：「フ共四」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

第1巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
京都五条阪焼陶器検査表				
栗田焼陶器検査表				彩色図入
近江信楽并国分之磁器				彩色図入
瀬戸磁器				
赤津村陶工起元				
美濃国土岐郡製産陶器来由出產製法図面書上帳	陶器世話人土岐郡高山村深萱惣助㊦多治見村加藤円治㊦		明治5年6月	
美濃国土岐郡製産陶器製法帳	陶器世話人土岐郡高山村深萱惣助㊦多治見村加藤円治㊦	岐阜県御役所	明治5年6月	
美濃国土岐郡製陶器書上帳	土岐郡高山村深萱惣助㊦多治見村加藤円治		明治5年6月	
陶器製造起元之事	九谷窯元中			紙高24.1cm
(茶壺図)				彩色図
一ヶ年造陶三窯之算当表	九谷窯元中			
(ホウロクほか覚書)				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

第2巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
瀬戸磁器				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用。第1巻「瀬戸磁器」と同一

赤津村陶工起元				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用。第1巻「赤津村陶工起元」と同一
瀬戸陶磁器調書覚（巻頭：「瀬戸邑磁器製造紀元」）	尾州春日井郡瀬戸村博覧会御用懸り加藤峯太郎,同加藤勘四郎,同加藤周兵衛,里正加藤吉右衛門			彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
美濃国土岐郡製産 陶器由来由産製法図面書上帳	陶器世話人土岐郡高山邨深萱惣助,多治見郡加藤円治		明治5年6月	図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用。巻頭肩に「第二十号」と朱書
美濃国土岐郡製産陶器製法帳	陶器世話人土岐郡高山村深萱惣助,多治見村加藤円治	岐阜県御役所	明治5年6月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
美濃国土岐郡製陶器書上帳	土岐郡高山邨深萱惣助,多治見邨加藤円治		明治5年6月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
美濃国土岐郡製産陶器製法帳	陶器世話人土岐郡高山村深萱惣助㊦,多治見村加藤円治㊦		明治5年6月	
陶器製造地土取調書上帳 美濃国土岐郡下石村	美濃国土岐郡下石村副戸長安藤東三郎,副戸長林甚助,戸長加藤周助	岐阜県	明治5年7月	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
栃木県焼物由来口上書 第五拾壹区足利郡杣崎村	橋本忠平	栃木県御役所	明治5年7月5日	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

### 第3巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
陶器製造員数取検査詳細書上帳 近江国甲賀郡神山村（巻頭：「乍恐奉書上陶器製造取調覚」）	甲賀神山村百姓代川口武助㊦,年寄神山市郎兵衛㊦,庄屋神山桂蔵㊦,同郡江田村年寄藤田伊三郎㊦,庄屋辻徳右衛門㊦,同郡小川村年寄杉本甚右衛門㊦,庄屋村木長右衛門㊦,同郡小川出村年寄相米万助㊦,庄屋森喜十郎㊦,同郡柳原村年寄植西徳左衛門㊦,同郡勅使村年寄沢久次郎㊦,同宇多治郎兵衛㊦,同郡牧村年寄里見弥助㊦,庄屋勝見勘兵衛㊦,同郡黄瀬村年寄安田与八㊦,庄屋田井中伊蔵㊦	滋賀県御庁	明治5年5月	

陶器製造取検査図面書上帳 近江国甲賀郡神山村	甲賀郡神山村百姓代川口武助 <sup>㊦</sup> 年寄神山市郎兵衛 <sup>㊦</sup> 、庄屋神山桂藏 <sup>㊦</sup>	滋賀県御庁	明治5年5月	彩色図
陶器製造員数取調詳細書上帳 近江国甲賀郡長野村（巻頭：「乍恐奉書上候陶器製造取調書」）	（近江国）甲賀郡長野村年寄石野五兵衛 <sup>㊦</sup> 、年寄奥田庄左衛門 <sup>㊦</sup> 、庄屋加藤彦太郎 <sup>㊦</sup>	滋賀県御庁	明治5年5月	
陶器製造図面取調書上帳 近江国甲賀郡長野村	長野村年寄奥田庄左衛門 <sup>㊦</sup> 、庄屋加藤彦太郎	滋賀県御庁	明治5年5月	彩色図入
西京栗田陶器製造并機械図				彩色図
五条阪焼製造諸具之図				図
栗田焼製造諸具之図				彩色図入
(図)				図入
(久谷細工道具・窑道具・陶器電之図)				彩色図入

#### 第4巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
伊部陶器				図入。「博覽会事務局」8行朱色罫紙使用
長門国阿武郡萩松本磁器製造之説并器械之図	製造人坂高麗左衛門、嫡子次郎熊		明治5年6月	図入
松本焼楽焼由来製造之説	長門萩松下村住陶工師三輪東藏			図入。「博覽会事務局」8行朱色罫紙使用
(筑前須恵陶器) (巻頭：「人造品之部第一号須恵陶製火盆」)	製主 筑前国早良郡福岡醬油屋忠平			「博覽会事務局」8行朱色罫紙使用
第二号高取製陶器	製主 筑前国早良郡鹿原村高取英一、山口化倦			「博覽会事務局」8行朱色罫紙使用
(筑前上野) 陶器	田川郡上野村吉田喜藤太、渡濃四郎、十時器十郎			「博覽会事務局」8行朱色罫紙使用
肥後 澳国博覽会江差出候物品御届	八代県	博覽会事務局	明治5年5月29日	「博覽会事務局」8行朱色罫紙使用
肥後国八代県高田郷陶器之由来				「博覽会事務局」8行朱色罫紙使用
有田陶器製造概略*				「臨時全国宝物取調局」13行朱罫紙使用。「明治十一年取調」とあり

(陶器図)				
長崎県管下三河内磁器製造並二起原略説附赤絵法(巻頭:「長崎県管轄下第六十四区内二ノ小区折尾瀬村三川内ト云フ陶器山」)				
系図申伝覚 朝鮮人ユモカイ人焼物師 巨関	今村楚八		明治5年10月	
赤絵由緒 平戸三川内山(巻頭:「赤絵由緒之事」)				
高麗伝陶器起元製造書(巻頭:「薩摩 磁器製造起元之事」)				図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
先年朝鮮より被召渡留帳	役人車金円㊦,右同鄭仙益㊦,与頭沈孟順㊦,右同朴寿悦㊦,右同金孟庵㊦		明治5年5月25日	
先年朝鮮より被召渡由来記 笠野原	役人車金円㊦,右同鄭仙益㊦,与頭沈孟順㊦,右同朴寿悦㊦,右同金孟庵㊦		明治5年5月25日	古文書5通の写からなる
陶器沿革史(巻頭:「陶器史」)	佐賀県肥前国西松浦郡有田工(「磁」と朱筆訂正)業会議所		[明治22年]刊行	活版印刷
有田沿革史(巻頭:「沿革史」)	佐賀県肥前国西松浦郡有田工(「磁」と朱筆訂正)業会議所			活版印刷。明治16年の記事あり

陶器弁解 写本(明治5年序) 1帖 26.7×19.4cm <830-134>  
書名は書題箋による。折本。裏表紙は帝国図書館表紙のみ。彩色図入。元ラベル:「フ」。印記:「杉園蔵」。大正5年4月21日購求

序の作成者「栗田陶生丹山青海」は博覧会に関与しているので、ウィーン万国博覧会の項に分類した。

布麻説 写本 1冊 26.4×18.8cm <830-55>  
書名は元表紙書外題による。元ラベル:「ナニ」。印記:「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
遠州掛川産葛苧之記				図入
芭蕉布之説	南部陳			図入。「博覧会事務局」

				局] 8行朱色罫紙使用
鳥取県 木槿産地名并二製法				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
葛布検査条例				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
鳥取県 荒苧・扱苧				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
苧麻著説	武田昌義,山崎董詮			朱筆混交,「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
大麻著説	武田昌義,山崎董詮			朱筆混交,「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
(芭蕉布説)	江夏 [干城]			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
越後国魚沼郡白縮製造始末	魚沼郡堀之内村副戸長張田八郎兵衛㊦,同宮治兵衛㊦,戸長宮源左衛門㊦	柏崎県御役所	明治5年8月7日	
柏崎県 越後縮織立方法	柏崎県管轄第五大区一小区小千谷町戸長西脇清一郎㊦,副戸長野口休兵衛㊦,同断渡辺太左衛門㊦,同断野沢小左衛門㊦,同断広川利兵衛㊦,同断小島嘉兵衛㊦,同断小船井喜右衛門㊦,同段山本庄左衛門㊦ [作成], 第五大区長佐藤半左衛門㊦ [添書]	柏崎県御庁	明治5年9月13日	
越後国魚沼郡藍錆色カスリ縮製造普	越後国魚沼郡第二十六区塩沢村戸副長青木佐吉㊦,戸長井口六郎治㊦,井口周作㊦	柏崎県御庁	明治5年8月	
縞紬仕立方	古志郡栃尾瀬村戸長品川岩太㊦	柏崎県御役所	明治5年9月12日	
上 魚沼郡十日町 (縮布仕法)	魚沼郡十日町副戸長根津五郎次㊦,戸長燕木八郎㊦,戸長上村藤太㊦,戸長関口伊八郎㊦	柏崎県御役所	明治5年9月17日	

時絵図塗物油絵法附 写本 1冊 26.7×19.2cm

<830-60>

裏表紙は「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用. 元ラベル: 「フ」. 印記: 「杉

園蔵]. 大正2年7月21日購求

内容：蒔絵記／池田泰貞（図入、鉛筆書）。塗物油絵法

綿布蘭説 写本 1冊 26.7×19.2cm

<830-58>

元ラベル：「ナニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
紬木綿糸製方同織立方法 下総国結城郡結城町				
遠州産 <sup>本種</sup> 糸製之図				図
遠州産草綿製記				図
苧麻培養製糸略図説（巻頭：「苧麻和名からむし」、版心：「織元商社」） 越後国縮布製造唐虫製糸	東京織元社中  矢島忠琢		明治3年12月刊 明治5年7月	図入。紙高22.6cm
近江国野洲郡兵主産縞布 明細取調書				
近江国野洲郡兵主産縞布 一々執業之図				彩色図
近江国野洲郡兵主産縞布 器械之図				彩色図
細上布	[伊地知小十郎述、江夏千城編]			彩色図入。「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
宮城県管下宮城郡利府郷 加瀬村十府菅菰由来	宮城県管下宮城郡戸長本郷貞吉		明治5年5月	「文部省」8行朱色罫紙使用
江州八幡武佐畳表検査表	山本章夫、宮野昭、田中宣之			
深津県産蘭草由来書				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

養蚕集説 写本 2冊 26.7×19.0cm（第2冊紙高は26.0cm）

<830-57>

書名は元表紙書外題による。元ラベル：「ナニ共ニ」。印記：「杉園蔵」。大正2年7月21日購求

上巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
養蚕姐之論（巻頭：「養蚕試験方御布告奉報答之巻」）	美濃郡上市人宮川孟弼		明治3年8月	紙高24.5cm。付：添状あり（郡上郡八幡町宮川五平治㊦〔作成〕。岐阜県御役所〔宛〕。

				明治5年6月)
加州経験養蚕説 金沢藩	兵村隆介		明治3年7月	紙高23.5cm. 「受付掛」[神山]印あり
養蚕病種考 (巻頭:「蚕のさなきに蛆の生ずる論」)	濃州郡上郡上市人紙屋五平治		明治3年8月	彩色図入. 紙高25.2cm
養蚕方御下問御請書	濃州郡上郡上市人紙屋五平治		明治3年9月	
上 (養蚕について)	京都府勸業掛附属矢嶋金三郎		明治3年7月	図入. 紙高26.2cm
草稿繭種之部			明治5年頃	「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用

### 下巻

標題	作成者	宛先	成立	備考
養蚕 御下問ニ付申上之覚				
夏蚕の説				
桑樹の説				図入
春蚕卵紙の説				
養蚕場巡行日記	アスオアタムス			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用. 巻頭に「千八百七十年八月十日」とあり. 巻末に「民部省ヨリ達セシ第一号報告書民部卿伊達氏ヨリ達セシ第二号報告書」とあり

蠟集説 写本 1冊 26.9×19.2cm

<830-52>

書名は元表紙書外題による. 元ラベル: 「ナニ」. 印記: 「杉園蔵」. 大正2年7月21日購求

標題	作成者	宛先	成立	備考
神山下檣蠟之説 (巻頭:「神山下伊予国四郡檣蠟之説」)	大蔵権中録安岡百樹, 狩野良信		明治5年8月	彩色図入
檣蠟製法図説	和歌山新留町森善右衛門			彩色図入
罌子桐乃下種より製油迄の略記				「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
差上目録	鴨田清次郎, 佐々井半十郎		明治5	「博覧会事務局」

			年7月	8行朱色罫紙使用
罌子桐ノ図	仰山画			彩色図
榊実油製造願書	出石県願人山崎良三 [差出]. 静岡県差添笹田右十郎 [差添]	木実油製造社中	明治4年7月2日	付: 木実油製造規則 / 木実製造社中 [作成] (明治4年10月15日), 紙高24.9cm
(ハゼロウ図)	丹波修治, 溝口月耕			彩色図
生蠟 豊前全国				「小倉県」8行黒罫紙使用
漆蠟著説	武田昌義, 山崎董涇			「博覧会事務局」8行朱色罫紙使用
漆木実製方書上 若松県第五十六区九嶋村	若松県第五十六区九嶋村木主斎藤新太郎㊤, 右村戸長斎藤浜大郎㊤		明治5年10月	図入
物産蠟製法之事件 長崎県	島原太田弁三郎		明治5年7月	
蠟製法并器械之図	島原太田弁三郎 [述]. 産物掛 [差出]		明治5年7月	図入, 紙高26.0cm

### <そのほかの小杉榎邨旧蔵書>

神楽大前帳 写本 1冊 20.9×13.4cm

<831-110>

書名は内表紙書外題による。角書「屋代弘賢翁書写本」。尾書「附水白拍子」。元表紙書題箋「けいはり くゝ様」。元ラベルあり。印記: 「杉園蔵」。大正12年7月16日購求

紀伊国古文書 本居内遠編 写本 15冊 26.8×19.1cm

<わ216-1 / 元請求記号: ね-43>

元ラベル: 「サ五共十五」。印記: 「杉園蔵」「南葵文庫」。昭和8年12月20日購求

内容: 藩中文書。名草郡古文書。伊都郡古文書。那賀郡古文書。海部郡古文書。在田郡日高郡古文書。牟婁郡古文書。古文書纂凡例\*。藩領伊勢国松阪及田丸文書

諸織物縞本集帳 附録古代切張 写本 (織物貼込帳) 2冊 32.6×23.4cm (第1冊) ~21.2×15.7cm (第2冊)

<寄別3-3-3 / 元請求記号: ひ-84>

印記: 「杉園蔵」(第1冊)「榊原家蔵」(第2冊)。大正5年9月22日購求

内容: 第1冊: 諸織物縞本集帳 (御支配所上州山田郡桐生新町絹買次商惣代小



暮久三郎,新井長平,書上嘉十郎,組頭田中要一郎,岩下才作,組頭戸長副兼金谷九十郎,名主書上文八郎,戸長佐和安平 [作成],栃木県御役所 [宛], 明治5年5月. 印記: 「杉園蔵」. **第2冊**: 古代切帳 (巻末に太槻如電識語あり. 印記: 「榊原家蔵」)

## 目録編注記

- (1) 「明治廿年二月借狩谷望之手沢本加藤直種蔵本写 新井政毅 (朱書) / 明治廿年三月三日借新井政毅本写之畢 川崎千虎」。と識語がある。
- (2) 成立は「明治壬申七月廿三日糞心道人」により明治5年と分かる。「この青盜説一冊立之の跋ある手沢本今加藤直種所蔵に帰するをかりて加之はしりかきに手間しをへぬ 杉園老人 青磁鑑定書ト云モノ別ニアリ、コ、ニ参着スヘシ、其著 (数字分空欄) ニ収ム」と小杉榎邨識語がある。森立之本識語「或家収蔵節約本巻尾云右青盜説一卷菊庵奈須翁所著凡十九張前十張余所自写後九張孫女鈺所書竟、校正文字即手親糊釘為冊子 明治丙子八月廿五日枳園森立之」を移写している。
- (3) 巻末に「南部晋か白川家の原本に就てうつしとれるをこひ得て余が秘架におく 老杉園主人㊦」と小杉榎邨識語がある。
- (4) 巻末に「右以神祇伯雅喬王真蹟之本謹臨写之畢 明治戊辰冬 神祇伯白川家准学師 南部晋七郎 源棟㊦」「明治四十年四月以故神祇伯王家珍藏之原本遂校訂了 東京四谷区塩町白川子爵邸ニ而 南部源晋識㊦㊦」の識語、及び「南部晋か雅喬王の真臨本に就てかくうつしとれるを余もともに白川家秘蔵本に比校して後晋にこひ得て秘架におくものとす 明治四十年四月 小杉榎邨㊦」との小杉榎邨識語を付す。
- (5) 巻末に「右以希烈卿自筆之本所臨書尤可為証本者也 南部晋㊦ 明治三十年三月四日」「明治三十年五月十二日一校了 従六位祝部宿祢 希徳 (花押)」との識語がある。
- (6) 巻末に「明治二十六年二月 南部晋写」との南部晋識語及び「この一冊南部晋賜る所なれば参政に備へむとて秘架におくものとす 老杉園㊦」との小杉榎邨識語ある。
- (7) 奥書に「享保十一年丙午臘月吉旦 日吉正禰宜従三位祝部宿祢行茂謹記」とある。
- (8) 明治28年の宝物取調の關係資料。文中に「(前略) 明治廿八年十月廿日全国宝物取調局御係御出張ノ節差出シタル毛越寺一山宝物目録書中 (後略)」とある。
- (9) 「文化八年夏借阿久沢牛助蔵本課荻野董長書写以納不忍文庫 源弘賢」との屋

代弘賢識語を移写している。

- (10) 明治10年の記事がみえる。巻頭に「此原稿御用済必御返却有之度事」と小杉楯邨の識語がある。
- (11) 青木信寅本の写本。「右青磁鑑定書 文化十四年初冬下川賢昌写之 天保九年戊仲冬 比志島良知写之 以青木信寅蔵書写之 小杉楯邨」とある。また、「那須玄竹カ筆記スル青瓷説ト云モノヲ曾テ得テ自ラ写シテ以テ別ニ工芸一斑ニ収ム、參着スヘキモノナリ」との小杉楯邨識語もある。
- (12) 「右徳川家蔵書を以て写之 明治廿三年十月愛知県下宝物調として出張のをり名古屋上園町の丸谷文左衛門か家にかりゐする時なり」との識語がある。
- (13) 栗田寛本の写本。巻末に「就栗田氏手写本謄写之 明治九年十二月九日 小杉楯邨」と小杉楯邨識語がある。また、「右一卷就御巫清直自筆本写之 明治九年七月二日 栗田寛」と栗田本奥書を移写している。
- (14) 「巳十二月中太政官へ差出写」と記されている。
- (15) 「この花さく松一冊ハ天明八年戊申塙校保己一か撰ふ処なり、就塙氏清書本一校 明治十年十一月 (杉園花押)」と小杉楯邨識語がある。また、付属資料の生駒周蔵書簡末には「右一則彰考館本花咲松ニ挿入セリ今忿率謄写候 明治十二年六月 杉園」とある。
- (16) 「頃日命ヲ奉シテ史略選述ノ挙アリ、時ニ友人小中村清矩水戸藤田氏ノ長慶院即位弁ヲ以テ余ニ示ス、余乃一読シテ遂ニ弁々ヲ記シテ以テ大方ニ質ス 明治六年十月三日木村正辞識」との奥書がある。
- (17) 「明治六年十一月三十日退省後從午後八時前至十一時後灯下採筆草卒考録恐多僻事重可訂正者也 小中村清矩」との奥書がある。
- (18) 巻頭に「藤田氏花咲松ノ弁ヲ記シタルヲ余亦コレヲ弁シテ弁々ヲ書タルニ友人小中村清矩余カ説ヲ駁セリ然ルニ其駁ニ於テ余未タ之ヲ甘ンセス因テ又コレニ答ヘ且小中村氏ノ説ヲ弁ス」とあり、巻末に「明治六年十二月十五日夜木村正辞識」との奥書がある。
- (19) 「明治八年十一月十日早起祝痾頓ニ発テ無聊殊甚シ、即チ筆ヲ把テ忽ニ稿ヲ起シテ後第十二時ニ至テ終フ、時ニ寒威凜々鉄ヨリ冷ナルヲ覺ユ 茨城県士栗田寛謹稿」と奥書がある。
- (20) 「天保九年十一月十日夜半記畢 穂井田忠友」とある。本奥書「右本書者加表装蔵之一帙今伝写以附前問答之巻尾云 天保十一年庚子五月 寺村成相」、奥書に「右一冊東京図書館本謄写成 小杉楯邨」とある。
- (21) 巻末に「寛政十二年九月泊酒舎」とある。また、頭註に「友人伴氏云此考ハ田安中納言宗武殿ナリ御著述ノ采雅ノ中ニアリトイヘリコノ采雅ハ世二稀ナ

ルモノナリ伴氏珍藏サレタリ」とある。

- (22) 「文久二年七月中元日率尔令草案了 小中村清矩」と奥書がある。
- (23) 「文久二年八月三日麻疹流行甚時書記了 小中村清矩」と奥書がある。
- (24) 「大八州会雑誌料七月ニ出八月余出」と小杉樞邨識語がある。
- (25) 卷末に「大八州雑誌料惣稿差上申候、宜敷御修正可下候、扱、卷三惣説中（訂正内容略）右二条後卷ニ正誤御出し奉願候、頓首 九月十四日、木村正辞 小杉先生侍史」木村正辞自筆朱書がある。
- (26) 「十九年」と小杉樞邨識語がある。
- (27) 「安永五年六月 濃州新福寺現住大嶽和尚 右抄出同年二月朔日しるし置く」とある。
- (28) 「延宝元年癸丑九月廿三日 弘文院学士兼礼部尚書林恕之道誌」「右改元格一卷拋同学所蔵之書写以充叢書弘文館学士姓林名恕字之道別号鷲峰世之所謂春齋先生是也今臨写是書姑書以為左券 元文元年丙辰六月辛卯 東海平維章子文跋」
- (29) 卷末に大久保忠寄識語を移写している。「伊勢貞丈慶舟カ図画ニヨツテ故実ノ考証ヲ正シ所画ノ図別ニ附ス 丙申十月廿二日 藤原忠寄」。
- (30) 内表紙（裏）の見返し部分に付箋「此考ヲ上木ナサハ漫ニ梨東ヲ費ス者ト云ヘシ、ヨシヤ梓行シタリトモ見ル者少カルヘシ然レトモ上木ノ許スト許サ、ルトハ諸君ノ衆論ニ従フヘシ㊦（印文：「小中村」）」とある。
- (31) 附録は「日本大家論集の中「第六卷第四号」川崎三郎か述へたる定信朝臣伝」。
- (32) 識語「こは片山賢の男大路にかたらひうつしおきぬ 杉園」とある。
- (33) 二宮は「徳島県阿波国美馬郡猪尻村中講義」。
- (34) 浜田は「玉前神社禰宜兼中講義土佐国人」。
- (35) 成立の事情に関する明治九年五月の本居豊穎の識語を移写している。
- (36) 「嘉永七甲寅年秋七月念六日応阿斯能屋檢校需一夕急速採筆於灯下僅記其概略他日待閑暇日徐可再考者也 洲居」。小杉樞邨筆。
- (37) 「和訓栞」「新入手簡」「租稅考」「東雅」「一話一言」からの引用。
- (38) 奥書に「右一書或問之答也、而其事問有係田制者秘而蔵書管底焉頃出而觀之蠹食既殆半置而失之者亦似可惜取而存之者固不我意名鷗肋問答姑挿于此云 天保戊戌秋七月 玉江大内正敬識」ある。
- (39) 卷末に「以水戸人榊徳隣蔵本謄写 明治九年三月 小杉園」と小杉樞邨自筆識語あり。
- (40) 卷末に「寛文九己酉歲洛陽製薬家遠藤元理編／宝永五戊子春閏正月書写二月上浣校閱恕菴子洞甫」とある。

- (41) 小中村清矩識語のを小杉楡邨が朱筆で移写している。
- (42) 卷末に「この異本古量考といふもの屋代先生の池底叢書に収載せり、恐らく屋代翁の説なるへし、また古升の事同翁の道の幸の付録にも古量考としてそへられたり、照会すへし、またちかきころ刊行する所の尚古図録二編に古升の撮本ありて横山由清か説を挙たり（中略）なほ別に掲載して後日こまかに考課せむとす 明治十一年三月 楡邨」と小杉楡邨識語がある。
- (43) 「コノ山藍ノ図ハ粗図ナリ明治六年四月十二日南部陳ヨリ受取町田正五位殿へ伺出候処想像ノ図故閉置候様被命」と識語がある。
- (44) 序末には「右安岡百樹之談巴菰記中之一章今抄録于卷首而以摸序云爾 明治壬申秋九月 南部陳誌」とある。
- (45) 奥書に「右甘蔗記一卷以織田賢司蔵本 明治六年第一月三十有一日謄写之畢 博覧会事務局御用掛 大蔵中録安岡百樹謹写」とある。
- (46) 「(前略) 森野藤太并隠居繁通へ問合藥品製法書并種植法左之通」とある。
- (47) 附録内容：「産出之地名・産出高・代価」／石炭油会社〔作成〕(明治5年10月)．精製之方法／石炭油会社柳沢碌六〔作成〕(図入,明治5年10月)。
- (48) 美濃国内三二名の渡屋連名によって作成された調査を小野嶋庄之右衛門の名前で差し出したもの。
- (49) 「右塗物油絵法一冊駒塚愚一より借抄」と識語がある。